



C2  
4  
1

治二十年

# 法令全書

下卷

內閣官報局

# 法令全書



明治二十年一月四日

## 法令全書

○宮内省達第一號

華族就學規則左ノ通改正ス

明治二十年一月四日

華族就學規則

第一條 華族男子ノ學齡ハ滿六年以上滿二十二年以下トス

第二條 華族男子ニシテ學齡ニ當ル者ハ學習院ニ入學シ一定ノ學科ヲ修ムヘシ

第三條 中學校以上ノ生徒ハ學習院ニ寄宿スヘシ但疾病又ハ正當ノ事故ニ因リ寄宿スルコト能ハサル者ハ學習院長ノ許可ヲ經テ通學スルコトヲ得

第四條 東京住居ノ學齡者ニシテ滿六年以上十年未滿ノ者正當ノ事由アリテ學習院ニ入學スルト能ハサルトキハ宮内大臣ノ許可ヲ經テ他ノ小學校ニ入學シ小學尋常科ヲ修ムルコトヲ得

第五條 地方住居ノ學齡者ニシテ滿六年以上十二年未滿ノ者學習院ニ入學スルト能ハサルトキハ其地方ノ小學校ニ入學シ小學尋常科若クハ中學豫備ノ小學課程ヲ修ムルコトヲ得

第六條 學齡者ニシテ第四條第五條ニ依リ未タ學習院ニ入ラサル者該條規定ノ年齡以外ニ至リ疾病ノ爲メ正當ノ教育ニ堪ヘサルカ或ハ正當ノ事故ニ依リ遠ク其家ヲ離ルハコト能ハサル者アルトキハ宮内大臣ニ出願シ許可ヲ經テ學習院外ノ學校ニ於テ修學スルコトヲ得

第七條 學齡者疾病ニ因リ學習院若クハ他ノ學校ニ入學スルト能ハサルトキハ醫師ノ診斷證書ヲ添ヘ宮内大臣ニ出願シ許可ヲ得ヘシ

華族

宮内大臣伯爵伊藤博文

明治二十年一月四日 宮内省第一號

638429

第八條 學習院生徒ニシテ陸海軍ノ學校ニ入學セント欲スル者ハ學習院長ノ許可ヲ經テ其召募ニ應スヘシ

第九條 學習院中學校以上ノ生徒ニシテ學習院本科並ニ陸海軍學校ニ入ルノ外適當ノ專門學校ニ入ルノ志アル者ハ宮内大臣ノ許可ヲ經テ入學スルコトヲ得

第十條 事故アリテ未ダ學習院ニ入ラサル者ト雖モ宮内大臣ノ許可ヲ經テ陸海軍學校若クハ他ノ專門學校ノ召募ニ應シ其入學試験ニ合格シタルトキハ直チニ該學校ニ入ルコトヲ得

第十一條 左ノ各項ニ該當スル者ハ宮内大臣ノ許可ヲ經テ學習院ヲ退學スルコトヲ得

一 任官ニ因リ修學ノ餘暇ナキ者  
一 疾病ニ罹リ成學ノ目的ナキ者  
一 正當ノ事故ニ因リ他府縣下ニ轉住又ハ歸住セサルヲ得サル者

第十二條 左ノ各項ニ該當スル者ハ學習院長ノ承認ヲ經テ學習院ヲ退學スルコトヲ得

一 海外留學ノ許可ヲ得タル者  
一 第八條第九條ノ手續ヲ經テ入學試験ニ合格シタル者  
一 學齡ヲ超過シタル者

第十三條 學齡者ニシテ海外留學ヲ志スカ又ハ陸海軍學校ヲ除クノ外他ノ專門學校ニ入ルノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シシカ爲メ適當ノ學校又ハ教師ニ就キ修學セントコトヲ望ム者ハ學習院生徒ハ學習院長ニ其他ハ宮内大臣ニ出願スヘシ宮内大臣及學習院長ハ正當ノ事由アリト認ムルトキハ年月ヲ限り之ヲ許可スルコトアルヘシ

第十四條 第十三條ノ許可ヲ受ケタル者ハ學習院生徒タルト否トニ拘ラズ學業上總テ學習院長ノ監督ヲ受クヘシ學習院長ハ適宜ノ方法ニ依リ其學力ノ進度ヲ查察シ進歩ノ效ナシト認ムルトキハ期限內ト雖モ再ビ學習院ノ課業ニ就カシメ又ハ宮内大臣ニ上申スヘシ

第十五條 學習院及他ノ學校ニ在學ノ生徒ニシテ疾病ヲ除クノ外三週日以上ニ涉リ私ノ事故ヲ以テ課業ヲ缺クコトアルトキハ學習院生徒ハ學習院長ニ其他ハ宮内大臣ニ出願スヘシ宮内大臣及學習院長ハ正當ノ事由アリト認ムルトキハ之ヲ許可スヘシ

第十六條 學齡者ニシテ學習院ニ於テ修學セシ他ノ學校或ハ他ノ教師ニ就テ修學スル者及海外ニ留學スル者ハ毎學期其修業シタル課程ヲ記載シ華族局長官及學習院長ニ届出ヘシ

第十七條 學齡ニ至リ故ナク學ニ就カサル者或ハ學ニ就クノ後修業ヲ怠ル者アルトキハ宮内大臣ハ華族局長官ヲシテ其戸主又ハ後見人ヲ督責セシム

第十八條 許可ヲ得テ他ノ小學校等ニ就學スル者ハ宮内大臣時宜ニ因リ相當ノ官員ヲ派遣シ修學ノ實況ヲ視察セシムルコトアルヘシ

第十九條 學齡者ノ就學未就學ニ關スル事項及其督責獎勵等ニ關スル事務ハ華族局長官ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ

第二十條 華族局長官ハ毎年兩度一月八月ニ於テ來學期度華族ノ男子就學年齡ノ者ヲ取調ヘ其名簿ヲ作り宮内大臣ニ上申シ且學習院長ニ報告スヘシ

第二十一條 華族局長官ハ學習院外ニ在ル學齡者ノ修學ニ關スル事項ヲ取調ヘ時々之ヲ學習院長ニ報告シ又學習院長ハ學習院生徒ニ關スル事項ヲ取調ヘ時々之ヲ華族局長官ニ報告スヘシ

第二十二條 就學及修學ニ關スル督責ヲ受ケ正當ノ理由ナクシテ之ヲ緩慢ニ付スル者及紀律ヲ犯シ退學ヲ命セラレタル者ハ共ニ懲戒ノ處分ヲ被ルコトアルヘシ

第二十三條 退學ヲ命セラレタル者一年ノ後親族進證シテ學習院ヘ入學ヲ請フトキハ宮内大臣ハ其事情ニ因リ之ヲ許可スルコトアルヘシ

○陸達第一號

大阪衛戍諸兵隊部署及人員表分遣衛兵中兵庫石堡塔及目標山衛兵ノ區畫ヲ削除セラル  
明治二十年一月十一日  
陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸達第二號

戰時公用行李并將校用行李製式別紙之通定 (別紙略ス)  
但シ將校行李中ニ收メ携行スヘキ物品ハ概テ別表之通心得ヘシ  
明治二十年一月十四日  
陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸達第三號

諸抵當公債證書價格算定之義去ル十五年乙第五十三號ヲ以テ相違置候趣モ有之候處自今糶米搗精  
被服裁縫等條約ニ付一時官品ヲ可下渡抵當ニ係ル價格ハ時價ヨリ一割引ヲ以テ其他條約上單ニ身  
元ノ保證ニ要スル價格ハ時價ヲ以テ差出サスヘシ  
但各所管各隊ニ於テ本文條約ニカカリ原價百圓未滿之品ヲ下渡ストキハ從前之通  
明治二十年一月十八日  
陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸達第四號

陸軍禮式別冊之通被相定  
明治二十年一月十九日  
陸軍大臣伯爵大山 巖

(別冊)

爰ニ陸軍禮式ヲ裁定セラル夫レ禮式ノ軍人ニ於ケルヤ重キコト常人ニ倍徒スルハ其儀容ヲ整肅シ  
秩序ヲ崇重スル必ス此ニ於テセサル可カラサルヲ以テナリ而シテ此禮儀ノ主トスル所ハ唯外貌ノ  
ヨニ在ラズシテ最モ中心ニ在ル者トス心苟モ恭敬ナラサレハ外貌或ハ整肅ヲ表スルモ唯是レ虛文

假飾ニシテ決シテ眞正ノ禮儀ニ非ス故ニ之ヲ遵守スル者モ必ス先ツ德義ヲ内ニ養ヒテ然ル後儀容ヲ外ニ整ヘ外禮内徳相須ツテ常ニ其度ヲ上進ス可シ果シテ此ノ如クシハ其儀容嚴肅ノ中自ラ和氣ノ藹然タルヲ表シ眞ニ國家ノ光華タルニ負カサラン從來我陸軍ノ禮式未ダ完備セズ是ニ於テ特ニ委員ヲ設ケ之ヲ審査セシム今之ヲ頒行スルニ臨ミ聊カ敷衍ヲ加ヘ禮式ノ要旨ヲ示スト云フ

明治三十年二月

陸軍禮式目次

陸軍大臣伯爵大山 巖

總則

第一編 敬禮

第二章 軍人ノ敬禮

甲 室内ノ敬禮

其一 通則

其二 將校ノ敬禮

其三 下士兵卒ノ敬禮

乙 室外ノ敬禮

其一 通則

其二 將校ノ敬禮

其三 下士兵卒ノ敬禮

第三章 軍隊ノ敬禮

甲 停止間ノ敬禮

乙 行進間ノ敬禮

丙 途步行進間ノ敬禮

丁 演習間ノ敬禮

第三章 衛兵及歩哨ノ敬禮

甲 衛兵ノ敬禮

乙 歩哨ノ敬禮

第二編 儀仗

第一章 儀仗

甲 儀仗隊

乙 儀仗衛兵

第二章 迎送及伺候式

甲 迎送式

乙 伺候式

第三章 觀兵式

甲 閱兵式

乙 分列式

第四章 禮砲式

陸軍禮式

總則

第一條 陸軍禮式ヲ分テ二トシ更ニ之ヲ分テ七トス即チ左ノ如シ

其一 敬禮

- 一 軍人ノ敬禮
- 一 軍隊ノ敬禮
- 一 衛兵及歩哨ノ敬禮
- 其二 儀式

- 一 儀仗
- 一 迎送及伺候式
- 一 觀兵式

一 禮砲式

第二條 禮式ハ人ニ對シテ行フニアラズ其官職ニ對シテ行フモノナレハ受禮者ハ意モ之ヲ宥恕ス可  
 第三條 本禮式中軍人ト稱スルハ將校並ニ相當官准士官下士兵卒及雜卒諸職工ヲ云ヒ上官ト稱ス  
 ルハ階級ノ上ナル者ヲ云ヒ軍隊ト稱スルハ分隊以上ノ武裝セル建制部隊ヲ云ヒ 武裝セルト否ト  
 伍ヲ組ミ上段ノ引率ス 隊長ト稱スルハ其軍隊ノ大小ヲ論セズ之ヲ引率スル者ヲ云フ  
 第四條 軍人タル者ハ何レノ場合ヲ論セズ上官ニ對シテハ必ズ敬禮ヲ行ヒ上官ハ之ニ答  
 禮シ同級ハ互ニ敬禮ヲ交換スルモノトス但答禮ハ場合ニ依リ之ヲ略スルモ妨ナシ例ハ舉手注  
 一目又ハ刀禮ヲ單ニ注目ニ換ユルカ如シ  
 第五條 敬禮ハ定制ノ服裝ヲナセシ人ニ行フヲ正例トス然レトモ軍人單獨ノ敬禮ハ面識アル人ニ  
 對シテハ其着服ノ如何ヲ論セズ成ル可ク之ヲ行フ可シ  
 第六條 敬禮ハ階級ノ異ナル人二名以上ニ對シテハ其最高級ノ人ニ相當スル敬禮ヲ行フ可シ  
 第七條 前條ノ場合ニ於テハ同行者皆答禮ヲ行フ可シ

第八條 軍隊衛兵歩哨ノ敬禮ハ晝間ニアラサレハ行フコトナシ

第九條 軍旗ハ本禮式中明文アルモノハ何レノ場合ト雖トモ敬禮ノ爲メ之ヲ垂ルコトナシ

第十條 太上天皇皇后陛下皇太子皇太子妃殿下皇族並外國ノ皇帝皇后陛下皇族ニ對シテハ本禮  
 式中文アルカカハ特ニ式アルモノハ外總テ 天皇皇后陛下ニ準シ禮式ヲ行フ但之ヲ行フハ  
 公式ノ行儀アルトキニ限ル

第十一條 皇族武官ノ職ヲ奉シ其職務執行ノ場合ニ在テ總テハ其武官相當ノ禮式ニ從フ

第十二條 海軍軍人軍隊及和親諸國ノ陸海軍軍人軍隊ニハ我陸軍軍人軍隊ト同ニ敬禮ヲ行フ可  
 シ

第十三條 將校上官ノ職ヲ奉シ若シハ代理スルトキト雖トモ其本官相當ノ禮式ヲ受ク但特ニ明文  
 ナルモノハ此限ニアラズ

第十四條 監督軍吏軍醫 獸醫(軍業各部)准士官以上及下士並雜卒諸職工等モ亦各其階級ニ應  
 ジ本禮式ニ從フ但特ニ明文アルモノハ此限ニアラズ

第十五條 准士官ハ上官ト同ニノ禮式ニ從フ

第十六條 陸軍諸生徒ノ敬禮ハ下士兵卒ノ法ニ同シ

第十七條 上等兵ハ下士ト同ニノ敬禮ヲ受ク

第十八條 士官生徒ハ下士ト同ニノ敬禮ヲ受ク

第一編 敬禮

第一章 軍人ノ敬禮

第十九條 軍人ノ敬禮ヲ分テ二トス即チ左ノ如シ

甲 室内ノ敬禮

乙 室外ノ敬禮

第二十條 室内トハ居室事務室應接所等ニシテ廊下及庭園等ノ如キハ室外トス  
第二十一條 室内室外ノ敬禮ハ各之ヲ分テ通則將校ノ敬禮下士兵卒ノ敬禮トス

甲 室内ノ敬禮

其一 通則

第二項 軍人室内ニ入ルトキハ戶外ニ於テ先ツ帽ヲ脱ス可シ但下士兵卒武器ヲ手ニ持ツトキハ此限ニアラス

第三項 軍人室内ノ敬禮ハ敬スヘキ人ニ對シテ正面シ姿勢ヲ正シ其眼ニ注目シテ體ノ上部ヲ少ク前ニ傾ク若シ帽ヲ手ニ持ツトキハ右手ニテ其前庇ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ケ帽ノ内部ヲ右股ニ對シキ刀ヲ佩フルトキハ柄ヲ後ニシ兩膝ノ間ヲ握ル

第三項 軍人上官ノ居室ニ入ルトキハ其席ヲ離ルコト凡五六歩ノ所ニ於テ敬禮ヲ行フ可シ若シ敬名在ルトキハ先ツ其最高級ノ人ニ敬禮シ次ニ他ノ一同ニ敬禮スルモノトス其居室ヲ去ルトキ亦同シ

第四項 軍人上官ヨリ官配位記勳記辭令書ノ類ヲ受ケタルトキハ前項ノ法ニ據リ敬禮ヲ行フノ後適宜ニ前進シ帽ヲ左脇ニ掛キ右手ヲ以テ拜受シ左手ヲ副テ披見シ直ニ之ヲ收メ舊位ニ復シテ再ヒ敬禮ヲ行ヒ退去ス可シ

第五項 軍人室内ニ於テ上官ヨリ書類其他ノ物件ヲ受ケ或ハ之ヲ上官ニ呈スルトキモ亦前項ノ法ニ準シ右手ヲ以テ之ヲ受ケ或ハ之ヲ呈スルハ執統スルトキハ左手ヲ以テス 格闘ヲナシテ若シ受ケル所ノ物其場ニ於テ披見スルヲ要スレハ銃ハ建テ體ニ托シ右臂ヲ以テ之ヲ支ヘ右手ヲ副テ披見ス可シ又返簡若クハ領證ヲ受ケヘキトキハ舊位ニ復シテ之ヲ待ツモノトス

第六項 軍人室内ニ於テ上官ヨリ命令諭告等ヲ承リ或ハ上官ニ陳述ヲナストキハ第三項ノ法ニ依リ敬禮ヲ行フノ後適宜ニ前進シ之ヲ承リ或ハ陳述シ其場ヲ退去スルニ臨ミ舊位ニ復シ再ヒ敬禮ヲ行フモノトス但陳述ヲナスニハ活音ヲ以テシ且單簡明亮ナルヲ要ス

第七項 上官居室ニ來ルトキハ椅子ヲ離レテ立テ敬禮ヲ行フモノトス而シテ其關係アル本人ノ外傍ニ在テ事務ニ服スル者ハ一旦敬禮ヲ行フノ後着席シ各其事ニ服シ上官居室ヲ去ルトキ復テ敬禮ヲ行フ可シ

第八項 同級又ハ下級ノ者居室ニ來リ敬禮ヲ行フトキハ同級ナレバ一旦椅子ヲ離レテ敬禮シ下級ナレバ其後答禮スルモノトス

第九項 軍人室内ニ於テ公事ヲ談スルトキハ下級ノ者ハ椅子ヲ離レテ立テ姿勢ヲ正ス可シ但上官ノ許可スレバ着席スルモ妨ケナシ

其二 將校ノ敬禮

第一項 兩陛下ニ拜謁スルトキハ 御室ニ入り一ニテ敬禮シ更ニ玉座ヲ離ルコト凡六歩ノ所ニ進ミ二ニテ敬禮ヲ行ヒ其後二三歩退步シ右轉回ヲナシ 御室ノ出口ニ於テ三ニテ敬禮シ然後退去ス可シ但特ニ式アルトキハ此限ニアラス

第二項 將校下士兵卒ノ居室ニ入ルトキハ脱帽セサルモ妨ケナシ然ルトキハ答禮ハ舉手注目ヲナシ又脱帽スルトキハ口之ニ注目シ答禮ノ意ヲ表ス可シ

第三項 宴會集會等總テ公會ニ於テ上官ト同席スルトキハ之ニ注意ヲ加ヘ先ニ椅子ニ倚ルコトヲ先ニ食卓ニ就クコトヲ先ニ食卓ヲ離ルコトヲ先ニ喫煙スルコトヲナキヲ禮トス

第三項 下士兵卒ノ敬禮 下士兵卒ノ敬禮ハ其來ル人上長官以上ナレバ列ニテ令ニテ居室ニ現

在スル者皆各自ノ定位ニ立テ更ニ直レノ令ニテ姿勢ヲ正シ又士官ナレハ單ニ直レノ令ニテ其場ニ立テ姿勢ヲ正ス可レ但事務室ニ在テハ此限ニアラス  
第二項 下士兵卒執銃シアルトキハ敬禮ハ上長官以上ニハ捧銃シ士官ニハ肩銃シ下士ニハ建銃シテ姿勢ヲ正ス可レ

乙 室外ノ敬禮

其一 通則

第一項 軍人室外ノ敬禮ハ舉手注目トス其法姿勢ヲ正シ右手ヲ舉ケ諸指ヲ接シテ食指ト中指ヲ帽ノ前庇ノ右側ニ當テ掌ヲ稍外面ニ向ケ肘ヲ肩ニ齊クシ受禮者又ハ敬スヘキモノニ注目ス  
第二項 總テ敬禮ヲ行フ爲メ受禮者ニ對テ注目スルトキハ必ス其眼ニ注目スルモノトス  
第三項 室外ノ敬禮ハ受禮者ト遠隔シ在ルモ其上官タルヲ識別スレハ必ス之ヲ行フ可シ  
第四項 軍人停止シ在ルニ方リ上官其傍ヲ通過スルトキハ先ツ上官ノ方ニ面シ敬禮ヲ行フ可シ  
第五項 軍人停止シ在ル上官ノ許ニ至ルトキハ其上官ヲ離ルルコト凡五六歩ノ所ニ於テ停止シ敬禮ヲ行フ可シ

第六項 軍人途上ニ於テ行幸行啓ニ遇フトキハ前驅ノ稍前ヨリ道路ノ一側ニ停止正面ニ面シ敬禮ヲ行フ可シ  
第七項 軍人軍旗ニ行遇ヒ又ハ其傍ヲ通過スルトキハ之ニ敬禮ヲ行フ可シ但軍旗ニ上覆ヲ附シタルトキハ此限ニアラス

第八項 軍人上官ノ引率スル軍隊ニ行遇ヒ又ハ其傍ヲ通過スルトキハ其隊長ニノミ敬禮ヲ行フ可シ其隊ニ注目ス可シ然レトモ儀仗隊ノ現ニ儀仗服務中ノモノ並ニ會葬ノ儀仗隊ニ對シテハ其隊長ニモ亦敬禮ヲ行ハス但軍隊列ヲ解キ休憩シアルトキハ軍人單獨ノ敬禮法ニ從フモノトス

第九項 軍人途上ニ於テ儀仗隊ヲ附シタル軍人ノ葬式ニ行遇ヒ又ハ其傍ヲ通過スルトキハ等級ノ如何ヲ問ハス其極ニ對シ敬禮ヲ行フ可シ但其死者ヨリ上級ナレハ死者ノ等級ニ應メル敬禮ヲ行フモノトス

第十項 乘馬ノ軍人馳歩若クハ速歩ヲ以テ行進中上官ニ遇フトキハ先ツ常歩ニ移シ敬禮ヲ行フヘシ若シ其後方ヨリ來リテ先ニ行カント欲スルトキハ許可ヲ請ヒ然ル後馳歩若クハ速歩ニ復ス可シ但傳令使等ニシテ至急ノ公務ヲ執行スルトキハ其事由ヲ告ケ常歩ニ移サハルモ妨ナシ  
第十一項 軍人乘車ニテ上官ニ遇フトキハ乘車ノ儀姿勢ヲ正シ敬禮ヲ行フモ妨ナシ然レトモ其後方ヨリ來リテ先ニ行カント欲スルトキハ許可ヲ請ヒ然ル後通過スヘシ

第十二項 軍人室外ニ於テ上官ヨリ書類其他ノ物件ヲ受ケ或ハ之ヲ上官ニ呈スルトキハ第五項ノ法ニ依リ敬禮ヲ行フノ後適宜ニ前進シ右手ヲ以テ之ヲ受ケ或ハ呈スヘシ刀或ハ銃ヲ手ニ持ツトキハ左手ヲ以テスルハ建銃ニ托シ右臂ヲ以テ之ヲ支ヘ右手ヲ副テ披見ス可シ又返箭若クハ領證ヲ受クヘキトキハ舊位ニ復シテ之ヲ待ツモノトス

第十三項 軍人室外ニ於テ上官ヨリ命令諭告等ヲ承リ或ハ上官ニ陳述ヲ爲ストキハ第五項ノ法ニ依リ敬禮ヲ行フノ後適宜ニ前進シ之ヲ承リ或ハ陳述シ其場ヲ退去スルニ臨ミ舊位ニ復シ再ヒ敬禮ヲ行フモノトス但陳述ヲナスニハ活管ヲ以テシ且單筒明亮ナルヲ要ス

第十四項 乘馬ノ軍人第十二項及第十三項ノ場合ニ於テ上官乘馬シアラサルトキハ敬禮ヲ行フノ後先ツ下馬スルヲ禮トス然レトモ上官許可スルトキハ下馬セサルモ妨ナシ

第十五項 軍人上官ト同行スルトキハ其左側或ハ後方ニ就クヲ禮トス但誘導者ハ此限ニアラス  
其二 將校ノ敬禮



第一項 將校上官ニ行遇ヒ又ハ其傍ヲ通過スルトキハ停止スルコトヲ頭ヲ少クシ受禮者ノ方ニ向ケ敬禮ヲ行フ可シ

第二項 將校抜刀シアルトキハ敬禮ハ左ノ方法ヲ以テス可シ

第一節 刀ヲ垂直ニ上ケ其刃面ヲ顔ノ中央ニ對セシメ鑄ヲ肩ノ高サニ齊クシ肘ハ自然ニ體ニ近接ス

第二節 右臂ヲ全ク伸シテ刀ヲ斜ニ下ケ爪ヲ上ニシテ拳ヲ右股ヨリ少ク離シ受禮者又ハ敬スヘキモノニ注目ス

第三節 再ヒ刀ヲ舉ケテ之ヲ肩ニス其法刀ノ柄ヲ右手ノ拇指ト他ノ三指トノ間ニ保持シ小指ヲ柄ノ外ニ附シ其手ヲ右腕骨ノ稍下方ニ接シ刀身ヲ垂直ニ立テ刀背ヲ肩ノ内側ニ托シ微シク臂ヲ屈シ肘ヲ後方ニ出ス

其三 下士兵卒ノ敬禮

第一項 下士兵卒隊伍ニ列スルトキハ何人ニ對スルモ上官ノ號令ヲ受クルニアラサレハ敬禮ヲ行フコトヲナシ但一時隊列ヲ離シ在ル者ハ軍人單獨ノ敬禮法ニ從フモノトス

第二項 下士兵卒軍旗及將校ニ行遇ヒ又ハ其傍ヲ通過スルトキハ凡六歩前ヨリ姿勢ヲ正シ凡三歩ノ所ニ於テ停止シ頭ヲ少シク軍旗又ハ受禮者ノ方ニ向ケ敬禮ヲ行フ可シ又下士兵卒ノ下士ニ對スルハ停止スルコトヲナキヲ異リトス

第三項 下士兵卒執銃シアルトキハ敬禮ハ 兩陸下及軍旗並上長官以上ニハ捧銃シ士官ニハ肩銃シ下士以下ニハ執銃ノ儘姿勢ヲ正ス可シ

第四項 下士兵卒喇叭ヲ携フルトキハ敬禮ハ紐ヲ頸ニ掛ケ右手ノ四指ヲ接シ拇指ヲ上ニシ喇叭ノ後身ト前身トヲ握リ接着管ヲ右手ノ腕部ニ接シ漏斗狀ノ邊端ヲ右腕骨下部ニ當テ口管ヲ右

足尖ノ方向ニ一致セシメ之ヲ水平ニ保持シ臂ハ自然ニ體ニ接シ又乘馬ノトキニ在テモ同法ヲ以テス只漏斗狀ノ邊端ヲ右股ニ當テ口管ヲ上ニシ之ヲ保持スルヲ異リトス

第五項 下士兵卒物件ヲ提携シ右手ヲ舉グルコト能ハサルトキ若クハ之ヲ擔荷シアルトキハ軍旗及受禮者ニ對シテハ其體停止シ頭ヲ少シク軍旗又ハ受禮者ノ方ニ向ケ注目シテ敬禮ノ意ヲ表ス可シ又下士兵卒ノ下士ニ對スルハ停止スルコトヲナキヲ異リトス

第六項 下士兵卒將校ノ窓扉ヨリ外望シアル前ヲ通過スルトキハ敬禮ヲ行ヒ通過ス可シ之ニ反シ下士兵卒窓扉ヨリ外望シアルトキ將校其前ヲ通過スレハ亦之ニ敬禮ヲ行フ可シ

第七項 憲兵科ノ下士兵卒ハ職務執行ノ爲メ止ムヲ得サル場合ニ在テハ敬禮ヲ行ハサルモ妨ケナシ

第一章 軍隊ノ敬禮

第二十二條 軍隊ノ敬禮ヲ分テ四トス即チ左ノ如シ

甲 停止間ノ敬禮

乙 行進間ノ敬禮

丙 途步行進間ノ敬禮

丁 演習間ノ敬禮

第二十三條 軍隊相遇フトキハ互ニ敬禮ヲ行フ可シ其法停止間ト行進間トニ論テ其隊長ノ階級下ナル方ヨリ先ツ之ヲ行ヒ同級ナレハ先後ヲ論スルコトナシ若シ其一方ニ軍旗アルトキハ軍旗ヲ先方ヨリ先ツ之ヲ行フ可シ但儀仗隊ノ現ニ儀仗服務中ノモノ並ニ會葬ノ儀仗隊ト他ノ軍隊ト相遇フトキハ互ニ敬禮ヲ行フコトナシ

第二十四條 軍隊相互ノ敬禮ハ步兵工兵ニ在テハ肩銃ノ騎兵ニ在テハ肩刀ト槍ヲ携フルトキハ陸槍ト砲兵ト





草ヲロヨリ去リ總テ整肅ニ歩行スルヲ禮トス

丁 演習間ノ敬禮

第三十六條 軍隊演習間ノ敬禮ハ左ノ諸項ニ依ル可シ

第一項 兩陛下練兵場ニ 親臨アルトキハ最初ニ之ヲ認知スル隊長先ツ 喇叭ヲ吹テ「氣ヲ付ケ」ヲ吹奏セシメ 各隊皆演習ヲ止メ 其地位ニ於テ第三十二條第一項ノ法ニ準シ敬禮ヲ行ヒ各隊長ハ 車駕ノ許ニ至リ演習ノ次第ヲ奏上ス而シテ 勅命アルカ又ハ 車駕其場ヲ去ルニアラサレハ演習ヲ始ム可ラス 車駕其場ヲ去ルニ方リ再ヒ敬禮ヲ行フ可シ

第二項 陸軍大臣參謀本部長及陸軍大將練兵場ニ來ルトキハ最初ニ之ヲ認知スル隊長先ツ 喇叭ヲ吹テ「氣ヲ付ケ」ヲ吹奏セシメ 各隊皆一旦演習ヲ止メ 其地位ニ於テ第三十二條第二項ノ法ニ準シ敬禮ヲ行ヒ各隊長ハ其許ニ至リ演習ノ次第ヲ陳述シ然ル後別ニ命令アルニアラサレハ再ヒ演習ヲ始ム可シ

第三項 軍隊ノ長タル將官旅團長ノ職ヲ奉ス及聯隊長大隊長練兵場ニ來ルトキハ其部下軍隊ニ限リ一旦演習ヲ止メ 氣ヲ付ケテ「氣ヲ付ケ」ヲ吹奏セシメ 各隊長ハ直ニ都督司令官又ハ團隊長ノ許ニ至リ敬禮ヲ行ヒ其演習ノ次第ヲ陳述シ然ル後別ニ命令アルニアラサレハ再ヒ演習ヲ始ム可シ

第四項 第一項及第二項ノ場合ニ在テハ銃ヲ交又シ或ハ下馬シテ休憩セルトキト雖「氣ヲ付ケ」ヲ吹奏セシメテ皆銃ヲ取り或ハ乘馬シ整列シテ敬禮ヲ行ヒ第三項ノ場合ニ在テハ各自一旦「氣ヲ付ケ」ヲ吹奏セシメテ其隊長ノニ敬禮ヲ行フ可シ

第五項 射的場及作業場等ニ於テモ亦演習上妨ナキトキニ在テハ總テ練兵場ニ準スルモノトス

第六項 野外演習ニ在テ演習實施中ハ總テ軍隊ノ敬禮ヲ行ハス

第三章 衛兵及歩哨ノ敬禮

第三十七條 衛兵及歩哨ノ敬禮ヲ分テ二トス即チ左ノ如シ

甲 衛兵ノ敬禮

第三十八條 本章中單ニ衛兵ト稱スルハ衛戍ノ諸衛兵並風紀衛兵ヲ云フ

甲 衛兵ノ敬禮

第三十九條 衛戍ノ諸衛兵ハ 兩陛下及左ニ列記スルモノニ對シテハ門外又ハ衛舎前ニ横隊ニ整列シ銃或ハ槍ヲ執リ敬禮ヲ行フ可シ但敬禮ヲ行フベキ距離及隊列ノ正面ハ其場所ノ模様ニ依リ適宜ニ之ヲ定ムルモノトス

一 太上天皇皇太后陛下皇太子皇太子妃殿下皇族並外國ノ皇帝皇后陛下皇族

一 軍旗

一 陸軍大臣參謀本部長及將官

一 衛戍司令官

一 軍隊

第四十條 衛戍ノ諸衛兵ハ前條第三ニ掲クル諸官ノ葬式ニモ亦其柩ニ對シ生前ト同一ノ敬禮ヲ行フ可シ

第四十一條 風紀衛兵ハ 兩陛下及左ニ列記スルモノ共也營門ヲ出入スルトキ衛舎前ニ整列シ銃或ハ槍ヲ執リ敬禮ヲ行フ可シ

一 第三十九條第一第二第三及第五ニ掲クルモノ

一 所屬旅團長ノ職ヲ奉スル大佐

一 所屬聯隊長獨立及分屯ノ大隊長モ亦同シ

第四十二條 凡テ衛兵ハ下士以下ノ引率セル軍隊及武装セサル部隊ニ對シテハ敬禮ノ爲メニ整列スルコトナシ

第四十三條 衛戍諸衛兵ノ敬禮ハ左ノ諸項ニ依ル可シ

第一項 兩陛下ニ對シテハ第三十二條第一項ノ法ニ準シ敬禮ヲ行フ可シ

第二項 軍旗ニ對シテハ之ヲ軍隊ニ植立セルトキハ先ツ軍隊ニ對スルノ敬禮ヲ行ヒ軍旗其前ヲ通過スルニ臨ミ更ニ軍旗ニ對シテ第三十二條第一項ノ法ニ準シ敬禮ヲ行ヒ喇叭足曳キヲ吹奏ス可シ但軍旗迎送ノ枝隊ニハ軍隊ニ對スルノ敬禮ハ行ハズ直ニ軍旗ニ對スルノ敬禮ヲ行フモ

第三項 陸軍大臣參謀本部長及將官ニ對シテハ第三十二條第一項ノ法ニ準シ敬禮ヲ行フ可シ

第四項 衛戍司令官ニ對シテハ衛舍前ニ來ル時ニ限り第三十二條第五項ノ法ニ準シ敬禮ヲ行フ可シ

第五項 軍隊ニ對シテハ第二十四條ノ法ニ準シ敬禮ヲ行フ可シ但途步行進ノ軍隊并備仗隊ノ現

ニ備仗服務中ノモノ及會葬ノ儀仗隊ニ對シテハ敬禮ヲ行ハズ

第四十四條 風紀衛兵ノ敬禮ハ前條第一項第二項第三項及第五項ニ同シ又第四十一條第二第三

諸官ニ對シテハ第三十二條第三項及第五項ノ法ニ準シ敬禮ヲ行フ可シ但騎兵ノ銃ヲ持ツモノハ

歩兵ニ同シ又手ニ武器ヲ採ラサル衛兵ニ在テハ氣ヲ付ケテ姿勢ヲ執リ其司令ノミ舉手注目ノ敬

禮ヲ行ヒ喇叭ハ吹奏スルコトナシ

第四十五條 合營セル軍隊ノ風紀衛兵ハ其營舍前ヲ通過スルモノニ對シテ營風紀衛兵敬禮ノ法ニ

準シ敬禮ヲ行フ可シ但別ニ定規アルモノハ此限ニアラス

乙 歩哨ノ敬禮

第四十六條 歩哨ハ衛戍ノ歩哨ナルト其他ノ歩哨ナルトニ論ナク 兩陛下及左ニ列記スルモノニ

對シ敬禮ヲ行フ可シ

一 太上天皇皇太后陛下皇太子皇太子妃殿下皇族並外國ノ皇帝皇后陛下皇族

一 軍隊

一 陸軍大臣參謀本部長及將官上長官

一 菊花大綬章菊花章旭日大綬章旭日重光章旭日中綬章ノ勳章佩用者

一 士官

一 旭日小綬章雙光旭日章單光旭日章ノ勳章佩用者

一 下士

一 青色桐葉章白色桐葉章ノ勳章佩用者

第四十七條 歩哨敬禮ヲ行フニハ其定位地ニ立チ若シ聯合内ニアルトキハ受禮者凡ソ六步前ニ來

ルトキ敬禮ノ姿勢ヲ執リ之ニ注目シ六步過去ル迄其姿勢ヲ保ツ可シ

第四十八條 複哨ニ在テハ相互ニ注視シ勉テ同時ニ敬禮ヲ行フ可シ

第四十九條 歩哨ノ敬禮ハ查問ニアラザレハ行ハサルノ定規ナリト雖モ其尊敬スヘキ人ニ對シテ

ハ受禮者タルヲ識別スレハ勉テ敬禮ヲ行フ可シ但將校タルヲ認知スルモ其階級ヲ識別シ能ハザ

ルトキハ肩銃或ハ肩槍ノ敬禮ヲ行フモノトス

第五十條 歩哨ノ敬禮ハ左ノ諸項ニ依ル可シ

第一項 兩陛下及第四十六條ノ第一乃至第四ニ掲グルモノニ對シテハ捧銃或ハ捧槍ヲ第五第六

ニ掲グルモノニ對シテハ肩銃或ハ肩槍ヲ第七第八ニ掲グルモノニ對シテハ執銃或ハ執槍ノ儘

姿勢ヲ正シ敬禮ヲ行フ可シ但手ニ武器ヲ執ラサル歩哨ニ在テハ總テ舉手注目ノ敬禮ヲ行フモ

ノトメ

第二項 軍隊ニ對シテハ姿勢ヲ正シ其隊長ニノミ階級相當ノ敬禮ヲ行フ可シ

第三項 儀仗隊ヲ附シタル軍人ノ柩ニ對シテハ其死者ノ階級相當ノ敬禮ヲ行フ可シ

第四項 帶勳者ニシテ其勳章ニ對スル敬禮ト官職ニ對スル敬禮ト相等シカラサルモノニ對シテハ其重キニ從テ敬禮ヲ行フ可シ

第五項 帶勳者ノ略綬ヲ佩用スルモノニ對シテハ執銃或ハ執槍ノ儀姿勢ヲ正シ敬禮ヲ行フ可シ

第六項 歩哨ハ兵車ヨリ敬禮ヲ受クルトキハ執銃或ハ執槍ノ儀姿勢ヲ正シ答禮ヲ行フ可シ

第二編 儀式

第一章 儀仗

第五十一條 儀仗ノ爲メ 兩陛下及高貴ノ人ニ供スル軍隊ヲ儀仗兵ト稱ス

第五十二條 儀仗兵ヲ分テ二トス即チ左ノ如シ

甲 儀仗隊

乙 儀仗衛兵

第五十三條 儀仗隊トハ 兩陛下及其儀仗ヲ受クル人軍隊屯在ノ地着發ノトキニ方リ 行在所又ハ旅館ト波止場停車場等ノ間途上ノ警備ニ任スルモノヲ云ヒ儀仗衛兵トハ 行在所又ハ旅館ノ守備ニ任スルモノヲ云フ

第五十四條 儀仗兵ハ首トシテ騎兵若クハ歩兵ヲ用ニ

第五十五條 儀仗兵ハ 兩陛下及左ニ列記スルモノニ對シテ之ヲ供スルモノトス

一 大上天皇皇太后陛下皇太子皇太子妃殿下皇族並外國ノ皇帝皇后陛下皇族

一 陸軍大臣參謀本部長及將官

第五十六條 儀仗兵ヲ供スルハ左ニ列記スル場合ノ外條例規則等ニ於テ明文アルカ又ハ特ニ命令アルトキニ限ル

一 兩陛下大上天皇皇太后陛下皇太子皇太子妃殿下皇族軍隊屯在ノ地ニ 行幸行啓若クハ通御アリテ其地着御及發御ノトキ

一 陸軍大臣參謀本部長及陸軍大將公務ニ依テ軍隊屯在ノ地ニ赴キ其地着發ノトキ

一 特命檢閱使タル將官着發ノトキ 城內ニ限ル

一 軍隊ノ長タル將官 旅團長ノ職ヲ掌スル初メテ部下軍隊屯在ノ地ニ着シ又ハ轉職シテ其地ヲ發スルトキ

第五十七條 儀仗兵ヲ供スルハ前條ニ掲グル如シト雖モ其儀仗衛兵ハ旅行中ノ滞在ニアラサレハ之ヲ供スルコトナシ

第五十八條 儀仗兵ハ晝夜ノ別ナク何レノ時ト雖モ之ヲ供スルモノトス

第五十九條 儀仗兵ハ總テ正裝ヲナス可シ

第六十條 儀仗兵ノ敬禮ハ其儀仗隊ニ在テハ第一編第二章軍隊ノ敬禮法ニ據リ儀仗衛兵及歩哨ニ在テハ同第三章衛兵及歩哨ノ敬禮法ニ據ルヘシ

第六十一條 儀仗兵ハ儀仗ヲ受クル人ト同級以上ノ人并軍旗ニ對スルノ外何人ニ對スルモ敬禮ヲ行フコトナシ但歩哨ハ此限ニアラズ

第六十二條 儀仗兵ノ編成ハ第六十三條及第六十五條ニ掲グル如シト雖モ分道隊等ニシテ其人員此編成ニ充テサル場合ニ在テハ該隊長適宜ニ之ヲ定ム可シ

甲 儀仗隊

第六十三條 儀仗隊ノ編成ハ左ノ諸項ニ依ル可シ

第一項 兩陛下ニハ騎兵一中隊若クハ步兵一大隊ニシテ軍旗ヲ樹テ大佐又ハ中佐之ヲ指揮ス  
第二項 太上天皇皇太后陛下皇太子皇太子妃殿下皇族ニハ騎兵二小隊若クハ步兵二中隊ニシテ  
軍旗ヲ樹テ少佐之ヲ指揮ス

第三項 陸軍大臣參謀本部長及陸軍大將ニハ騎兵一小隊若クハ步兵二小隊ニシテ大尉之ヲ指揮  
ス

第四項 陸軍中將ニハ騎兵半小隊若クハ步兵一小隊ニシテ中尉之ヲ指揮ス

第五項 陸軍少將ニハ騎兵半小隊若クハ步兵一小隊ニシテ少尉之ヲ指揮ス 旅團長ノ職ヲ奉スル  
大佐モ之ニ準ス但隊  
數ハ步兵半  
小隊トス

第六十四條 備仗隊ヲ出スノ場所ハ備仗ヲ受クルハ海路鐵道ヲ取ルトキハ波止場又ハ停車場トシ  
其他ノ道路ヲ取ルトキハ市府外凡十町ノ所トス但市府外ニ至ルノ距離甚々遠クシテ備仗隊歩  
兵ナルトキハ市府内適宜ノ場所ニ出スモ妨ナシ然レトモ迎送式ノ爲メ整列スル軍隊ヨリ遠キ場  
所ニ出スヲ要ス

乙 備仗衛兵

第六十五條 備仗衛兵ノ編成及步哨ノ數ハ左ノ諸項ニ依ル可シ

第一項 兩陛下ニハ步兵一中隊ヲ軍旗ト共ニ出シ少佐之ヲ指揮シ正門ノ步哨ハ複哨トス

第二項 太上天皇皇太后陛下皇太子皇太子妃殿下皇族ニハ步兵二小隊ヲ軍旗ト共ニ出シ大尉之  
ヲ指揮シ正門ノ步哨ハ複哨トス

第三項 陸軍大臣參謀本部長及陸軍大將ニハ步兵一小隊ヲ出シ中尉之ヲ指揮シ本門ノ步哨ハ單  
哨トス

第四項 陸軍中將ニハ步兵半小隊ヲ出シ中尉之ヲ指揮シ本門ノ步哨ハ單哨トス

第五項 陸軍少將ニハ步兵半小隊ヲ出シ少尉之ヲ指揮シ本門ノ步哨ハ單哨トス 旅團長ノ職ヲ奉  
ス但隊數ハ步  
兵一分隊トス

第六十六條 備仗衛兵ハ 兩陛下及其備仗ヲ受クル人ニ對シテハ夜間ト雖モ敬禮ヲ行フ可シ

第二章 迎送及伺候式

第六十七條 兩陛下及高貴ノ人軍隊屯在ノ地着發ノトキ迎送ノ爲メ軍隊整列スル之ヲ迎送式ト稱  
シ 行在所又ハ旅館等ニ將校參伺スル之ヲ伺候式ト稱ス

第六十八條 迎送及伺候式ハ 兩陛下及左ニ列記スルモノニ對シテ行フモノトス  
一 太上天皇皇太后陛下皇太子皇太子妃殿下皇族並外國ノ皇帝皇后陛下皇族

一 陸軍大臣參謀本部長及將官

第六十九條 迎送及伺候式ヲ行フハ第二編第一章第五十六條ニ掲グル場合 軍隊ノ長タル將官及旅  
團長ノ職ヲ奉スル大佐  
ニハ所屬軍隊ノ外條例規則等ニ於テ明文アルカ又ハ特ニ命令アルトキニ限ル

第七十條 迎送及伺候式ハ晝間ニアラサレハ行フコトナシ

第七十一條 迎送及伺候式ニハ總テ正裝ヲナス可シ

甲 迎送式

第七十二條 迎送式ノ爲メ整列スヘキ軍隊ハ受禮者ニ依リ區別アルコト左ノ如シ

一 兩陛下ニハ該地屯在ノ諸兵隊悉皆

一 太上天皇皇太后陛下皇太子皇太子妃殿下皇族ニハ該地屯在ノ鎮臺步兵凡二分ノ一

一 陸軍大臣參謀本部長陸軍大將ニハ該地屯在ノ鎮臺步兵凡三分ノ一

一 陸軍中將ニハ該地屯在ノ鎮臺步兵凡四分ノ一

一 陸軍少將ニハ該地屯在ノ鎮臺步兵凡六分ノ一

一 軍隊ノ長タル將官旅團長ノ職ヲ掌スニハ該地屯在ノ部下諸兵隊悉皆

第七十三條 迎送式ノ爲メ軍隊ノ整列スル場所ハ波止場停車場又ハ市府ノ入口ト 行在所又ハ旅

館トノ間ニシテ道路ノ一側ニ横隊ニ列ス但隊列ノ位次ハ受禮者ノ來ルヘキ方ヲ上トス

第七十四條 迎送式ノ爲メ整列スル軍隊ハ受禮者其場ニ來着スルトキ第一編第三十二條第一項第

二項及第三項ノ法ニ據リ敬禮ヲ行フ可シ

第七十五條 兩陛下太上天皇皇太后陛下皇太子皇太子妃殿下皇族並外國ノ皇帝皇后陛下皇族着御

ノトキハ該地屯在ノ軍隊ヲ指揮スル最高級ノ將校ハ波止場停車場又ハ市府ノ入口ニ奉迎シ而シ

テ 行在所又ハ旅館迄隨從ス其發御ノトキハ之ニ反ス但此場合ニ在テ軍隊ノ指揮ハ次級ノ者之

ヲ司トル

第七十六條 兩陛下着御及發御ノトキニ限り該地所在ノ諸將校悉皆第七十三條ニ掲グル場所ニ參

集シ奉迎奉送ヲナス可シ

乙 伺候式

第七十七條 伺候式ハ受禮者ニ依リ區別アルコト左ノ如シ

一 兩陛下太上天皇皇太后陛下皇太子皇太子妃殿下皇族ニハ該地所在ノ士官以上 行在所又

ハ旅館ニ伺候ス

一 陸軍大臣參謀本部長陸軍大將ニハ該地所在ノ上長官以上其旅館ニ伺候ス

一 陸軍中將同少將ニハ該地所在ノ在職上長官以上其旅館ニ伺候ス

一 軍隊ノ長タル將官旅團長ノ職ヲ掌スニハ該地所在ノ所屬士官以上伺候ス

第七十八條 伺候式ハ總テ着後二十四時間内發途前二十四時間内ニ於テスルヲ法トス

第七十九條 伺候式ハ拜謁又ハ對謁スルヲ例トス然レトモ時宜ニ依リ拜謁ヲ賜ハラス又ハ受禮者

對謁ヲ辭スルトキハ唯名刺ヲ呈シ其禮意ヲ通スヘシ

第八十條 伺候式ニ在テハ殊更ニ對話陳述ヲ要スルニアラサレハ敬禮ヲ行フノ後直ニ退去スルモ

ノトス

第八十一條 伺候式ハ一定ノ時限ヲ期シ止ムヲ得サル支障アル者ノ外所在ノ將校皆同時ニ行フヲ

要ス故ニ該地所在ノ最高級ノ者其時限ヲ定メ一般ニ通達ス可シ

第三章 觀兵式

第八十二條 天長節陸軍始其他臨時ノ儀式及條例規則等ニ依リ軍隊ヲ集合シ整飾シテ觀閱ニ供ス

ル之ヲ觀兵式ト稱ス

第八十三條 觀兵式ヲ分テ二トス即チ左ノ如シ

甲 閱兵式

乙 分列式

第八十四條 觀兵式ハ 兩陛下及左ニ列記スルモノニ對シ行フモノトス但之ヲ行フハ條例規則等

ニ於テ明文アルカ又ハ特ニ命令アルトキニ限ル

一 太上天皇皇太后陛下皇太子皇太子妃殿下皇族並外國ノ皇帝皇后陛下皇族

一 陸軍大臣參謀本部長及陸軍大將

一 特命檢閱使タル將官檢閱ヲ行フ區

一 軍隊ノ長タル將官所屬軍隊(旅團長ノ職ヲ奉メル大佐モ之ニ準ス)

第八十五條 觀兵式ニ出場スル者ハ總テ正裝ヲナス可シ

第八十六條 觀兵式ヲ行フニ當リ諸兵ノ位次隊制及其他ノ方法ハ臨時其指揮官ノ定ムル所ニ從フ

可シ



第八十七條 觀兵式ニ出場スル諸兵ノ指揮ハ特ニ指揮官ヲ定ムルニアラサレハ其國隊長之ヲ司ト  
ル然レトモ此官親ヲ觀閱ヲナストキハ次級ノ者其指揮ヲナス可シ

第八十八條 軍隊ニ屬セスシテ觀兵式ニ出場スル乘馬將校ハ閱兵ノ間觀閱ヲナス人ニ隨從シ徒歩  
ノ將校ハ所定ノ位地ニ停止ス可シ

第八十九條 天皇節陸軍始ニ當リテハ各分屯隊及分遣隊ニ在テモ亦本章ノ定則ニ準シ其隊長分列  
式ヲ行フ可シ

第九十條 各國隊長其部下軍隊查閱ノ爲メニ閱兵ヲナシ又ハ分列ヲ行ハシムルモノハ本章備式ノ  
爲メ觀兵式ヲ行フモノト素ヨリ其性質ヲ異ニス

第九十一條 閱兵式及分式列ノ諸動作ハ總テ操典ニ示ス所ニ從フヲ以テ本章中別ニ之ヲ示サズ

第四章 禮砲式

第九十二條 砲臺及砲兵隊屯在ノ地ニ於テ祝禮ノ爲メ發砲スル之ヲ禮砲式ト稱ス

第九十三條 禮砲式ハ紀元節天皇節其他臨時ノ祝日ニ當リ行フノ外 兩陛下及左ニ列記スルモノ  
ニ對シテ行フモノトス

一 太上天皇皇后陛下皇太子皇太子妃殿下皇族並外國ノ皇帝皇后陛下皇族

一 陸軍大臣參謀本部長及將官

第九十四條 禮砲式ノ發放數ニ區別アルコト左ノ如シ但官ニ對スル發放數ト職ニ對スル發放數ト

相等シカラサルトキハ其重キニ從テ之ヲ行フ

一 紀元節天皇節及臨時祝日ニハ

一 兩陛下ニ對シテハ

一 太上天皇皇后陛下皇太子皇太子妃殿下皇族ニ對シテハ

百零一發  
百零二發  
二十一發

一 陸軍大臣參謀本部長及陸軍大將ニ對シテハ

十九發

一 陸軍中將及特命檢閱使タル將官近衛都督鎮守司令官即師團長ニ對シテハ

十三發

一 陸軍少將ニ對シテハ

十一發

第九十五條 禮砲式ヲ行フハ左ニ列記スル場合ノ外條例規則等ニ於テ明文アルカ又ハ特ニ命令ア  
ルトキニ限ル

一 紀元節天皇節

一 兩陛下太上天皇皇后陛下皇太子皇太子妃殿下皇族砲臺又ハ砲兵隊屯在ノ地ニ 行幸行  
啓若クハ通御アリテ其地着御及發御ノトキ

一 陸軍大臣參謀本部長及陸軍大將公務ニ依テ砲臺又ハ砲兵隊屯在ノ地ニ赴キ其地着發ノト  
キ

一 特命檢閱使タル將官砲臺又ハ砲兵隊屯在<sup>檢閱ヲ行フ</sup>地着發ノトキ<sup>檢閱ニ限ル</sup>

一 近衛都督鎮守司令官即師團長初メテ管内砲臺又ハ砲兵隊屯在ノ地ニ至ルトキ及轉職シテ  
其地ヲ發スルトキ

第九十六條 禮砲式ハ晝間ニアラサレハ行フコトナシ而シテ紀元節天皇節其他臨時ノ祝日ニ於テ  
スルモノハ特ニ命令アルニアラサレハ當日正午ニ之ヲ行フモノトス

第九十七條 紀元節天皇節其他臨時祝日ニ於テスル禮砲式ハ全國各砲臺及各砲兵隊悉皆之ヲ行フ  
モノトス

第九十八條 一地ニ數個ノ砲臺又ハ砲兵隊アル場合ニ於テハ其中ノ一砲臺又ハ一隊ヲ限リ發砲ヲ  
ナスモノトス

第九十九條 海岸砲臺ニ在テハ別ニ定ムル所ニ從フヲ以テ本章ヲ適用セズ

○陸軍第五號

今般陸軍禮式被相定候就テハ陸軍敬禮式同附錄及觀兵式假規則ハ廢止ス

但閱兵式分列式ノ諸動作ハ進テ操典中へ掲載候迄ハ觀兵式假規則ニ依リ施行スヘシ

明治二十年一月十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第六號

今般陸軍禮式被相定候ニ付陸軍軍屬ニ在テモ軍人同様之ヲ遵守スヘシ

但舉手注目ヲ脱帽注目ニ換ニ委任官ハ將校ノ敬禮法ニ判任官以下ハ下士兵卒ノ敬禮法ニ據ル

明治二十年一月二十二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第七號

本年定期檢閱ハ六七兩月間ニ於テ之ヲ施行シ其報告ハ七月三十一日迄ニ進達スヘシ

明治二十年一月三十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第八號

明治二十年士官下士學術檢査規格別冊之通相定ム

明治二十年一月三十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別冊)

明治二十年士官下士學術檢査規格

一各兵各部士官下士ノ學術檢査科目ハ別表ノ如シ

一停年最下限ヲ超ヘタル士官ニシテ外國學及ヒ支那語學ノ檢査ヲ望ム者ハ之ヲ檢査ス

一軍用電信隊ノ士官下士ハ各其本科ノ學術ヲ檢査ス

一砲兵火工長ハ砲兵曹長ト同下長ハ砲兵一軍曹ト同一ノ檢査ヲナス

一士官下士ノ轉科檢査ハ轉スヘキ兵科ノ同官ト同一ノ檢査ヲナス

但軍吏軍醫獸醫部ニ於ルモ亦本文ニ準ス

一實地對策及ヒ圖上對策ハ其進級檢査ニ在テハ大中尉及ヒ曹長ニハ其上官ノ職務ニ係ル事項少尉

ニハ其職務上ニ必要ノ事項ヲ問題トシ其轉科檢査ニ在テハ總テ轉スヘキ兵科該官ノ職務ニ必要

ノ事項ヲ問題トス

但監督及ヒ軍吏部士官ニ在テモ亦本文ニ準ス

一對策並ニ下士及ヒ上等兵ノ應官ノ職務ニ必要ノ事項ヲ問題トス

一憲兵科下士ノ報告文ハ步兵兵一軍曹即中ノ職務ニ係ル平戰兩時ノ事項ヲ問題トス

一實地對策ハ現地ニ於テ問題ヲ與ヘ略圖日算ヲ製シ筆記シテ答解セシメ圖上對策ハ地圖上ニ就キ

問題ヲ與ヘ略圖ヲ製シ之ヲ添ヘ筆記シテ答解セシム

一對策ハ一二ノ事件ヲ設ケ問題トシテ之ヲ與ヘ筆記シテ答解セシム

一總テ應問ハ筆記シテ簡單ナル一二ノ事項ヲ問ヒ筆記ヲ以テ答ヘシム

一算學ハ公式及ヒ演算ヲ詳記シ其答ハ何拾圓若クハ何間何尺等ノ如ク日本字ヲ以テ筆記セシム

但代數式ノ答ヲ要スルモノハ此限ニアラス

一路上測圖ハ約一公里突ノ道路ヲ指示シ一萬分一ノ縮尺ヲ以テ之ヲ寫圖セシメ道路ノ兩側各百米

突以內ノ地區地物ハ必ス描寫セシムルヲ要ス

一砲具圖視圖ハ砲工具或ハ其原圖ノ一二ヲ指示シ之ヲ圖寫セシム

一對策應問算學作文測圖製圖簿記學ノ書式ハ年號月日職官姓名ヲ記シ問題ノ全文ヲ寫サシム

其測圖ニ在テハ地名ヲモ記入セシム但問題ヲ淨書スルニハ總テ鉛筆ヲ用フ可ラス

學術検査時限

凡八時間内一時間ハ午

四時間

二時間

二時三十分間

- 一 實地對策
- 一 圖上對策
- 一 對策應問作文路上海圖砲具圖視圖外國學
- 一 算學簿記學
- 一 試術ハ豫メ時間ヲ定メス

士官下士學術検査科目表

|          |            |            |              |
|----------|------------|------------|--------------|
| 大中小尉及ヒ曹長 |            | 一二等軍曹及ヒ上等兵 |              |
| 憲兵       | 步兵戰術       | 實地對策       | 憲兵職務         |
| 兵        | 犯罪ノ鑑別及ヒ此處分 | 應問         | 報告文          |
| 科        | 算學         | 幾何ニ至ル      | 算學           |
| 步兵       | 步兵戰術       | 實地對策       | 野外演習軌典(射的教程) |
| 科        | 射的學        | 應問         | 測圖           |
| 騎兵       | 騎兵戰術       | 幾何ニ至ル      | 算學           |
| 騎兵       | 馬術         | 實地對策       | 野外演習軌典(騎兵)   |
| 科        | 算學         | 應問         | 測圖           |
| 砲兵       | 砲兵戰術       | 幾何ニ至ル      | 算學           |

|    |             |       |            |       |         |
|----|-------------|-------|------------|-------|---------|
| 砲兵 | 砲兵戰術        | 實地對策  | 砲兵射的教程     | 應問    | 砲具圖     |
| 工兵 | 臨時築城        | 實地對策  | 步兵操典(橋船之部) | 應問    | 視圖      |
| 工兵 | 工兵學(永久築城教程) | 應問    | 製圖         | 視圖    | 幾何ニ至ル   |
| 工兵 | 算學          | 積分ニ至ル | 算學         | 幾何ニ至ル | 幾何ニ至ル   |
| 砲兵 | 臨時輸重勤務      | 圖上對策  | 輸重兵操典      | 應問    | 路上測圖    |
| 砲兵 | 馬術          | 應問    | 測圖         | 應問    | 路上測圖    |
| 砲兵 | 算學          | 幾何ニ至ル | 算學         | 幾何ニ至ル | 開立ニ至ル   |
| 監督 | 監督補         |       |            |       |         |
| 監督 | 臨時給養法       | 圖上對策  |            |       |         |
| 監督 | 陸軍編制學       | 應問    |            |       |         |
| 監督 | 算學          | 幾何ニ至ル |            |       |         |
| 軍吏 | 一二三等軍吏      |       |            |       |         |
| 軍吏 | 陸軍經理學       | 對策    | 給與概則       | 應問    | 應問      |
| 軍吏 | 簿記學         | 官省簿記  | 簿記學        | 簿記學   | 各隊記簿    |
| 軍吏 | 算學          | 幾何ニ至ル | 算學         | 算學    | 開立ニ至ル   |
| 軍  | 一二三等軍醫及ヒ藥州官 |       |            |       | 一二三等醫藥長 |

|       |         |       |             |
|-------|---------|-------|-------------|
| 部 醫   |         | 部 醫   |             |
| 內外科   | 軍陣衛生 化學 | 對 策   | 扶卒須知 科主要原本  |
| 外科術   | 衛生學 藥學  | 應 用   | 器具及器械藥劑ニ係ル文 |
| 瘡痂法   | 分析術     | 試 術   | 辦帶術 開劑術     |
|       | 一三等級獸醫  |       | 試 術         |
| 部 醫 學 |         | 部 醫 學 |             |
| 化育學   | 衛生學     | 對 策   |             |
| 傳染病學  |         | 應 用   |             |
| 外科術   |         | 試 術   |             |

○陸軍第九號

近衛歩兵一聯隊編制表中別紙之通被改 (別紙略ス)

明治二十年二月四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第十號

平時並戰時歩兵一聯隊及歩兵補充大隊編制別表之通被定 (別表略ス)

但從前之歩兵一聯隊編制表ハ廢棄ス

明治二十年二月四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第十一號

平時並戰時工兵一大隊及工兵補充中隊編制別表之通被定 (別表略ス)

但從前之工兵一大隊編制表ハ廢棄ス

明治二十年二月四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第十二號

陸軍第十一號ヲ以テ工兵隊編制表被定候處逐テ何分相違候迄從前ノ通心得ヘシ

明治二十年二月四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第十三號

平時歩兵一聯隊編制表中聯隊附少佐二等軍醫正并一等軍吏之職務左之通心得ヘシ

明治二十年二月四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

一聯隊附少佐之職務ハ明治十九年省令乙第百一號之通

一大隊醫官タル二等軍醫正ハ兼テ聯隊ノ醫務ヲ掌トル

一大隊計官タル一等軍吏ハ兼テ聯隊ニ係ル諸給與并經費ノ事務ヲ掌トル

○陸軍第十四號

今般被相定候平時歩兵一聯隊編制表中聯隊附少佐ハ當分之内大尉ヲ以テ之ニ充ツルコトアリ

明治二十年二月四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第十五號

今般歩兵一聯隊編制表中録兵及病室掛被廢候就テハ大隊録兵長及病室掛ハ半小隊長又ハ他ノ下士

ノ補欠ニ充テ若シ欠員ナキトキハ過員ノ儘木隊附ニ差置又中隊録兵長ハ分隊長ノ補欠ニ充テ若シ

中隊上等兵ニ過員ヲ生ヌルトキハ其中隊ニ於テ上等兵一名歸休セシムヘシ

明治二十年二月四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第十六號

今般歩兵隊中録兵被廢候ニ付其作業ハ自今歩兵一般ニ練習セシムヘキ備ト相心得ヘシ

明治二十年二月四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第十七號

步兵土工及破壞器具並一聯隊作業器具別表之通相定 (別表略ス)  
但別表之器具相渡候迄ハ從前之攜帶器具ハ攜帶ニ及ハヌ又作業ハ從前之鐵兵作業器ヲ以テ練習  
致サスヘシ

明治二十年二月四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第十八號

擔架術教育規則別冊之通定

明治二十年二月五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別冊)

擔架術教育規則

總則

第一條 此規則ハ戰場ニ於テ傷者ヲ運搬スル學術ヲ教授スル爲メニ設ケルモノトス  
第二條 步兵及砲兵隊ニ於テ其下士兵卒若干名ヲシテ之ヲ修業セシムルモノトス

撰拔

第三條 毎年擔架術ヲ修業セシムヘキ人員ハ步兵聯隊ニ一等軍曹一名二等軍曹二名砲兵聯隊ニ一  
二等軍曹三名砲兵大隊ニ上等兵一名步兵中隊ニ兵卒三名砲兵中隊ニ一名トス 上等兵ヲ出タス非  
兵中隊ニハ兵卒ニ

第四條 大隊長ハ下士中隊長ハ上等兵現役一ケ年ヲ終ヘタル者ヲ撰拔シテ聯隊長若クハ大隊長ニ  
具申スルモノトス

第五條 中隊長ハ現役一ケ年ヲ終ヘタル一等卒若クハ二等卒ト爲ルヘキモノニシテ沈勇懸篤精力

アリ且讀書習字ヲ爲シ得ル者ヲ撰拔シ名簿ヲ製シ大隊長ニ呈スルモノトス  
第六條 大隊長ハ中隊長ノ進呈シタル名簿ニ就キ審査ノ上聯隊長ノ認可ヲ得テ中隊長ヲシテ擔架  
術修業ヲ命セシム

第七條 聯隊長ハ大隊長ノ具申ニ依テ之ヲ認可シ教官ヲシテ教授セシム  
教育

第八條 擔架術ハ學術ノ二科トス其科目ハ第一表ニ示スカ如シ

第九條 擔架術ノ教授ハ步兵聯隊 分遣若クハ分  
隊ハ大隊 及砲兵聯隊ニ於テス

但分遣分屯ニ係ル中隊ノ分ハ所屬本隊ニ合シテ之ヲ行フモノトス

第十條 授業期限ハ凡ソ三月ニシテ毎年新兵入營ノ期ヨリ始ムル者トス但シ授業時限ハ一日ニ  
凡ソ五時間トス

第十一條 修業中疾病等ニテ卒業ノ前途ナク之ヲ免除スルトキハ成ルヘク補缺スヘシ

第十二條 聯隊長ハ卒業ノ檢閲ヲ行ヒ卒業證書ヲ附與シ而シテ旅團長ヲ經テ砲兵ハ之ヲ所管長官ニ  
報告スル者トス

第十三條 擔架術修業中ハ衛兵其他ノ諸勤務ハ適宜ニ之ヲ免スルヲ得ヘシ又何等ノ事故アルモ師  
省休暇等ハ一切之ヲ許サハルモノトス

教官

第十四條 教官及助教ハ聯隊中ノ醫官及看護長ヲ以テ之ニ充テ其人員ハ第二表ノ如シ

第十五條 高級ノ教官ハ聯隊長ノ命ヲ受ケ左ニ掲ケル二項ノ事ヲ擔任スヘシ

一 學術授業ノ順序ヲ豫定シ又每週施行ノ日課表ヲ製シ且教育ニ關スル進歩ノ長況ヲ聯隊長  
及ヒ所管軍醫長ニ報告スヘシ

二 卒業ノ期ニ至レハ學術ニ優劣順序ヲ定メ番號ヲ付シ卒業名簿ヲ製シ之ヲ聯隊長ニ進呈ス  
第十七條 教官ハ高級教官ノ指圖ヲ受ケ一般ノ教育ヲ擔任シ助教ハ教官ヲ補助シ教育上ノ細目ヲ  
擔當スルモノトス

復習

第十七條 復習ハ毎年夏期ニ於テ豫備役及ヒ後備軍ノ下士卒中擔架術ヲ修業シタル者ヲ召集シ之  
ニ現役中ノ擔架術修業者ヲ加ヘ演習ヲ施行ス之ヲ野外演習ト云フ

第十八條 野外演習ハ演習衛生隊ヲ編成シ近衛鎮臺軍醫長ヲシテ師團軍醫長ノ職ヲ行ヒ演習一般  
ノ指揮ヲ掌ラシム

第十九條 近衛鎮臺軍醫長ハ演習ノ方法ヲ豫定シ其施行ノ地所ヲ定メ所管長官ニ具申スヘシ

第二十條 野外演習中ノ要ノ部隊ヲ之ニ附屬セシメ戰線ヲ假設シ或ハ假設傷者等ノ用ニ供セシム  
第二十一條 野外演習ノ總日數ハ概テ三週間ニ充テ終リ一週間ヲ現役並豫備役中擔架術ヲ修業シタル者  
ニ充テ終リ一週間ヲ現役並豫備軍中擔架術ヲ修業シタル者  
ニ充テ終リトス然レトモ時トシテ之ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第二十二條 演習畢レハ軍醫長ハ實施ノ景況ヲ記載シ之ヲ所管長官ニ報告スヘシ

第二十三條 復習ノ爲メニ召集スヘキ豫備役及ヒ後備軍下士卒ハ師團衛生隊ニ編入スヘキ者ノミ  
ヲ以テス

第二十四條 演習衛生隊ノ編制方法左ノ如シ

- 一 演習衛生隊ハ師團衛生隊定員ノ半數ヲ召集シ他ノ半數ハ之ニ現役中ノ擔架術修業者ヲ加フ
- 二 演習衛生隊ニ附屬スル士官及ヒ曹長ハ常備隊附他ノ下士ハ現役或ハ豫備役及ヒ後備軍  
員ヲ以テシ或ハ擔架術ヲ修業シタル上等兵ニシテ下士適任證書ヲ所持スル者ヲ以テ此下  
士勤務ニ充ツ

三 演習衛生隊ニ附屬スヘキ衛生部員ハ鎮臺病院或ハ各隊附醫官藥劑官及ヒ看護長卒ヲ以テ  
之ニ充ツ但看護長卒ハ豫備役及ヒ後備軍ヨリ附屬セシムルコトアリ

第一表

擔架術教則表

| 學科       | 第一 術科  |            | 第二 術科  |   |
|----------|--------|------------|--------|---|
|          | 術      | 術          | 術      | 術 |
| 人體造構     | 止血法    | 擔伍編成       | 擔架分隊運動 |   |
| 携帶品及解説   | 人工呼吸術  | 擔架法        |        |   |
| 創傷論      | 三角縛帶用法 | 乘架法        |        |   |
| 傷者一般ノ取扱  | 卷軸縛帶用法 | 擔架小隊中隊等ノ運動 |        |   |
| 創傷處置     | 徒手運搬法  |            |        |   |
| 一般患者ノ救急法 | 急製擔架法  |            |        |   |

第二表

擔架術教官定員表

| 兵種 | 隊 |   | 官      |       | 助   | 教   |
|----|---|---|--------|-------|-----|-----|
|    | 隊 | 隊 | 官      | 助     |     |     |
| 歩兵 | 大 | 聯 | 二等軍醫正  | 二三等軍醫 | 二   | 看護長 |
|    | 大 | 聯 | 一三三等軍醫 | 一     | 看護長 | 一   |
| 砲兵 | 大 | 聯 | 一等軍醫   | 一     | 看護長 | 一   |
|    | 大 | 聯 | 二三等軍醫  | 一     | 看護長 | 一   |

備考 一 本表大隊ノ教官助教ハ分屯若クハ分遣隊ニ適用ス

○陸軍省陸軍第十九號

屯田兵本部概則別冊ノ通改定ス

明治二十年二月十日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別冊)

屯田兵本部概則

第一章 總則

第一條 屯田兵本部ハ屯田兵ニ係ル百般ノ事務ヲ總理スル所トス其本部長以下ノ職官ハ職官定員表ニ載スルカ如シ

第二條 屯田兵本部ノ事務ヲ分テ左ノ三課トス

第一課 庶務法律醫藥測量器械等ニ係ル事務ヲ掌ル

第二課 會計給與ニ係ル事務ヲ掌ル

醫務課 衛生ニ係ル一切ノ事ヲ掌ル

第三條 屯田兵本部長ハ其内規ヲ定メ軍紀風紀ヲ維持シ服裝教育給養及ヒ就産等部中一切ノ事務ヲ總判ス

第四條 本部長ハ屯田兵ノ教育及ヒ就産ノ順序進歩ヲ謀リ並ニ給養ノ方法物品ノ良否等ヲ議定スル爲メ毎月一回會議ヲ開クヘシ

第五條 會議議列ノ組織ハ左ノ如シ

本部長 各課長 大隊長 中隊長 本部副官

但會議中時宜ニヨリ大隊副官小隊長及ヒ各課武官出仕官ヲシテ出席セシムルコトアルヘシ

第六條 會議ハ本部長自ラ議長ノ職ニ當リ本部長不在時ハ大隊副官ハ大隊長之ニ當リ議列ヲシテ十分發議セシメ而

シテ議長之ヲ判決ス

第七條 屯田兵本部長ハ本部長ヲ補佐シ部中一般ノ定則ヲ維持シ日々ノ諸報告ヲ受領シ豫テ本部長ヨリ委任ノ事件及ヒ日常瑣末ノ事件ハ直ニ之ヲ處分シ而ル後其狀況ヲ本部長ニ具申スヘシ

第八條 各課長ハ本部長ノ命ヲ奉シ武官出仕官及ヒ屬ヲ督シ課中ノ事務ヲ管理シ各擔保ノ責ニ任スヘシ

第九條 本部副官ハ本部長ノ命ヲ奉シ軍隊勤務並ニ教育ニ係ル事務ヲ專任ス故ニ平時ニ在テハ儀仗並ニ衛兵勤務其他諸演習ニ係ル事件ハ之ヲ參畫シ遺漏ナカサシムヘシ

第十條 武官出仕官及ヒ屬ノ指揮ニ從ヒ各共事ニ從フヘシ

第十一條 傳令使ハ本部長ノ命ヲ奉シ差使並ニ應接ノ事等ヲ掌ル其服務ノ細則ハ概テ傳令使心得書ニ據ル

第二章 徵募ノ定則

第十二條 屯田兵ノ徵募ハ陸軍大臣之ヲ府縣ニ達シ志願者ヲ取調検査ノ上徵募スルヲ例トス故ニ屯田兵本部長ハ所要ノ時其徵募ノ事ヲ上申スヘシ

但志願者取扱手續等ハ別ニ之ヲ定ム

第十三條 検査済ノ上合格者中ニ就キ所要人員ヲ採用スルニ當リ屯田兵本部長ハ本人管轄廳ヘ照會シ直チニ移住編入ヲ命スルモノトス

第十四條 臨時欠員ヲ補充スルトキ服役者ノ子弟中分戶編入出願スルモノアレハ詮議ノ上許可スルコトアルヘシ

第十五條 現役兵先入兵補充員ハ服役滿期ノ後ニ非レハ志願スルヲ許サズ豫備兵後備兵第一豫備徵員第二豫備徵員ハ服役中ト雖モ志願スルコトヲ得故ニ検査合格ニシテ採用スルモノハ其旨屯

田兵本部長ヨリ本人所管へ移牒スヘシ

第十六條 體檢合格ニシテ移住ヲ命スルモノ、家族中先入兵及ヒ補充員服役中ノ者アルトキハ戶主ト共ニ移住スルヲ得然ルトキハ前條ト同一ノ手續ヲナスヘシ

但現役兵ハ服役滿期ノ後ニ非サレハ移住スルヲ許サズ

第十七條 屯田兵移住ノ節ハ支度料旅費日當賦貸トシテ左ノ金額ヲ支給スヘシ

一支度料

金貳圓 十五歳以上一人分

金壹圓 十五歳未満一人分

一旅費日當

金參拾參錢 一日十里計七歳以上一人分七歳未満ハ此半ヲ給ス

一賦貸

金貳圓六拾錢 一日十里計一戸馬二匹ノ割獨身ノ者ハ此半ヲ給ス

第三章 給與ノ定則

第十八條 屯田兵ハ入隊ノ時家宅家具夜具拓地農具種物等ヲ支給シ爾後滿三ヶ年間被服食料等總テ給助ス

但家宅家具夜具農具等ノ其支給一時ニ止マルモノハ爾後破損紛失等ニテ修理交換又ハ新調ヲ要スル時其費用ハ總テ自辨トス

第十九條 家宅ハ一戸ニ一宇ヲ給ス然レトモ獨身ニシテ家族ナキモノニハ四人ニ一宇ヲ給ス但給助年限中妻ヲ娶ルモノニハ其節別ニ一宇ヲ給ス

第二十條 家具ハ現品ヲ以テ左ノ如ク支給ス

|   |            |
|---|------------|
| 一 鍋大中小                                    | 各一個        |
| 一 椀 <small>一組椀三個碗三個</small>               | 三組         |
| 一 手桶                                      | 一荷         |
| 一 小桶                                      | 一具         |
| 一 擔桶                                      | 一荷         |
| 第二十一條 夜具ハ現品ヲ以テ左ノ如ク支給ス                     |            |
| 一 四布三布各一枚宛                                | 十五歳以上ノ者一人分 |
| 一 四布一枚                                    | 十五歳未満ノ者一人分 |
| 但七歳未満ノ者ニハ支給セズ                             |            |
| 第二十二條 拓地ハ一戸ニ一萬坪迄ヲ支給シ服役中ハ勿論免役ノ後尙ホ十ヶ年間ハ除租トス |            |
| 第二十三條 農具ハ現品ヲ以テ左ノ如ク支給ス                     |            |
| 一 鍬大小                                     | 各一挺        |
| 一 唐鍬                                      | 大二挺        |
| 一 砥 <small>號砥</small>                     | 小二挺        |
| 一 山刀                                      | 各一個        |
| 一 鍬                                       | 一挺         |
| 一 鐮                                       | 二挺         |
| 一 鋤 <small>大小</small>                     | 各一挺        |
| 一 鋤 <small>草刈</small>                     | 二柄         |
| 一 鋤                                       | 十枚         |



第二十四條 種物ハ現品ヲ以テ左ノ如ク支給ス

|                    |     |
|--------------------|-----|
| 一 糶籠 <sup>共</sup>  | 二十枚 |
| 一 麻扱函 <sup>共</sup> | 一個  |
| 一 培養桶              | 一個  |
| 一 麻仁               | 一斗  |
| 一 大麥               | 一斗  |
| 一 小麥               | 一斗  |
| 一 大豆               | 一斗  |
| 一 小豆               | 五升  |
| 一 馬鈴薯              | 四斗  |
| 一 蠶卵紙              | 四半枚 |

第二十五條 被服ハ其服役者ニノニ服役中左ノ通支給ス  
但給助年限中ノ者ニ限リ襦袢袴下手套草鞋掛ハ壹具脚絆草鞋ハ二足ヲ以テ三年ノ給額トス

|          |     |    |   |
|----------|-----|----|---|
| 一 第一種帽   | 下士卒 | 七年 | 一 |
| 一 第二種帽   | 同   | 同  | 三 |
| 一 絨衣袴    | 卒   | 同  | 三 |
| 一 小倉衣袴   | 卒   | 同  | 二 |
| 一 夏衣袴    | 下士卒 | 同  | 三 |
| 一 外套     | 同   | 五年 | 一 |
| 一 夏冬襦袢袴下 | 同   | 一年 | 一 |

第二十六條 食料ハ飯料及ヒ鹽菜料ノ二種ニ分チ給助年間家族ノ人員ニ應シ左ノ割合ヲ以テ之ヲ支給ス

|         |                |    |     |
|---------|----------------|----|-----|
| 一 脚絆    | 同              | 同  | 一   |
| 一 手套    | 同              | 同  | 一   |
| 一 米七合五勺 | 十五歲以上及六十歲未滿ノ者  | 一人 | 一日分 |
| 一 米五合   | 六十歲以上及十五歲未滿七歲迄 | 同上 |     |
| 一 米三合   | 七歲未滿           | 同上 |     |
| 一 金壹錢五厘 | 十五歲以上及六十歲未滿ノ者  | 一人 | 一日分 |
| 一 金壹錢   | 六十歲以上及十五歲未滿七歲迄 | 同上 |     |
| 一 金七厘   | 七歲未滿           | 同上 |     |

但給助年限中妻ヲ娶ルカ或ハ出産スルトキハ其當日ヨリ妻又ハ子ヘ夫又ハ父ノ給助年限中本文ノ米金額ヲ給ス又之ニ反シテ家族ノ内分籍別居スルカ又ハ官民ヲ論セス他ヨリ給料ヲ受クル者ニハ當日ヨリ扶助米金ヲ給セス

第二十七條 屯田兵服役者給助年限中ノ患者自宅療養費用一週日以上ニ及フ者ハ一等症ヲ除クノ外左ノ割合ヲ以テ給米ヲ減除ス

- 但藥用一週日以内ニ止マル者ハ此限ニアラス
- 二等症 給米一割ヲ除去ス
- 三等症 同 二割ヲ除去ス

第二十八條 屯田兵服役者給助滿限後ノ醫藥一等症ハ官給トシ二等症三等症三十日以内ハ一日分藥價金四錢ヲ徴收シ三十日以上ハ病症ノ等差ニ應シ左ノ通藥價ヲ減ス

一 二等症 三十日以上一日分藥價金壹錢

二 三等症 同 金貳錢

一 但三十日ハ藥用日數ヲ以テ起算ス

第二十九條 屯田兵家族ノ疾病給助年限中ノ醫藥ハ凡テ官費トシ給助滿限ノ者ハ一日一人藥價金四錢小兒七年未滿ハ其半價ヲ徵收ス

第三十條 屯田兵服役者及家族共給助年限中入院スル者ノ醫藥食糧ハ凡テ官費トス

但入院中ハ給助米金ヲ給セズ

第三十一條 屯田兵服役者給助滿限後入院スルモノ一等症ハ醫藥食糧共凡テ官費トシ二等症ハ藥價ノ半額金貳錢三等症ハ全額金四錢ヲ徵收ス

第三十二條 屯田兵服役者及給助年限中ノ家族ニテ死スル者アレハ左ノ割合ヲ以テ埋葬料ヲ給ス

一 金拾三圓 服役者

一金七圓五拾錢 家族七歳以上ノ者

二 金三圓貳拾五錢 同 七歳未滿ノ者

第三十三條 屯田兵給助滿期ノ後守備勤務儀仗兵又ハ演習行軍等ノ如キ公務ニ服スル時ハ左ノ割合ヲ以テ俸給贈草鞋及草鞋掛ヲ支給ス

但給助年限中ノ者モ守備勤務儀仗兵及野營演習ノ節ニ限リ草鞋及草鞋掛ヲ給ス

一日俸 出務ノ日數ニ應シテ之ヲ給ス

一 贈 一時ノ出務ハ一贈一日ハ三贈一晝夜ハ四贈トス

一 草鞋 三里外ノ行軍ハ一日二足其他ハ一足トス

一 草鞋掛 三日ニ一足トス

第三十四條 事業場一字ヲ毎中隊ニ支給シ之ニ發賣製絲ノ器具及麻蒸場並ニ製麻器具ヲ屬ス

第三十五條 學校一字ヲ毎中隊ニ支給シ之ニ所用ノ器具ヲ屬ス

○陸軍第二十號

下級ノ輩上官ニ對シ禮式非違ノ者有之候節處分方ノ儀去ル明治十一年五月二十七日違乙第七十三號ヲ以テ相違置候處自今左之通相心得ヘシ

明治二十年二月十四日

陸軍大臣伯耆大山 嚴

一 下級ノ者欠禮スルトキハ受禮者ハ其所管隊號姓名ヲ問ヒ自己所屬ノ長官ニ上申シ長官ヨリ欠禮者所管長官ニ照會シ其所管長官ハ夫々處分ノ上其趣ヲ原告長官ヘ通知スヘシ

二 下級ノ者敬禮ヲ行フニ方リ其法式ニ違フトキハ受禮者ハ其所管隊號姓名ヲ問ヒ違式者所管又ハ本隊ニ其趣ヲ通知シ其所管又ハ本隊ニ於テハ嚴ニ違式者ヲ戒戒スヘシ

但受禮者下士ナルトキハ自己ノ所管長官又ハ隊長ニ其趣ヲ上申シ其所管又ハ本隊ヨリ違式者所管又ハ其本隊ニ通報スヘシ

○陸軍第二十一號

本年現役滿期トナルヘキ各兵上等兵及徵兵一等看護卒中優秀ニシテ下士ニ適任ノ者ニハ左ノ手續ヲ以テ下士適任證書ヲ付與スヘシ

明治二十年三月十五日

陸軍大臣伯耆大山 嚴

一 下士適任證書ヲ付與スヘキ者アルトキハ聯隊長ハ其隊ヲ為サ、ル諸隊 共事由ヲ詳悉シ所管長官步兵ニ在ナハ旅ニ具申スヘシ

一 所管長官前條ノ具申ヲ受テ適當ト認ムル者ハ之ヲ許可スヘシ

一 聯隊長其許可ヲ得タルトキハ證書ニ署名シ現役滿期又ハ歸休ヲ命シタルトキ之ヲ付與スヘシ  
 一 徵兵ニ等看護卒ノ隊外ニ屬スル者ニ在テハ鎮臺ハ軍醫長ヨリ鎮臺司令官ニ營所ハ病院長ヨリ  
 營所司令官ニ事由ヲ具申シ許可ヲ得テ證書ニ署名シ付與スルモノトス  
 一 下士適任證書ヲ付與シタルトキハ各自ノ手牒ニ其事由ヲ記載スヘシ  
 一 下士適任證書様式ハ明治十九年本省令乙第九十三號一年志願兵取扱規則ニ屬スル離形ニ準據  
 スヘシ

○陸軍第二十二號  
 明治二十一年陸軍大學校入學始審並ニ再審検査課目及ヒ検査方法別冊ノ通定  
 明治二十年二月十九日 陸軍大臣伯耆大山 巖

陸軍大學校入學始審並ニ再審検査課目

步騎兵科

其一 算學

甲 代數

一 二項式平方、多項式除法、分數化法、同加減乘除、根式化法、同加減乘除  
 一元二元及多元一次方程式、答解ノ考判、負ノ答解不能及不定ノ場合  
 一元二次方程式、答解ノ考判、根ト係數トノ關係、二次三項式ノ分解法、二元二次方程式、重二次方  
 式並ニ答解ノ考判  
 數理級數ノ第 $n$ 項、同中數、同諸項ノ和、幾何級數ノ第 $n$ 項、同中數、同諸項ノ和、同遞降無窮項ノ和、積  
 商方及根ノ對數、對整數、負ノ對整數、對數表ノ使用

乙 幾何學

一 平面ノ部

相遇線、相等三角形、二等邊三角形、垂線、斜線、相等直三角形、平行線、三角形及多角形ノ諸角ノ和、平行  
 邊形  
 相等圓形ノ弧弦、切線、割線、二圓周ノ關係、中心角、內切角、垂線及平行線ヲ作ル法、三角形ヲ作ル法、切  
 線及圓分ヲ作ル法  
 諸多角形ノ面積、直三角形ノ邊ノ關係、斜三角形ノ邊ノ關係  
 比例線、相似三角形、相似多角形、多角形ノ面積ト邊トノ比例、切線、割線ノ比例、四角形ノ邊ト對角線  
 ノ關係、線ヲ比例ニ從テ分ツ法、面積ニ關スル設問  
 正多角形ノ邊、同面積  
 圓周及弧ノ長、圓形分圓形及圓分ノ面積  
 二 立體ノ部  
 空處ノ直線及平面、直線ト平面ノ平行、多平面ノ平行、垂面  
 二面角、體角  
 柱體、長方體、平行面體、錐體、相似體  
 球面上ノ諸線、諸形並ニ切平面  
 圓柱體、圓錐體、球體

其二 戰術

步兵操典 步兵科士官

步兵野外演習軌典同上

其二 砲兵學(射的教程)

衝力重力並ニ二力ノ合力空氣ノ抵抗力前ニ三力ノ合力射距離ノ變化射擊躲避ノ五原因命中ノ測法  
 平均彈道射擊ノ規則  
 距離ノ測量歩數ノ一定及ヒ距離ノ測定兵卒距離目算演習  
 教練ノ方法同ク手續架上ノ照準照準ノ修正照尺主用ノ理解射擊ノ姿勢  
 獨立射擊動的射擊傾斜射擊擲射銃劍ヲ裝シテ行フ射擊連發銃ノ射擊衆合射擊觀閱射擊衆合  
 射擊効力ノ測法

其四 工兵學

甲 臨時築城

速成法ノ断面構造時間工手ノ數  
 野堡ノ断面工手ノ數及配賦法構造時間除土積土ノ平等除土積土ノ施行法  
 經始ノ要領啓開堡ノ構造時間除土積土ノ平等除土積土ノ施行法  
 堡壘咽喉部ノ閉塞堡壘通路ノ閉塞壕ノ築橋  
 砲門及其經始砲坐及其經始砲床砲藥庫  
 戍兵ノ處置銃眼破裂除障障障復郭諸種木倉側防匡倉  
 諸種被覆法  
 諸種副防禦 拒馬サンダンブレイ又木ト及ヒ其毀損  
 遮蔽法

溝道路堤並圖板製固牆獨立壁籬笆阻絕獨立家屋ノ防禦編制

橋頭堡

廠舍野營哨處ノ廠舍哨舍露營ノ廠舍銃架

乙 軍路

道路橫断面即チ凸形中央路ノ幅側路壕溝製及ヒ敷石製ノ中央路  
 道路ノ附屬物即チ道傍路橫溝斜溝  
 束柴道木製道上製道

道路ノ保存修繕毀損

車橋諸種堡壘橋樽橋杭橋

小橋

徒涉場ノ性質徒涉場ノ探知徒涉場ノ通過徒涉場ノ破壞水上ノ通過游泳通過

橋梁輻重ノ毀壞木製橋梁ノ毀壞某距離ニ在ル敵ノ橋梁ノ毀壞船橋ノ修繕杭橋ノ修繕被斷セル

永久橋ノ修繕法 木製橋梁ノ構造ニ關シテハ橋脚ノ基礎ニシテハ橋脚ノ基礎ニシテハ橋脚ノ基礎ニシテハ

通過點ノ標定橋梁ノ敷通過ノ時刻奇行ノ通過強行ノ通過退却ノ通過

其五 地理圖學

梯尺ノ製法標高水平曲線等距離最大傾斜線山嶺谷圖根測尺測鎖水平化法ノ梯尺長測量ノ許

スヘキ誤差

磁鐵儀其諸點檢邊長ノ大小限直反視法左右視法分度器

測板其標定照準儀其諸點檢角ノ編制法

道線法誤差ノ配賦交會法立線法交截法基線ノ變換方籠磁鐵

碎部圖根橫線光線法縱橫法測手矩其諸點檢

比列爾水準器其用法標尺兩點間ノ水準測量道線水準測量氣泡水準器其點檢

步度ニ依ル距離測量其梯尺腕長ニ依ル距離測量

水準測斜儀其使用法迅速圖ノ一般圖根已知件ノ使用碎部圖根碎部測圖一般圖根ノ水準測量碎

部水準測量

偵察測圖目算測圖路上測圖

其六 馬學 騎兵科士官ニ限ル

解剖外観攝生

以上ノ八課目ハ應問或ハ對策ヲ以テ試驗スヘシ

其七 乘馬

其八 外國語學

法蘭西獨逸語學ノ試驗ハ志願者ノ隨意タルヘシ

從來自製セル砲兵築城地理圖學等ニ係ル圖面所持ノ者ハ再審檢査ノ時檢査官ノ參考ニ供スル爲

メ試驗ノ節之ヲ携帶スヘシ

砲工兵科

其一 算學

甲 代數學 歩騎兵科ニ同シ

乙 幾何學 同

丙 三角學

一角ノ八線ノ關係八線ノ相關値

二弧ノ和或ハ差ノ正弦餘弦同正切餘切倍角或半角ノ比切ニ正弦或ニ餘弦ノ和或差ノ對數式ニ正

弦ノ和ト差ノ比

八線表ノ作法及使用

直三角形ノ邊角ノ關係解法並ニ考判斜三角形ノ邊角ノ關係解法並ニ考判

三角形ノ面積

量地ニ係ル三角學ノ應用

其二 戰術

步兵操典 工兵科士官

步兵野外演習軌典

砲兵操典 砲兵科士官

砲兵野戰職務

其三 砲兵學

火藥 火藥ノ發機燃燒綿藥炭化室素暗母尼亞ノ火藥實那美多空彈內裝爆藥ノ効用空彈ノ破

裂學理上ノ破裂藥量

火孔ノ感觸最大初速ヲ得ル火砲ノ腔長ヲランシユ一及ヒシニルツ驗速儀ロドマン錘撞機壓

縮驗壓機

彈道 真空中運動則空氣抵抗力試驗ノ要領彈丸前部ノ形狀後部ノ形狀彈道係數回轉ノ交感真空

中及ヒ空氣中彈道ノ比較

火砲 火砲用ノ金屬尖彈及ヒ回轉動ニ由テ來ル利害翼式腔綫壓翼式腔綫

彈丸及ヒ信管榴彈榴彈震彈震彈着發信管(慣性反動)滅火(曳火信管(直火道)圓火道)

材料 野砲架 攻城砲架 要塞砲架 海岸砲架 海軍砲架 送重車 送砲車 駐退機  
 射擊 觀三角 表尺 普通ノ裝置 假設法 假設目標 器械ヲ以テ距離ヲ測量スル法 射距離ニ係ル命中  
 射擊表編設ノ大意 隊伍ニ對スル射擊ノ土砂 砲臺及ヒ甲級ニ對スル射擊  
 砲臺 攻城砲臺ノ構造 肩輿砲門 橫斷砲臺庫 照檢場 被覆百二十八密攻城砲床 二十四斤及ヒ十二  
 斤砲床 第一時限ノ砲臺 平行壕内白砲砲臺 急造砲臺 位置ノ偵察 砲臺ノ經始

其四 工兵學

甲 臨時築城 歩騎兵科ニ同シ

乙 永久築城

断面即チ胸牆ノ厚火線ノ高界線近時上斜面ノ傾度外斜面内斜面踏段ノ壘道 壘壁斜面 壕斜堤及  
 覆道

依貼内岸ヲルマン及ビルニアジ 半分派内岸 分派内岸 内岸ノ遮蔽 外岸

「カホニニール」ニ依ル側防「カホニニール」ノ形狀及其編制内岸ニ依ル側防 外岸ニ依ル側防 巔頂ニ

依ル側防 稜堡經始ノ弊害

戍兵ノ處分 砲臺ノ處分 彈藥ノ醫舍 控兵及預備兵ノ醫舍 要塞ト其内部ノ交通

内堡 外堡 （壘半月區ノ覆道 其他被  
 覆道ニ係ル事件ヲ除ク）

設堡陣 分派堡ノ幅員 分派堡ノ兵備 分派堡ノ經始 分派堡ヨリ核堡ニ至ル距離 兩分派堡ノ間隔分

派堡ノ断面及其内部ノ編制 獨立堡

水壕ノ利害 眠水壕 流水壕 氾濫

海岸堡及海岸砲臺即チ地位 露天砲臺 砲臺ヲ備フル防備砲臺 海堡

固定壘 壘浮游壘 壘單トルヒール 混トルヒール

假備築城即チ作業ノ時間及其施行ノ一般ノ編制 断面經始及側防 壘堡ノ編制

近時要塞ノ編制即チ堡線 核堡 連續正面ヨリ成ル圓郭堡ト系統ヨリ成ル圓郭 中間系統 軍壕 溝 軍

營 交通路

要塞内ノ建築

要塞ノ攻撃法 攻圍 堡線ノ正攻 第二線ノ攻圍 本郭ノ正攻

要塞ノ防禦法 戰時ニ採用スル處分 攻圍間ノ防禦法 永久堡攻圍間ノ防禦法 假備堡攻圍間ノ防禦

法 本郭攻圍間ノ防禦法

坑路ノ種類 藥室ノ種類 毀壞半徑 坑室ノ構設 導火藥 導火索 導電線 藥室ノ裝填 藥室ノ填塞 藥室照

火諸法 動靜二種ノ電氣器ヲ用ユル場合 敷藥室ノ爆發

特種藥室即チ烟坑 坑散井 坑散井烟坑 坑塞後裝填スル藥室 空坑及之ニ用ユル器械

丙 軍路

道路ニ關スル一般ノ考量即チ傾斜 曲線 橫断面 凸道 組成 樑等ノ感應

道路橫断面即チ凸形 中央路ノ幅 側路 壕 溝 製及敷石製ノ中央路

道路ノ附屬物即チ道傍路 橫溝 斜溝

束柴道 木製道 土裝道

道路ノ保存 修繕 毀損

山國ニ於ケル道路ノ經始

河川ノ成立 河底ノ傾斜 速度 凹線ノ速度ノ測定 河幅ノ測定 橫断面ノ測定 水流ノ定程 及中等速度

ノ決定 水流ノ激突及屈曲 速度ヲ決定スル他ノ方法 増水 河床ノ變換 各種告示ノ嚮導

築留諸法即チ尋常 鋪 籠 網ノ纏結 川岸ニ植立スル杭ノ纏結 鵝足形ノ纏結 纏結照

橋礎ノ構築

船橋ノ構築及分解法即チ連續船ノ法、門橋ノ法、每部ニ依ル法、旋回ニ依ル法、此四法ノ性質ニ脚踏

ニ於ケル架柱ノ使用  
商船橋ノ構築、負桁架柱、大橋節及最大橋節ノ架橋

筏ノ構築、板橋ノ構築、樑架柱及箱筏ノ架橋

尋常架柱、急造架柱、架柱橋ノ構築諸法

ヒラゴ一架柱、架柱ノ配置法、ヒラゴ一橋梁ノ緊結法、ヒラゴ一架柱ノ弊害、ヒラゴ一式急造物料、自耳

義式架柱

車橋、諸種堡壘橋、抗橋

軍橋ノ貯存、即チ軍隊及車輛ノ通過、素質ノ作用、敵ノ企望、監守哨所、守備哨所

浮游體上ノ通過、飛橋及其充備スヘキ性能、滑網橋、滑網筏、線網橋

小橋

徒涉場ノ性質、徒涉場ノ探知、徒涉場ノ通過、徒涉場ノ破壞、水上ノ通過、游泳通過

橋梁、輻重ノ毀壞、木製橋梁ノ毀壞、磚壁製橋梁ノ毀壞、其距離ニ在ル敵ノ橋梁ノ毀壞、船橋ノ修繕、抗

橋ノ修繕、破斷セル永久橋ノ修繕法、バラスト、閉結、ポンツォン、セラ、ヒラゴ、アザード、アザード、アザード

通過點ノ探知、橋梁ノ數通過ノ時刻、奇行ノ通過、強行ノ通過、退却ノ通過

其六 地理圖學

最大傾斜線ニ從テ、量測、量測、量測、大小間隔、量測ノ實行規則、量測法、直照光線法、等色曲線、其

實際活用、斜照光線法

磁鐵儀、其諸點、檢、邊長ノ大小、限直、反視法、左右視法

球分測板、其使用、照準儀、其點檢

道線法、其誤差ノ檢出並ニ配賦、交會法、立線法、交會法、基線ノ變換法

橫線光線法、縱橫法、柱体ニケル、其點檢

直接並ニ間接水準測量ノ方法

眼鏡ノ素質、其正視

測桿、傾斜地ニ於ケル其使用法、水平化法ノ梯尺、測桿上距離ノ算定及ヒ其點檢

應高法、極星法

氣泡水準器ノ感應、砲工學校式眼鏡、水準器、其諸點檢、其用法

自讀標尺、厄格米、米突ノ要領、多、米突、其諸點檢、其使用法

其七 馬學

外鏡、攝生

以上九課目ハ、應問或ハ對策ヲ以テ試驗スヘシ

其八 乘馬

其九 外國語學

法蘭西、獨逸語學ノ試驗ハ、志願者ノ隨意タルヘシ

從來自製セル砲兵工、地理圖學等ニ係ル圖面所持ノ者ハ、再審檢査ノトキ、檢査官ノ參考ニ供スル

爲メ試驗ノ節之ヲ携帶スヘシ

始審檢査方法

一、始審檢査ハ、候補者ノ各所管ニ於テ、其長官又ハ次官ノ監視ヲ以テ之ヲ行フ

二、問題ハ、參謀本部長ヨリ密封シテ、豫メ各所管ノ長官ニ送附ス

一、檢査ノ時日ハ、各地共ニ同一ナルヲ要ス、故ニ參謀本部長ヨリ豫メ之ヲ指定シ、各候補者ニ故障ナカ

ラシム

- 一 検査ノ施行ハ豫定日数ノ中ニ於テ參謀本部長之ヲ通知ス
- 一 各所管ニ於テハ其當日問題ヲ開封シ之ヲ候補者ニ與フ
- 一 検査課目ニ示ス各項ニ就キ筆記ノ問題ヲ與ヘ筆記シテ解答セシム其時間ハ各問題中ニ示ス
- 一 各所管ニ於テハ當日ノ検査終レハ直ニ其書類ヲ參謀本部長ニ進達ス
- 但シ弊數ヲ附スルニ及ハス
- 一 乘馬ノ試験ハ始審検査ニハ之ヲ行ハス

再審検査方法

- 一 再審検査ハ東京陸軍大學校ニ於テ行フ
  - 一 検査課目ニ示ス各項ニ就キ筆記ノ解答又ハ口答ヲナサシム
- 陸軍第二十三號  
軍馬傳染病取扱概則別冊之通定ム

明治二十年二月二十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

軍馬傳染病取扱概則

第一章 總則

- 第一條 本則ハ主トシテ近衛鎮守各隊ニ於テ執行スヘキモノナリト雖トモ軍馬所屬ノ官廳ニ在テモ亦之ニ準據スルモノトス
- 第二條 本則ニ稱スル傳染病トハ炭疽莫爾布華爾撒疥癬ノ諸病ヲ云フ
- 第三條 獸醫官ニ於テ軍馬ニ傳染病ノ發顯ヲ認ルトキハ直ニ隊長並ニ獸醫長ニ報告スヘシ

但疑似症ニ在テモ本條ニ準ス

- 第四條 隊長前條ノ報告ヲ受クルトキハ直ニ所管長官ニ申告シ所管長官ハ獸醫長ヲシテ詳細調査セシメ病勢猛烈ニシテ蔓延ノ兆アルトキハ其概況ヲ陸軍大臣ニ開申シ且近傍軍馬所屬ノ各隊官廳及地方廳ニ通知スヘシ
- 第五條 凡傳染病馬ノ近接ニ在ル馬匹ハ他ノ健馬ト隔離シ嚴ニ觀察ヲ行フヘシ
- 第六條 前條觀察ヲ行フ日限ハ莫爾布華爾撒ニ在テハ二十五日疥癬ニ在テハ十日炭疽ニ在テハ八日間トス
- 第七條 凡傳染病ニ罹リ斃死若クハ撲殺シタル馬匹ノ屍體ハ明治十九年農商務省令第十一號獸畜傳染病豫防規則第九條ニ據リ處分スヘシ
- 第八條 凡傳染病疥癬ヲ罹リ斃死若クハ撲殺シタル馬匹ノ屍體ハコールド石灰又ハ石灰酸水ニ浸セル砂ヲ用ヒ箱ニ容レ又石炭酸水ニテ潤シタル紙ヲ以テ周密ニ被包シ其運搬ニハ牛馬ヲ用ユ可ラズ
- 第九條 凡傳染病ニ罹リタル馬匹ノ排泄物並ニ飼料糞草ハ勿論病馬ノ近接ニ在ル馬匹ノ飼料糞草ヲ併セテ燒棄スヘシ
- 第十條 炭疽莫爾布華爾撒ニ罹リタル病馬ヲ管理スル者ハ其症ノ輕重ヲ問ハス決シテ他ノ健馬ニ接ス可ラズ
- 第十一條 凡傳染病流行中ハ獸醫官ハ日々健馬ノ検査ヲ行ヒ消滅ノ後ト雖トモ一ヶ月間ハ一週間ニ三回ツノ之ヲ行フモノトス
- 第十二條 地方ニ於テ獸畜傳染病流行スルトキハ所管長官ハ時宜ニ由リ獸醫長若クハ隊附獸醫官ヲ派出シ其概況ヲ審査セシムルコトアルヘシ



第十三條 演習行軍等ニ際シ其地方ニ獸畜傳染病流行スルトキハ軍馬ヲ接近セシム可カラズ

第十四條 行軍又ハ露營ニ於テ炭疽莫爾布華爾撒ヲ糞シタルトキハ獸畜傳染病豫防規則第十一條ニ據リ處分シ若シ斃死又ハ重症ニシテ回復ノ見込ナク撲殺シタルトキハ第八條ノ消毒法ヲ施シタル後第七條ニ依リ處分スヘシ

第十五條 地方ニ於テ炭疽流行スルトキハ該地方ヨリ飼料其他馬匹ニ用フヘキ物品ヲ購入ス可カラズ

第十六條 地方ニ於テ炭疽流行スルトキ該地ヲ經過シ來ル馬匹ハ消毒法施行ノ後ニ非サレハ厩内ニ牽入可ラズ但消毒ノ方法ハ獸醫官ニ於テ臨時之レヲ定ムヘシ

第二章 豫防法

其一 炭疽莫爾布華爾撒ノ豫防

第十七條 炭疽發顯シタル時ハ該病馬ノミ同厩内ニ繋置キ而シテ此レト居テ同フシタル馬匹ハ皆悉ク疑似症ト見做シ他所ニ移シテ嚴ニ觀察スヘシ

第十八條 該病馬ヲ繋留スル厩ハ密閉シ獸醫官及管理者ノ外ハ濫ニ出入スヘカラス

第十九條 炭疽ニ罹リタル病馬ニ使用シタル器具ハ悉皆燒棄シ其旨獸醫官ヨリ隊長ニ報告シ隊長ハ所管長官ニ申告スヘシ

第二十條 莫爾布ノ兆候顯然タルモノ及華爾撒ニ罹リ重症ナルモノハ獸醫官ノ申告ニ依リ隊長撲殺ヲ命シ其旨ヲ所管長官ニ申報スヘシ

第二十一條 疑似症莫爾布若クハ輕症華爾撒ニ罹ルモノハ速ニ別厩ニ移シ治療ヲ加ヘ全治ニ至ルト雖トモ尙三週間別厩ニ於テ觀察ヲ行ヒ再發セサルトキハ本厩ニ牽戻ス可シ

第二十二條 莫爾布華爾撒ノ病馬ニ使用シタル器具ハ獸醫官ニ於テ燒棄スヘキモノト再用スヘキモノトヲ區分シ燒棄スヘキモノハ第十九條ニ據リ處分スヘシ

第二十三條 傳染病馬ヲ管理セシムルニハ體質虛弱ナル者面部手部ニ創傷アル者ヲ使用ス可カラズ且其管理者ハ必ス靴ヲ穿ツヘシ

第二十四條 凡ソ管理者傳染病馬ニ接スルノ后ハ毎ニ石鹼ヲ以テ面部手部ヲ清洗シ若シ施療ノ際誤テ創傷ヲ負フ者ハ直ニ燒烙ス可シ

其二 疥癬ノ豫防

第二十五條 疥癬ニ罹リタル馬匹ハ速ニ別厩ニ移シ健馬ハ勿論他ノ病馬ト近接ス可ラズ

第二十六條 疥癬流行スルトキハ獸醫官ハ深ク注意シテ日々厩内ヲ巡視馬匹ヲ検査シ殊ニ鬃毛尾基及四肢ノ内面ヲ診視スヘシ

第二十七條 脫毛及癢痒ヲ爲ス馬匹ハ疑似症トナシ他ノ健馬ト離隔スヘシ

第二十八條 別厩シタル毛髮ハ病厩ノ一隅ニ集メ百倍ノ石炭酸水ヲ澆キ遠隔ノ所ニ於テ深ク埋瘞スヘシ

第二十九條 疥癬治癒后ト雖トモ尙別厩ニ置キ病痕消退シテ皮膚柔軟トナリ被毛再生スル后ニ非サレハ使役ス可ラズ

第三章 消毒法

其一 厩舎及屬具ノ消毒

第三十條 凡ソ傳染病ヲ糞シタル厩舎及屬具共外トモ消毒法ヲ施シタル后八日乃至十日ヲ經ルニ非サレハ復ヒ使用ス可ラズ

第三十一條 厩舎内ニ於テ消毒法ヲ施ス際ハ窓戸ヲ開放シ大氣ヲ流通シ厩内ノ濕氣ヲ驅除ス可シ

第三十二條 糞隔水飼槽及飼棚等ハ丁寧ニ磨拭シ尙水熱湯ヲ用テ附着セル汚垢ヲ洗除ス可シ

第三十三條 前ノ如ク洗滌後敷時間ヲ過キ乾燥スル時ハ更ニ五百倍ノ格魯爾石灰水若クハ粗製石炭酸水ヲ用テ洗ヒ次日濃厚石灰液ヲ壁面及伺槽等ニ塗り又之レヲ擦上ニ散布スヘシ

第三十四條 土蔵ニ在テハ凡深サ四寸ヲ目途トシ土層ヲ掘除シ更ニ新土ヲ置キ其掘除シタル土ハ五百倍ノ格魯爾石灰水若クハ粗製石灰酸水ヲ用テ消毒ノ上遺隔ノ所ニ深ク埋瘞ス可シ但シ露營ノ時ニ在テハ病馬繫在ノ場所ニ本文ノ消毒法ヲ施行シ尙最寄ノ警察署ヘ通知シ置クヘシ

第三十五條 凡ソ厩舎ニ付屬スル器具熊手桶水槽等ハ磨拭シ格魯爾石灰水ヲ以テ洗除シ乾燥スヘシ

其二 馬具ノ消毒

第三十六條 勒水勒繩及鞍ハ附屬品ヲ解除シ根柢ニ五百倍ノ格魯爾石灰水ヲ浸シテ逐一反復洗滌スヘシ殊ニ馬體ニ觸接シタル部分ハ精洗ス可シ

第三十七條 絨麻布鞍褥毛布腹帶ノ類並ニ鐵具ハ五分時間熱湯中ニ浸ス可シ

第三十八條 熱湯ニ浸ス可ラサル物品ハ格魯爾石灰水ニテ洗磨シ後更ニ水ヲ以テ清洗スヘシ

其三 被服及手入器具ノ消毒

第三十九條 傳染病馬ヲ看護セル者ノ衣服及ヒ帽子類ハ石鹼ニテ洗ヒ而シテ熱湯ニ浸スヘシ若シ獸醫官ニ於テ燒棄ス可シト認ムルモノハ第十九條ニ據リ處分スヘシ

第四十條 手入器具ハ第三十二條第三十三條ニ據リ消毒法ヲ施シ若シ獸醫官ニ於テ燒棄ス可シト認ムルモノハ第十九條ニ據リ處分ス可シ

○陸軍部第二十四號

自今各隊之輕病室ヲ廢シ更ニ左ノ各室ヲ設ク

中隊ニ 休養室

聯「大」隊ニ

大隊ヲササハル隊ニ在テハ中隊

醫官看護長室

診斷所

藥室 營所分營ニ在テハ之ヲ置カス

明治二十年二月二十五日

陸軍大臣伯耆大山 巖

○陸軍部第二十五號

工兵方面條例第二十五條ヲ刪除シ第二十六條ヲ第二十五條ニ以下逐次繰上ク

明治二十年二月二十六日

陸軍大臣伯耆大山 巖

○陸軍部第二十六號

客年省令乙第百二十九號ヲ以テ外宿下士卒病削減給乘率表相違候處該達中病額ノ二字刪除ス

明治二十年二月二十六日

陸軍大臣伯耆大山 巖

○陸軍部第二十七號

今般輕病室廢セシレ候就テハ各兵隊歩兵ハ編制表中病室掛之義ハ自然廢止ニ屬シ候間該現任下士之義ハ半小隊長又ハ他ノ下士ノ補欠ニ充テ若シ欠員ナキトキハ過員ノ儘本隊ニ差置クヘシ

明治二十年三月五日

陸軍大臣伯耆大山 巖

○陸軍部第二十八號

擔架術教科書別冊之通定ム (別冊略ス)

明治二十年三月七日

陸軍大臣伯耆大山 巖

○陸軍部第二十九號

從前ノ工兵隊駕馭馬ヲ廢止シ自今該隊演習用ノ馬匹ハ輜重兵隊ヨリ派遣スヘシ

但馱卒長ハ分隊長又ハ他ノ下士ノ補欠ニ充テ若シ欠員ナキトキハ過員ノ儘本隊ニ差置キ馱卒ハ

工卒へ編入スヘシ

明治二十年三月十五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第三十號

今般陸軍教導團各兵科生徒並ニ喇叭生徒召募候補同團條例第三章第二條揭示之通各所管ニ於テ志願者取調此度ニ限リ入學志願人名書ニ名簿寫各一通相添來ルル七月十日迄ニ教導團へ送附スヘシ但陸軍教導團各兵科生徒並ニ喇叭生徒入學檢査格例及ヒ志願者心得別冊之通(別冊ハ陸軍省令第九號ニ同シ但志願者並名簿ヲ除ク)

明治二十年三月十五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第三十一號

陸軍給與概則第十一章別冊之通改正増補シ來ルル四月一日ヨリ施行スヘシ(別冊略ス)但文官旅費ハ追テ何分之儀相達候迄従前ノ通心得ヘシ

明治二十年三月二十四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第三十二號

各隊簿記摸本別冊之通改定ス(別冊略ス)但二十年度以降施行スヘシ

明治二十年三月二十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第三十三號

陸軍計算記簿規程相定メ附屬簿記摸本別冊之通改定ス(別冊略ス)但二十年度以降施行スヘシ

明治二十年三月二十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第三十四號

客年省令乙第三十五號ヲ以テ相達置候計算用書式中年月次現計表及仕拂請求書別紙之通改定候條四月一日以降施行スヘシ(別紙略ス)

但四月以降十九年度ニ係ル分ハ従前之請求書ヲ用フヘシ

明治二十年三月二十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第三十五號

明治十六年<sup>五</sup>陸軍省令第五十一號達精勤證書附與規則中左ノ通改正加除ス

明治二十年三月三十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

第一條及第三條四項中「常備服役」ヲ「現役」ニ改ム

第七條及第八條中所管長官ノ下ニ「營所」ニ在テハ「營所司令」官旅團ニ在テハ「旅團長」ノ割註二十字ヲ加フ

第九條但書ヲ左ノ如ク改ム

但營所ノ下士ニ係ルトキハ營所司令官旅團ノ下士ニ係ルトキハ旅團長ヨリ所管長官ニ開申シテ區處ヲ受ク可シ

第十條中「日晝呼集ノ時」ノ六字ヲ削ル

第十一條但書中「第二條第一項」ヲ「第十二條」ニ改ム

精勤證書離形中「服役」ヲ「現役」ニ其欄外備考中「監軍部以下ヲ「近衛鎮臺」ニ在テ幕僚ハ參謀長其他ハ所屬ノ長營所ニ在テ本部ハ次官其他ハ所屬ノ長又各官廳附屬ノ軍吏軍醫各部ノ下士ハ其計官醫官トス」ニ改ム

○陸軍第三十六號  
函館砲隊廢セラル

明治二十年四月一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第三十七號

現今工兵監護欠員ニ付本年ニ限り工兵曹長同一等軍曹<sup>俸年最下限ヲ</sup>中轉任志願之者ニシテ五ヶ年  
以上隊務ニ服シ検査合格ノ者ヨリ採用候補各所管ニ於テ該志願者取調左之規格ニヨリ検査ヲ遂ケ  
検査書類ト共ニ來九月三十日迄ニ進達スヘシ  
但本文志願者取扱方ノ儀ハ轉科志願者ト同一トス

明治二十年四月二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

|   |   |
|---|---|
| 對 | 策一臨時築城  |
| 察 | 學一三角術ニ至ル  |
| 製 | 圖一臨時築城圖   |
| 備 | 對策ハ二時間算學ハ二時三十分間製圖ハ四時間トス一等軍曹ニシテ轉任志願ノ者ハ本科學術検査<br>ノ後之ヲ行フ |

○陸軍第三十八號

各鎮臺病院始メ左之箇處ニ在ル會計卒之義ハ陸軍ノ次第有之候間欠員之分ハ雇ヲ以テ使用スヘシ  
右雇之者ハ尉夫或ハ庫手秣手等ノ名目ヲ以テ各所管ニ於テ雇入月給金六圓以上金拾圓以下支給  
ス可シ

明治二十年四月二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

各領事病院 陸軍大學校 士官學校 戶山學校  
教導團 憲兵本部 第一調馬隊 第二調馬隊

○陸軍第三十九號

文武委任官命課並ニ判任官任命課其他辭令請書ヲ請書簿ニ換ヘ左ノ通り取扱フヘシ  
但内閣及他ノ官廳ヨリ發達ノ分ハ従前之通り

明治二十年四月七日

陸軍大臣伯爵大山 巖

一辭令ヲ直接ニ木人へ下附スヘキ各所管團隊等ニ於テ請書簿ヲ備置之レニ辭令文ヲ記シ署名セシムヘシ

一各駐在官又ハ出張旅行或ハ病氣等ノ事故ニテ自カラ署名シ能ハサル場合ニ在テハ美濃紙縦八ツ切ニ辭令文年月日官姓名ヲ記シ所管團隊へ送附スヘシ各所管團隊ニ在テハ之レヲ簿冊ニ貼附スヘシ

一文武委任官命課請書式ハ明治十一年十月達乙第百五十一號之通り

○陸軍第四十號

野外演習行軍演習射的演習其他實見學等ノ名義ヲ以テ各長官限リ其部下官吏出張爲致來候處自今特ニ相違候外ハ右等出張之儀一切廢止ス

明治二十年四月八日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第四十一號

自今看守長及看守卒ニ憲兵刀ヲ佩用セシム  
但當分之内他ノ軍刀ヲ以テ代用スヘシ

明治二十年四月八日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第四十二號

陸軍給與概則第十一章中並旅費及赴任旅費表へ左之區畫ヲ追加シ同則第十二章ヲ廢シ第十三章ヲ第十二章トシ以下順次繰上シ

但達到着之日ヨリ施行シ當時出張ノ者ハ木人へ通知到着ノ日ヨリ改ムヘシ

明治二十年四月十二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

|      |   |   |   |   |   |
|------|---|---|---|---|---|
| 武官   | ノ | 下 | ニ | 文 | 官 |
| 大將   | ノ | 下 | ニ | 親 | 任 |
| 中少將  | ノ | 下 | ニ | 勅 | 任 |
| 監軍   | ノ | 下 | ニ | 一 | 等 |
| 軍醫總監 | ノ | 下 | ニ | 二 | 等 |
| 上長官  | ノ | 下 | ニ | 奏 | 任 |
| 士官   | ノ | 下 | ニ | 奏 | 任 |
| 准士官  | ノ | 下 | ニ | 判 | 任 |
| 下士   | ノ | 下 | ニ | 判 | 任 |

○陸軍第四十三號

明治十八年三月達乙第三十七號達ヲ廢止ス

明治二十年四月十二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(參照)明治十八年陸軍省達乙第三十七號達

實地大演習爲見學他管ヨリ發達候者旅費之儀ハ自今上長官金銀圓七拾錢士官金銀圓貳拾陸路里程一日十里附テ以テ支給可致充演習地帯在中ハ總テ行軍旅費支給可致此旨相違候事  
但十里以上陸軍部附法等ハ總テ陸軍給與概則第十一章ニ根據スヘシ

○陸軍第四十四號

步兵携帶器具圖彙及圖解別冊之通定 (別表略)

明治二十年四月十三日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第四十五號

去ル明治十三年達乙第七十一號士官下士一等給定員達中第五項但書へ左ノ十二字ヲ加フ

明治二十年四月十三日

陸軍大臣伯爵大山 巖

憲兵ノ下ニ及工兵曹長ヨリ工兵監護

○陸軍第四十六號

來五月一日ヨリ午前八時出頭午後二時退出ト心得ヘシ

明治二十年四月十四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第四十七號

營内藥室常用藥品別表ノ通定 (別表略)

明治二十年四月十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第四十八號

休養室ニ入ル病者ノ日給ハ全額支給スヘシ

明治二十年四月二十二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第四十九號

本年二月陸軍第十三號達左之通改正ス

明治二十年四月二十二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

平時歩兵一聯隊編制表中聯隊附少佐ノ職務並聯隊會計事務及聯隊醫務取扱左之通心得ヘシ

一聯隊附少佐之職務ハ明治十九年省令乙第百一號之通

一大隊計官中高級故參ノ者ハ兼テ聯隊ニ係ル諸給與並經費ノ事務ヲ掌ル

一大隊醫官中高級故參ノ者ハ兼テ聯隊ノ醫務ヲ掌ル

○陸軍第五十號

戰時工兵隊ニ於テ編成スヘキ野戰及兵站電信隊編制別表之通定ラル (別表略)

明治二十年四月二十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第五十一號

戰時工兵隊及輜重兵隊ニ於テ編成スヘキ大小架橋縱列編制別表之通定ラル (別表略)

明治二十年四月二十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第五十二號

理事登用ノ爲メ本年九月十五日ヨリ試驗舉行候條文官判任官以下ニシテ志願ノ者ハ來ル六月三十

日マテニ願書ヲ所屬官廳ニ出シ非職ノ者ハ陸軍省ニ出スヘシ但技術官ハ出願スルヲ許サズ

所屬官廳ニ於テ其ノ願書ヲ受領シタルトキハ之ヲ陸軍省ニ送致スヘシ

明治二十年四月二十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

試驗出願人心得

第一條 試驗志願者ハ左ニ示ス所ノ書式ニ倣ヒ試驗願書ヲ認メ履歷書ヲ添フヘシ

名 簿

今般陸軍第五十二號ニ基キ試驗相受履歷書相添此取奉願候也

明治二十年 月 日

職官氏名印

現 住 所

陸軍大臣宛

- 第二條 試験ノ方法ハ筆記トス時宜ニ依リ尙ホ口述ヲ以テスルコトアルヘシ
- 第三條 試験合格ノ者ニハ及第證書ヲ附與スヘシ
- 第四條 試験及第者ヲ登用スルトキハ先ツ理事試験ヲ命スルモノトス
- 第五條 試験及第者ヲ登用スルハ其優等ノ者ヨリ需用ノ人員ニ應ジ撰用ス
- 第六條 試験科目ハ左ノ如シ

陸軍刑法

普通刑法

陸軍治罪法

普通治罪法

佛國民法第二編 財產第一卷

佛國民法第三編 第三卷 契約

佛國民法第三編 第四卷 准契約 犯罪

○陸軍第五十二號

陸軍檢閱條例第六條ニ基キ明治二十年定期檢閱ニ關スル事務ノ細則別紙ノ通定ム

明治二十年五月二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別紙)

明治二十年檢閱事務細則

- 一 檢閱條例第十六條ニ依リ行フ處ノ檢閱順次及ヒ其實施ノ方法ハ都督司令官適宜ニ之ヲ定ムヘシ
- ト雖モ第一第二ノ檢閱ハ概テ兵隊ヲ整列セシメテ之ヲ行フモノニシテ一般ニ正裝ヲ用ユルモノトス
- 一 鎮臺司令官檢閱ノ爲メ營所分營等ヲ巡回スルニ當リ之ニ要スル隨行員ハ適宜ニ之ヲ定ムヘシ
- 一 檢閱條例第十六條第四ノ檢閱ニ於テ若シ之ヲ要スレハ射的用具及ヒ野外演習用トシテ砲彈及ヒ銃砲空包ヲ別途支給ス其割合左ノ如シ
- 一 歩兵騎兵 一名ニ付空包六發宛
- 一 砲兵 一大隊ニ付榴彈二十四發榴霰彈十二發空包二十發宛
- 一 定期檢閱ニ關スル諸入費ハ總テ近衛鎮臺定額金ノ内ヲ以テ支辨ス
- 一 檢閱條例第十八條ニ掲ル報告ハ其檢閱了ルノ後同條例第十六條ニ掲タル要目ノ各項ニ就キ檢閱ノ成績ヲ詳悉ニ進達スルモノトス但改正ヲスヘキ事項アルトキハ之ヲ詳記シ都督司令官ノ意見ヲ附シ進達スヘシ
- 一 定期檢閱全濟ノ上ハ各隊將校以下ハ三日間休暇休業ヲ與フルコトヲ得ル
- 一 士官學校生徒諸隊砲兵射的學校教導中隊教導團諸隊ノ檢閱ハ近衛都督ニ於テ之ヲ行フ
- 一 東京憲兵隊第一洞馬隊ノ檢閱ハ東京鎮臺司令官ニ於テ之ヲ行フ

一 大阪憲兵隊ノ檢閱ハ大阪鎮守司令官第三調馬隊ノ檢閱ハ仙臺鎮守司令官ニ於テ之ヲ行フ

一 近衛都督鎮守司令官諸學校教導團憲兵調馬等諸隊ノ檢閱ニ當リテハ其時日順序等ヲ定メ豫メ其長官ニ通報スヘシ各長官ハ該隊ニ於テ平素履行セシ成績及ヒ情況ヲ悉シ都督司令官ニ通報シ檢閱ノ參考ニ供スヘシ

一 對馬警備隊及ヒ沖繩分遣隊ノ定期檢閱ハ所管鎮守ヨリ佐官一名監督部士官軍醫部士官各一名ヲ派遣シテ之ヲ行ハシム

○陸軍第五十四號

本年陸軍大學校學生候補者ノ備ハ候補名簿ニ其人名書ヲ添ヘ本月三十一日迄ニ進達スヘシ

明治二十年五月二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第五十五號

士官下士學術檢査規則別冊ノ通改定ス

明治二十年五月二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

士官下士學術檢査規則

總則

第一條 毎年定期檢閱ノ時期ニ於テ士官下士ノ學術檢査ヲ行フ

第二條 學術檢査ハ分テ二トス

其一 進級檢査

其二 轉科檢査

第三條 此檢査ノ規格ハ毎年之ヲ定メ檢査實施ノ期ヨリ六ヶ月前ニ布達スルヲ例トス

第四條 陸軍省ニ學術檢査審査委員ヲ置ク其編制左ノ如シ

委員長

總務局長

委員

陸軍省各局上長官

各一名 時宜ニ依リ若干名ヲ增加ス

參謀本部上長官

一名

第五條 此委員ハ學術檢査ノ方法及ヒ點數附與ノ格例ヲ立案シ學術檢査書類ヲ審査シ進級及轉科決定候補名簿ノ案ヲ作ル等ノ事ヲ取扱フモノトス

第六條 學術檢査ノ方法點數附與ノ格例等ハ毎年檢査實施前之ヲ定メ近衛都督鎮守司令官及東京諸官廳士官學術檢査委員長ニ告達ス

第七條 學術檢査ハ檢査委員ヲ編制シテ之ヲ施行ス其編制別表ノ如シ

進級檢査

第八條 進級檢査ハ毎年七月一日實役停年最下限ヲ超ニヘキ者 留任ノ者ハ除クニ限り之ヲ行フモノトス但左ニ列記スル者ハ此檢査ヲ行ハス

一 陸軍大學校卒業ノ者

一 砲工兵上等監護同監護

一 砲兵諸職工長同下長 火工長同下長ハ除ク

一 騎兵蹄鐵工長同下長

一 軍樂部士官下士



一軍吏部一 等軍吏及一 等書記  
一軍醫部一 等看護長

第九條 陸軍大學校修學中ノ者ハ其學期末ノ試験ヲ以テ進級検査ニ代用シ別ニ進級検査ヲ行ハス

轉科検査

第十條 轉科検査ハ轉科志願者ノ轉スヘキ兵科學術ノ程度ヲ試験スルモノニシテ實役停年ノ如何ニ係ハラス之ヲ行フモノトス但此検査ヲ受クル者ハ進級検査ヲ行ハス

第十一條 砲工兵監護砲兵諸職工長同下長騎兵踏鐵工長同下長等ヨリ同曹長又ハ同一二等軍曹等ニ轉任スヘキ者ハ轉科ト同様本科學術ノ検査ヲ行フ

第十二條 各兵科ヨリ憲兵輜重兵及屯田兵科ニ轉セシムル者並ニ此各兵科ヨリ原兵科ニ復セシムル者ハ轉科検査ヲ行ハス

(別表)

東京諸官廨士官學術検査委員編制表

| 委員長   |       | 委員    |       | 受檢者 |     | 所管  |     |
|-------|-------|-------|-------|-----|-----|-----|-----|
| 兵科    |       | 兵科    |       | 兵科  |     | 兵科  |     |
| 參謀大佐  | 參謀中少佐 | 參謀大佐  | 參謀中少佐 | 陸軍省 | 陸軍省 | 陸軍省 | 陸軍省 |
| 砲兵科佐官 | 砲兵科佐官 | 砲兵科佐官 | 砲兵科佐官 | 砲兵科 | 砲兵科 | 砲兵科 | 砲兵科 |
| 工兵科佐官 | 工兵科佐官 | 工兵科佐官 | 工兵科佐官 | 工兵科 | 工兵科 | 工兵科 | 工兵科 |
| 騎兵科佐官 | 騎兵科佐官 | 騎兵科佐官 | 騎兵科佐官 | 騎兵科 | 騎兵科 | 騎兵科 | 騎兵科 |
| 步兵科佐官 | 步兵科佐官 | 步兵科佐官 | 步兵科佐官 | 步兵科 | 步兵科 | 步兵科 | 步兵科 |

中少將

| 監部長  |       | 監部    |       | 監部    |       | 監部    |       | 監部    |       | 監部    |       | 監部    |       | 監部    |       |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 監部   |       | 監部    |       | 監部    |       | 監部    |       | 監部    |       | 監部    |       | 監部    |       | 監部    |       |
| 參謀大佐 | 參謀中少佐 | 砲兵科佐官 | 砲兵科佐官 | 工兵科佐官 | 工兵科佐官 | 騎兵科佐官 | 騎兵科佐官 | 步兵科佐官 | 步兵科佐官 | 砲兵科佐官 | 砲兵科佐官 | 工兵科佐官 | 工兵科佐官 | 騎兵科佐官 | 騎兵科佐官 |
| 陸軍省  | 陸軍省   | 砲兵科   | 砲兵科   | 工兵科   | 工兵科   | 騎兵科   | 騎兵科   | 步兵科   | 步兵科   | 砲兵科   | 砲兵科   | 工兵科   | 工兵科   | 騎兵科   | 騎兵科   |

一軍醫部一 等看護長  
一軍醫部委員ノ職階ニ各ノ内一名ヲ欠クテハ騎兵科佐官ヨリ二名トス

近衛鎮守士官學術検査委員編制表

| 委員長    |        | 委員     |        | 受檢者所管 |  |
|--------|--------|--------|--------|-------|--|
| 近衛部    | 近衛部    | 步兵旅團長  | 步兵旅團長  | 步兵隊   |  |
| 步兵大隊長  | 步兵大隊長  | 步兵大隊長  | 步兵大隊長  | 步兵隊   |  |
| 騎兵聯隊長  | 騎兵聯隊長  | 騎兵聯隊長  | 騎兵聯隊長  | 騎兵隊   |  |
| 砲兵聯隊長  | 砲兵聯隊長  | 砲兵聯隊長  | 砲兵聯隊長  | 砲兵隊   |  |
| 工兵大隊長  | 工兵大隊長  | 工兵大隊長  | 工兵大隊長  | 工兵隊   |  |
| 輜重兵大隊長 | 輜重兵大隊長 | 輜重兵大隊長 | 輜重兵大隊長 | 輜重兵隊  |  |
| 監督部長   | 監督部長   | 監督部長   | 監督部長   | 輜重兵隊  |  |
| 軍醫部長   | 軍醫部長   | 軍醫部長   | 軍醫部長   | 軍醫部   |  |
| 衛生部長   | 衛生部長   | 衛生部長   | 衛生部長   | 衛生部   |  |
| 各部     | 各部     | 各部     | 各部     | 各部    |  |

一近衛鎮守士官學術検査委員編制表  
 一近衛鎮守士官學術検査委員編制表  
 一近衛鎮守士官學術検査委員編制表

下士學術検査委員編制表

| 委員長    |        | 委員     |        | 受檢者所管 |  |
|--------|--------|--------|--------|-------|--|
| 步兵聯隊長  | 步兵聯隊長  | 步兵大隊長  | 步兵大隊長  | 步兵隊   |  |
| 騎兵聯隊長  | 騎兵聯隊長  | 騎兵中隊長  | 騎兵中隊長  | 騎兵隊   |  |
| 砲兵聯隊長  | 砲兵聯隊長  | 砲兵大隊長  | 砲兵大隊長  | 砲兵隊   |  |
| 工兵大隊長  | 工兵大隊長  | 工兵中隊長  | 工兵中隊長  | 工兵隊   |  |
| 輜重兵大隊長 | 輜重兵大隊長 | 輜重兵中隊長 | 輜重兵中隊長 | 輜重兵隊  |  |
| 憲兵本部長  | 憲兵本部長  | 憲兵大隊長  | 憲兵大隊長  | 憲兵隊   |  |
| 憲兵中隊長  | 憲兵中隊長  | 憲兵中隊長  | 憲兵中隊長  | 憲兵隊   |  |

一砲工兵第二方面大阪砲兵工廠及リ他軍備本廠監督下ニ在ル開闢隊及リ軍馬育成所士官ノ検査ハ他派  
 大阪砲兵工廠ノ各本科検査委員ヲシテ之ヲ行ハシム  
 一大阪砲兵工廠士官ノ検査ハ大阪砲兵工廠士官ノ検査委員トシテ之ヲ行ハシム其委員ハ參謀佐官ニ名憲兵大隊  
 長一名トス  
 一職官部及隊附職官ノ検査ハ騎兵科委員ニ職官部ヲ加ヘ之ヲ行ハシム但職官部ノアラサル地ニ在テ  
 ハ一軍醫部及衛生部ノ検査委員ニ加フ但職官部ノアラサル地ニ在テハ一軍醫部及衛生部ノ  
 一軍醫部及衛生部ノ検査委員ニ加フ但職官部ノアラサル地ニ在テハ一軍醫部及衛生部ノ  
 一軍醫部及衛生部ノ検査委員ニ加フ但職官部ノアラサル地ニ在テハ一軍醫部及衛生部ノ

|     |      |   |  |   |          |
|-----|------|---|--|---|----------|
| 部吏軍 | 監督部長 | 一 | 監督部課長(三等監督) 監督部課長(二等監督) 或八部員(二等軍吏)   | 一 | 監督部      |
| 部醫軍 | 軍醫長  | 一 | 院長課長或八步兵隊 醫官(二等軍醫正) 前院醫官或八隊附 醫官(二等軍醫)  | 一 | 各隊各部     |
| 備考  |      | 二 | 一近衛編隊並三其他ノ隊外各兵下士ノ檢査ハ各所管初ニ北兵科ニ應シ木表ニ應シテ委員ヲ編制シ之ヲ行フ但便宜ニ依リ本表各本料各隊ノ委員ヲシテ之ヲ行ハシムルモ妨ケナシ 一各官廳軍吏部下士ノ檢査ハ本表軍吏部委員ヲシテ之ヲ行ハシム | 二 | 病軍各 院醫部隊 |

○陸達第五十六號

陸軍大學校學生候補者候補名簿別紙離形ノ通告

明治二十年五月二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別紙)

陸軍大學校學生候補名簿 (△印ハ朱)

|      |               |     |    |                |               |              |     |      |               |     |     |                     |               |
|------|---------------|-----|----|----------------|---------------|--------------|-----|------|---------------|-----|-----|---------------------|---------------|
| 所管隊號 | 職官姓名          | 族   | 籍  | 何府(縣)(華)(土)族平民 | 年 齡           | 本年十二月一日 何年何月 | 職 役 | 何々   | 學 科           | 醫學  | 文 字 | 上(中)(下) 履 衛 上(中)(下) |               |
| 陸軍出身 | 幼年(士官)學校或ハ教習團 | 職 役 | 何々 | 陸軍出身           | 幼年(士官)學校或ハ教習團 | 職 役          | 何々  | 陸軍出身 | 幼年(士官)學校或ハ教習團 | 職 役 | 何々  | 陸軍出身                | 幼年(士官)學校或ハ教習團 |
| 陸軍出身 | 幼年(士官)學校或ハ教習團 | 職 役 | 何々 | 陸軍出身           | 幼年(士官)學校或ハ教習團 | 職 役          | 何々  | 陸軍出身 | 幼年(士官)學校或ハ教習團 | 職 役 | 何々  | 陸軍出身                | 幼年(士官)學校或ハ教習團 |
| 陸軍出身 | 幼年(士官)學校或ハ教習團 | 職 役 | 何々 | 陸軍出身           | 幼年(士官)學校或ハ教習團 | 職 役          | 何々  | 陸軍出身 | 幼年(士官)學校或ハ教習團 | 職 役 | 何々  | 陸軍出身                | 幼年(士官)學校或ハ教習團 |

|                                   |                                      |
|-----------------------------------|--------------------------------------|
| 體 格                               | 何々                                   |
| 性 質                               | 何々                                   |
| 品 行                               | 何々                                   |
| 勤 惰                               | 何々                                   |
| 才 能                               | 此處見ハ各種特有ノ伎倆ト何々ノ職ニ適任云々等ヲ最モ詳細ニ記載スルモノトス |
| 見 意                               | 本職ノ意見トシテ記載スル件々ハ其特ニ擔保ノ責ニ任ス仍テ茲ニ記名ス     |
| 右者陸軍大學校學生候補名簿スルコトヲ確認ス             | △年 號 月 日                             |
| 近衛(鎮守)歩(砲)兵第何隊(騎)工兵第何大(中)隊(長官姓名印) | △年 號 月 日                             |
| 所管長官姓名印                           |                                      |

○陸達第五十七號

陸軍武官拔擢進級取扱規則別冊ノ通告定ス

明治二十年五月二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別冊)

陸軍武官拔擢進級取扱規則

第一條 此規則ハ陸軍武官進級條例ニ於テ定メラレタル拔擢進級ニ係ル取扱方ヲ示スモノトス

第二條 隊附佐官ハ步兵ニ在テハ旅團長其部下大尉ノ少佐ニ少佐ノ中佐ニ中佐ノ大佐ニ陸軍ヘキ者ノ拔擢名簿ヲ作り近衛都督鎮守司令官ニ呈ス都督司令官ハ取捨ヲ加ヘ其他ノ兵科ニ在テハ親カラ拔擢名簿ヲ作り而シテ更ニ各兵科ノ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ陸軍大臣ニ進達ス

第三條 隊附尉官ハ聯隊長(獨立大)ハ其部下少尉ノ中尉ニ中尉ノ大尉ニ陸軍ヘキ者ノ拔擢名簿ヲ

作り歩兵ニ在テハ旅團長ニ呈ス旅團長ハ兩聯隊ノ名簿ヲ合シ取捨ヲ加ヘ旅團附士官ノ拔擢名簿ヲ作リテ之ト合シ近衛都督領軍司令官ニ呈ス其他ノ兵科ニ在テハ其隊長ヨリ之ヲ近衛都督領軍司令官ニ呈ス而シテ都督司令官ハ其部下各兵科ノ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ陸軍大臣ニ進達ス但曹長ノ拔擢モ此例ニ據ル

第四條 隊附下士ハ中隊長其部下上等兵ノ二等軍曹ニ二等軍曹ノ一等軍曹ニ一等軍曹ノ曹長ニ陸ルヘキ者ヲ撰ミ其才能ノ堪ユル所ヲ量リ優劣ヲ定メ歩兵砲兵ニ在テハ大隊長ニ申告ス大隊長之ヲ取捨シテ拔擢名簿ヲ作り聯隊長ニ呈ス騎兵工兵輜重兵ニ在テハ中隊長拔擢名簿ヲ作り騎兵ハ聯隊長工兵輜重兵ハ大隊長ニ呈ス而シテ聯隊長(工兵輜重兵ハ大隊長)ハ之ヲ點檢シ取捨ヲ加ヘ更ニ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ歩兵ニ在テハ旅團長ヲ經由シ其他ニ在テハ直チニ近衛都督領軍司令官ニ進達ス但上等兵ヨリ下士ニ進級セシムヘキ者ハ其志願者中ニ就キ拔擢スルモノトス

第五條 士官學校教導團ノ諸隊並憲兵隊調馬隊ノ佐尉官及下士ニ在テモ第二條乃至第四條ノ例ニ準ス

第六條 隊外佐尉官ニ在テハ左ノ諸項ニ示ス如シ

- 一 參謀官及參謀本部陸軍部並ニ陸軍大學校ノ佐尉官ハ參謀本部次長其拔擢スヘキ者ノ拔擢名簿ヲ作り之ヲ參謀本部長ニ呈ス本部長ハ取捨ヲ加ヘ更ニ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ陸軍大臣ニ移ス
- 二 陸軍省ノ佐尉官ハ其尉官ニ在テハ各局長(總務局長ニ在テハ次長)共拔擢スヘキ者ノ拔擢名簿ヲ作り之ヲ陸軍次官ニ呈ス次官ハ取捨ヲ加ヘ其佐官ニ在テハ陸軍次官親カラ拔擢名簿ヲ作り而シテ更ニ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ陸軍大臣ニ進達ス

三 近衛鎮臺營所士官學校教導團所屬ノ佐尉官ハ都督司令官旅團長其拔擢スヘキ者ノ拔擢名簿ヲ作り(營所司令官ニ於テ作りタル拔擢名簿)更ニ隊附隊外ヲ合シ各兵科毎ニ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ陸軍大臣ニ進達ス

四 戶山學校砲兵射的學校其他各官屬ノ佐尉官ハ其長官拔擢スヘキ者ノ拔擢名簿ヲ作り更ニ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ陸軍大臣ニ進達ス

第七條 隊外下士ニ在テハ左ノ諸項ニ示ス如シ

- 一 參謀本部陸軍部ノ下士ハ陸軍部副官陸軍大學校ノ下士ハ幹事其拔擢スヘキ者ノ拔擢名簿ヲ作り更ニ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ參謀本部次長ニ進達ス
- 二 近衛鎮臺所屬ノ下士ニシテ幕僚書記武庫主管附ハ近衛鎮臺副官鎮臺調馬主管附ハ鎮臺副官營所書記同武庫主管附ハ營所次官旅團書記ハ旅團參謀(旅團長ノ認可)後備軍司令部書記郡區駐在官並ニ府縣駐在書記ハ後備軍司令官衛戍司令本部書記ハ衛戍司令官監獄署附下士ハ監獄長其拔擢スヘキ者ノ拔擢名簿ヲ作り參謀長ニ差出シ參謀長ハ取捨ヲ加ヘ更ニ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ都督司令官ニ進達ス
- 三 戶山學校砲兵射的學校其他諸官屬ノ下士ハ其長官拔擢スヘキ者ノ拔擢名簿ヲ作り更ニ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ其長官ニ進達ス

第八條 監督部軍吏部軍醫部獸醫部ノ上長官士官下士ニ在テハ左ノ諸項ニ示ス如シ

- 其一 上長官士官
- 一 監督部軍吏部上長官士官ハ共二三等軍吏ニ在テハ會計局長其拔擢スヘキ者ノ拔擢名簿ヲ作り之ヲ會計局長ニ呈ス會計局長取捨ヲ加ヘ其上長官及監督補ニ在テハ親カラ之ヲ撰ミ拔擢名簿ヲ作り而シテ更ニ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ陸軍大臣ニ進達ス

二 軍醫部上長官士官ハ前項ト同一ノ法ヲ以テメ只會計局次長ヲ醫務局次長トシ會計局長ヲ醫務局長トナスヲ異ナリトス

三 獸醫部ノ一等獸醫ニ在テハ總務局長ニ三等獸醫ニ在テハ騎兵局長共拔擢スヘキ者ノ拔擢名簿ヲ作り更ニ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ陸軍大臣ニ進達ス

其二 下士

一 軍吏部下士ハ會計局ニ在テハ各課長近衛鎮守及各官廳ニ在テハ當該監督部長共拔擢スヘキ者ノ拔擢名簿ヲ作り會計局次長ニ移ス次長ハ各部ノ拔擢名簿ヲ合シ之ヲ取捨シ更ニ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ會計局長ニ進達ス

二 軍醫部下士ハ醫務局ニ在テハ各課長近衛鎮守ニ在テハ軍醫長共拔擢スヘキ者ノ拔擢名簿ヲ作り醫務局次長ニ移ス次長ハ取捨ヲ加ヘ又各官廳ニ屬スルモノハ親カラ之ヲ撰ミ拔擢名簿ヲ作り而シテ各部ノ拔擢名簿ヲ合シ更ニ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ醫務局長ニ進達ス

第九條 砲兵火工長ノ拔擢ハ其所屬ノ如何ヲ問ハズ總テ砲兵方面提理其拔擢スヘキ者ノ拔擢名簿ヲ作り更ニ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ陸軍大臣ニ進達ス砲兵火工下長ニ在テハ砲兵方面副提理其拔擢スヘキ者ノ拔擢名簿ヲ作り更ニ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ砲兵方面提理ニ進達ス

第十條 候補名簿ヲ陸軍大臣ニ進達スルハ毎年八月十日ヲ期限トシ其停年ヲ算スルハ七月一日ヲ以テス

第十一條 決定候補名簿ヲ作ルノ法ハ左ノ諸項ニ依ルモノトス

一 上長官ノ決定候補名簿ハ進級會議ニ於テ豫テ各所管長官ヨリ進達シタル候補名簿ニ就キ密査ヲナシ停年順序ニ從ヒ之ヲ製ス

二 士官ノ決定候補名簿ハ進級會議ニ於テ豫テ各所管長官ヨリ進達シタル候補名簿ト學術檢査合格ノ者トニ就キ密査ヲナシ停年順序ニ從ヒ之ヲ製ス

三 下士ノ決定候補名簿ハ近衛都督鎮守司令官其他ノ所管長官ニ於テ各隊長等ヨリ進達シタル候補名簿ト學術檢査合格ノ者トニ就キ其優劣ヲ密査シ其列序ヲ定メ一木ヲ製シ其一木ヲ該隊長ニ下付ス

四 前年ノ決定候補名簿ニ登載シタル者本年ノ決定候補名簿ヲ作ルニ至ル迄補除セラレサル者ハ本年ノ決定名簿ニ於テ首位ニ置クモノトス但下士ハ此限ニアラズ

五 已ニ決定候補名簿ニ登載スル者ハ之ヲ除カサルヲ例トス然レトモ若シ進級セシムヘカラサル事由アル者及ヒ學術檢査ニ不合格ノ者ハ之ヲ除ク但シ其進級セシムヘカラサル事由アル者ハ其長官ヨリ之ヲ具申シテ削除ヲ乞フヘシ

第十二條 下士及ヒ上等兵ノ決定候補名簿ハ左ノ項目ニ依リ取扱フヘシ

一 近衛鎮守其他ニ於テ進級條例第十五條ノ手續ヲ終レハ決定候補名簿ノ寫ヲ添ヘ定期檢閱報告ト同時ニ之ヲ報告スヘシ

二 上等兵ヨリ下士ニ拔擢ノ者ハ陸軍大臣認可ノ上決定スヘキモノニ付各長官ハ進級條例第十五條及ヒ本則第十一條第三項ノ例ニ依リ決定候補名簿ノ案ヲ作り定期檢閱畢ルノ後直ニ申請シ認可ヲ受クヘシ

第十三條 決定候補名簿ニ登載セル下士甲所管ヨリ乙所管ニ轉換スルトキハ候補名簿ノ位次即チ第何番タルコトヲ甲所管ヨリ乙所管ニ通報シ乙所管ニ於テハ其位次ニ從ヒ候補名簿ニ組入レ置キ順序ニ進級セシム若シ同時ニ二名以上ヲ進級セシムルコト能ハサルトキハ停年順序ニ從ヒ進

級セシムヘシ但一管内ニテ彼是轉隊ノ者及ヒ隊附隊外彼是轉換ノ者モ之ニ同シ

第十四條 凡テ決定候補名簿ハ其決定ノ日ヨリ翌年決定候補名簿製定ノ日マテ之ヲ用ユヘシ

第十五條 候補名簿及拔擢名簿ハ左ノ雛形ニ依リ調製スヘシ (名簿雛形略ス)

○陸軍第五十八號  
今般陸軍第五十七號ヲ以テ陸軍武官拔擢進級取扱規則改定候ニ付テハ從前諸達等之内本則ト矛盾  
スルモノハ廢止ニ屬ス

明治二十年五月二日 陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第五十九號  
明治十九年八月省令乙第百十七號ニ左ノ但書ヲ加フ

但憲兵輜重兵及ヒ屯田兵科ニハ轉科ヲ志願スルヲ得ヌ

明治二十年五月二日 陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第六十號  
給與概則第四章第十條並第十表中左之通改正シ第十一條以下刪除ス

但六月一日ヨリ施行スヘシ

明治二十年五月四日 陸軍大臣伯爵大山 巖

第十條 騎砲及ヒ輜重兵隊馬裝蹄ハ毎月四蹄一回ト定メ一回金四拾七錢ヲ定額トス而シテ各隊馬  
數ニ應シ毎月支給スルヲ以テ鐵代並裝蹄器械之修理費及消耗品等總テ該定價内ヲ以テ支辨シ共  
殘餘ハ該隊ニ積置クヘシ

但各鎮臺東京鎮臺 豫備馬及ヒ諸學校教導團調馬隊軍馬育成所馬匹等ノ裝蹄ニ係ル費用ハ實費  
ヲ以テ支辨フヘシ

第十表中裝蹄費五拾錢ヲ「四拾七錢」ニ六圓ヲ「五圓六拾四錢」ト改ム

○陸軍第六十一號  
自今軍吏軍醫醫部武官ヘ文官ヨリ志願ヲ以テ轉スルヲ得ヌ

明治二十年五月九日 陸軍大臣伯爵大山 巖

○宮内省達第二號  
宮内省官吏恩給例左ノ通之ヲ定ム

明治二十年五月十三日 宮内大臣伯爵伊藤博文

宮内省官吏恩給例

第一條 恩給及ヒ扶助料ノ給否ハ其所屬長官ニアリテハ察頭若クハ其居住地地方長官ノ證明ニ依  
リ内藏寮ノ審査ヲ經テ宮内大臣之ヲ裁定ス

第二條 恩給若クハ扶助料ヲ給スル本人ニハ宮内大臣ヨリ其證書ヲ下付ス

第三條 恩給ノ願書ハ本人ヨリ其所屬長官扶助料ノ願書ハ其居住地ノ地方長官ニ差出シ其願書ヲ受  
領セシ長官ハ之ヲ宮内大臣ヘ進達シ其下付ヲ請求ス可シ

第四條 恩給及ヒ扶助料ノ金額ハ内藏寮ヨリ本人所在ノ地方廳ヲ經由シテ之ヲ交付ス

第五條 宮内省官吏ノ奉職年數及傷疾疾病ニ對スル恩給並ニ其給額奉職年數ノ計算扶助料ノ轉給  
其他權利ノ停止等ハ總テ一般官吏恩給令ノ例ニ依ル

○陸軍第六十二號  
工兵一中隊下士以下携帶器具分賦表別紙之通改正ス (別紙略ス)

但工兵隊編制替實施迄乙表ノ通携帶候儀ト心得ヘシ

明治二十年五月十八日 陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第六十三號

陸軍武官勳章授與式別冊之通改定ス

明治二十年五月二十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別冊)

陸軍武官勳章授與式

- 第一條 勳三等以上ノ勳章授與式ハ別ニ其定メアルヲ以テ茲ニ掲ケサルモ受章者近衛都督鎮邊司令官及旅團長ナルトキハ該地所在ノ部下兵隊觀兵式ヲ行フヘシ
- 第二條 前條ノ勳章受章者聯隊長ナルトキハ第五條第一項ニ掲ケル兵隊分列式ヲ行フヘシ
- 第三條 勳章授與ノトキ受章者ハ勿論其他此式ニ關スル將校相當官モ包含スハ皆正裝ヲ爲スヘシ
- 第四條 隊附將校ノ勳章ハ兵隊整列ノ前ニ於テ所管長官之ヲ授與ス其式左ノ如シ
  - 一長官ハ隊列ノ前面便宜ノ地ニ占位シ陪列ノ將校同等ノ勳章ヲ有ハ隊列ヲ離レ長官ノ面前兩側ニ對向シテ並列ス而シテ後受章者ヲシテ長官ノ前ニ進マシム
  - 一長官ハ傳令使ノ捧クル勳記勳章ヲ執リ親シク之ヲ授與ス受章者收メ之ヲ拜受シ便宜ノ地ニ退キ其勳章ヲ佩帶ス
- 一授與終テ陪列ノ將校ハ隊列ニ復シ受章者ハ長官ノ左方ニ列シ整列ノ兵隊ハ分列式ヲ行フヘシ
- 第五條 整列ノ兵隊ハ受章者ノ官職ニ依リ隊服下服裝ニ區別アルコト左ノ如シ
  - 一聯隊長ニハ所屬旅團旅團ヲ爲サハ皆整列シ所轄聯隊ノ正裝ヲ爲シ他ノ將校ハ通常禮裝下士卒ハ軍裝水筒飯盒及後備靴ヲ爲スヘシ
  - 一大隊長及ヒ聯隊附少佐ニハ所屬聯隊皆整列シ將校ハ通常禮裝下士卒ハ軍裝ヲ爲スヘシ
  - 但大隊長ニハ所轄大隊正裝ヲ爲スヘシ

一隊附士官ニハ所屬聯隊皆整列シ將校ハ通常禮裝下士卒ハ軍裝ヲ爲スヘシ

但中隊長小隊長ニハ各其所轄中(小)隊正裝ヲ爲スヘシ

一分營分遣及ヒ警備隊並ニ聯隊ヲ爲サハ隊附將校ニ對スル整列ノ隊數並ニ服裝ハ前諸項ノ例ニ準ス

第六條 隊附準士官下士卒ノ勳章ハ其隊長第四條ニ準シ所屬大隊聯隊附下士ニ在テハ聯隊中ノ一軍裝整列ノ前ニ於テ之ヲ授與ス但陪列者ヲ要セザルト本人勳章拜受ノ後本隊ニ復シ分列式ヲ行フヲ異ナリトス

第七條 旅團隊附將校及ヒ隊附計官醫官獸醫官並ニ其下士卒ノ勳章授與式ハ隊外將校下士卒ノ例ニ準ス

第八條 營所ノ聯隊長以下隊附將校ノ勳章ハ其旅團長第四條及ヒ第五條ニ照シ之ヲ授與スヘシ

第九條 警備隊司令官及ヒ分營分遣隊長ノ勳章ハ所管長官ヨリ直チニ本人ニ送附シ其所轄隊皆正裝シ分列式ヲ行フヘシ

但其隊ニ屬スル將校以下ノ勳章ハ所管長官ニ代リ第四條第五條及第六條ノ例ニ準シ之ヲ授與スヘシ

第十條 在京隊外將校相當官モ包含スノ勳章ハ陸軍省ニ於テ陸軍大臣之ヲ授與ス其式左ノ如シ

一大臣ハ式場ノ中央上席ニ占位シ陪列ノ將校同等ノ勳章ヲ有ハ大臣ノ面前兩側ニ對向シテ並列ス而シテ後受章者ヲシテ大臣ノ前ニ進マシム

一大臣ハ傳令使ノ捧クル勳記勳章ヲ執リ親シク之ヲ授與ス受章者之ヲ拜受シタル後退去ス可シ

第十一條 在京セザル隊外將校ノ勳章ハ其所管ニ送附シ長官ハ前條ニ照シ之ヲ授與ス但營所ノ隊外將校ニ在テハ營所司令官之ヲ授與スヘシ

第十二條 隊外準士官下士卒ノ勳章ハ其在京ト否トヲ問ハズ總テ所管ニ送附シ長官ハ第十條ニ準  
但本省出仕ノ者ニ在テハ陸軍次官之ヲ授與スヘシ

第十三條 準士官下士卒ニシテ勳六等以上ノ受章者ハ其授與式將校ノ例ニ從フ

自今軍用電信隊ヲ廢止ス  
明治二十年五月二十三日 陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第六十五號  
今般戰時工兵隊ニ於テ編成スヘキ野戰及兵站電信隊編制被相定軍用電信隊廢止候ニ付テハ當分之内別ニ東京鎮臺工兵第一大隊ニ野戰電信隊一隊ヲ置カル

明治二十年五月二十三日 陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第六十六號  
步兵操典別冊之通改正セラル (別冊略ス)  
明治二十年五月二十六日 陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第六十七號  
明治十二年一月達乙第一號ノ達ハ自今廢止ス  
明治二十年五月二十六日 陸軍大臣伯爵大山 巖

(參照) 明治十二年一月陸軍省達乙第一號達  
步兵大隊編隊圖及中隊編隊圖別表之通改正候條此旨相達候事(別表略ス)  
陸軍全部

○陸軍第六十八號

近衛守衛隊規則別冊ノ通改正セラル

明治二十年六月二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別冊)

第一章 總則

第一條 近衛守衛隊ハ近衛歩兵一大隊及同騎兵砲兵若干ヲ以テ之ニ充テ二十四時毎ニ交代シ 皇居  
(皇山御所明宮)ノ儀仗及守衛ノ事ニ任ヌルモノトス又要スルトキハ工兵若干ヲ之ニ充ツルコトアリ

第二條 左ニ列記スル諸兵ヲ總稱シテ守衛隊ト云フ守衛隊ハ上番及控兵ノ二種ニ分テ近衛歩兵大  
隊長ノ内一名之ヲ指揮ス

- 其一 上番兵
- 一 儀仗衛兵(歩兵凡)
- 一 傳令騎兵
- 一 號砲手
- 其二 控兵

控兵ハ上番兵ト同大隊ノ他ノ半大隊ヲ以テ之ニ充テ騎兵砲兵ニ在テハ同數ノ人員ヲ備  
フルモノトス

第三條 儀仗衛兵ハ 皇居正門寶所青山御所明宮御殿等ニ之ヲ置キ其場所及兵員ニ依リ中隊長或  
ハ小隊長之ヲ指揮ス

第四條 傳令騎兵ハ急速ノ傳令其他出火ノ際火元檢視等ヲナサシムルモノニシテ騎兵下士或ハ上



等兵一名騎卒若干名ヲ以テ之ニ充ツ

第五條 號砲手ハ非常及火災ノ號砲ヲ發セシムルモノニシテ砲兵下士或ハ上等兵一名砲卒若干名ヲ以テ之ニ充ツ

第六條 控兵ハ非常ノ時ニ方リ上番兵ニ増加スルモノニシテ其勤務ニ當ル將校退營後ハ在宿シ下士兵卒ニ在テハ屯營ヲ出ツルヲ許サズ

第七條 備仗衛兵ノ服裝ハ總テ正裝トス但歩哨ハ背嚢ヲ負ハサルモ妨ナシ

第八條 傳令騎兵及號砲手ノ服裝ハ軍裝トス但背嚢ニ飯盒豫備靴ヲ附着セス又水筒ヲ携帶セス

第九條 上番ノ守衛隊ハ先ツ整列場ニ至リ守衛隊司令官ノ検査ヲ受ケ分列式ヲ行ヒ上番スヘシ

第十條 隊伍及諸官ノ位置衛兵交代法衛舍掛、步哨掛及步哨ノ任務等ハ概テ衛戍規則ノ法ヲ適用ス

第十一條 守衛隊上番ノ各將校ハ時々 皇居(神山御所明宮)内ヲ巡視スヘシ

第十二條 守衛隊服務ノ細則ハ近衛都督適宜ニ之ヲ定ムヘシ

第二章 守衛隊各司令及各兵ノ任務

第十三條 守衛隊司令官ハ守衛隊ノ順序ニ從ヒ一列ノ階直ヲ立テ二十四時間ヲ以テ交代服務シ寸時モ宮門ヲ出ツルヲ許サズ

第十四條 守衛隊司令官ハ直ニ都督ノ命ヲ奉シ守衛隊ヲ指揮シ 皇居(神山御所明宮)ノ警備ニ任ス故ニ其警備上ニ就キ臨機宜ヲ制スヘキ事アレハ之ヲ裁定シ後テ都督ニ上申スルコトヲ得

第十五條 守衛隊司令官ハ非常或ハ御近火ノトキハ號砲發火ノ令ヲ下ヌヲ得

第十六條 守衛隊司令官ハ侍中武官ヨリ練兵等ノ事ヲ宣傳アルトキハ謹テ奉承シ上番兵或ハ控兵等ヲ以テ之ニ從事セシムヘシ

第十七條 儀仗衛兵司令官ハ守衛隊司令官ノ命ヲ奉シ專ラ儀仗及警備ノ事ニ任シ衛兵ヲシテ嚴ニ共

職務ヲ竭サシムヘシ

第十八條 傳令騎兵下士或ハ上等兵ハ傳令騎兵ヲ統轄シ守衛隊司令官ノ命ヲ奉シ部下ヲシテ傳令ノ勤務ニ服セシムヘシ

第十九條 號砲手下士或ハ上等兵ハ號砲手ヲ統轄シ守衛隊司令官ノ命ヲ奉シ部下ヲシテ非常或ハ御近火ノ際號砲ヲ發セシムルモノトス

第二十條 守衛隊ノ將校下士卒ハ其職務ノ爲メニ非サルヨリハ暫時モ衛舍ヲ離ルルヲ許サズ而シテ其任務ハ 皇室ノ威嚴ニ關スルヲ以テ能ク其本旨ヲ奉戴シ嚴ニ其任務ヲ竭スヘシ歩哨巡察及傳令騎兵ハ特に注意ヲ加ヘ姿勢動作ヲ嚴正ナラシメ毫モ輕忽ノ舉動アルヘカラス

○陸軍第六十九號

陸軍省職官定員表別表ノ通改正ス

明治二十年六月二日

陸軍大臣 伯耆大山 巖

陸軍省職官定員表

|      |     |    |    |    |   |
|------|-----|----|----|----|---|
| 大臣官房 | 武官  |    | 文官 |    | 計 |
|      | 大將中 | 少將 | 大佐 | 中佐 |   |
| 各課   | 局長  |    | 一  |    | 八 |
|      | 一   |    | 二  |    |   |



○陸軍第七十號

陸軍給與概則第二章第六十二條ノ次へ左ノ一條並同章第一表ノ乙ノ次へ別表ヲ追加シ第四章第一條中左ノ通増補ス

明治二十年六月九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

第二章

第六十三條 監軍部中各兵監タル佐官及各兵監ノ副官俸給ハ第一表丙ノ金額ヲ給ス

第四章

第一條中「參謀士官」ノ下ニ「監軍部幕僚士官及各兵監ノ副官タル士官」ノ十八字ヲ加フ

(別表)

監軍部中各兵監タル佐官及各兵監副官俸給表

| 官名 | 等級  | 平均    |          | 月額     | 歳額 |
|----|-----|-------|----------|--------|----|
|    |     | 俸     | 給        |        |    |
| 大  | 佐   | 百九拾六圓 | 貳千三百五拾貳圓 |        |    |
| 中  | 佐   | 百四拾六圓 | 千七百五拾貳圓  |        |    |
| 少  | 佐   | 九拾六圓  | 千百五拾貳圓   |        |    |
| 大  | 尉   | 一 等   | 八拾六圓     | 六百九拾六圓 |    |
|    | 二 等 | 七拾八圓  | 六百四拾八圓   |        |    |
|    | 三 等 | 七拾八圓  | 六百四拾八圓   |        |    |
| 中  | 尉   | 一 等   | 八拾八圓     | 六百五拾六圓 |    |
|    | 二 等 | 八拾八圓  | 六百五拾六圓   |        |    |
|    | 三 等 | 八拾八圓  | 六百五拾六圓   |        |    |
| 少  | 尉   | 一 等   | 八拾八圓     | 六百五拾六圓 |    |
|    | 二 等 | 八拾八圓  | 六百五拾六圓   |        |    |
|    | 三 等 | 八拾八圓  | 六百五拾六圓   |        |    |

備考 心得勤ノ者ハ各其本料ノ倍給ト心得勤附屬ヲ支給スルモノトス

○陸軍第七十一號

明治十九年七月省令乙第百六號陸軍教育會議條例ヲ廢ス

明治二十年六月十日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第七十二號

陸軍省處務細則別冊ノ通改正ス

明治二十年六月十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別冊)

陸軍省處務細則

本省ノ職制權限及ヒ事務ノ分掌ハ官制ニ揭示ノ如シト雖トモ其管理連絡ノ紀綱ヲ明ニセン爲メ事務取扱ノ順序ヲ左ニ開列ス

第一項 大臣官房ノ高級秘書官ハ房内ノ事務ヲ管シ申奏及ヒ閣議往復其他秘密ノ文書ヲ掌リ大臣ノ意ヲ承ケ其草案ヲ作り或ハ大臣ヨリ上裁ノ文書ヲ取扱ヒ其他省内各局ニ屬セサル事務ヲ處理ス次級秘書官ハ高級秘書官ニ次キ事務ニ從事シ高級秘書官不在ノトキハ其事務ヲ處辨ス以下ノ秘書官ハ大臣ニ專屬シテ其事務ニ服シ又房内ノ事務ヲ助ク

第二項 傳令使ハ大臣ノ意ヲ受ケ差使ニ供シ又房内ノ事務ニ服ス

第三項 秘書官傳令使大臣ノ名ヲ以テ書類草案等ヲ徵收スルトキハ大臣親ラスルト同様タルヘク故ニ申告又ハ應答スヘキ事項ハ口述若クハ書面ヲ以テ其仔細ヲ悉スヘシ

第四項 總務局長ハ局長ヲ輔佐シテ局内ノ事務ヲ整理シ陸軍内外共輕易ナル往復文書ニハ都テ其名ヲ署シテ發送スヘシ又本省へ到來スル一切ノ文書ハ其ノ際ニハ除クテ查閱區處シ局長不在ノトキハ其事務ヲ代理スヘシ若シ次長一時ノ不在等ニガリ次長ノ事務ハ同局第一課長之ヲ處辨スルモ

明治二十年六月 陸軍省陸軍第七十一號 陸軍第七十二號

ノトス

- 第五項 騎兵砲兵工兵會計醫務ノ局長及ヒ總務局各課長ハ大臣及ヒ總務局長ノ命ヲ受ケ共主務ヲ掌理シ各課長又ハ課員ヲ指揮監督シ各主任ノ事務ヲ處理セシメ共管掌事務ニ就テハ總務局長ニ對シ舉否ノ責ニ任スヘシ
- 第六項 省中諸局ノ課長ハ局長ノ命ヲ受ケ主任ノ事務ヲ擔任シ課員以下ヲ指揮シ各其事ニ服セシメ調査起案勸令檢査等トシテ課務ノ整理ヲ謀リ其分擔ノ事務ニ於テハ舉否ノ責ニ任スヘシ
- 第七項 課員ハ課長ノ指揮ヲ受ケ傍屬ヲ監視シ各其事ニ服行セシメ課内ノ事務整理ニ注意スヘシ
- 第八項 僚屬ハ上官ノ命ヲ奉シ各其事ヲ分掌スヘシ
- 第九項 毎日午前十時總務局長ハ騎兵砲兵工兵會計醫務ノ局長會計醫務ノ兩局ハ局及ヒ總務局次長不在ナレハ次長長同各課長ヲ會同シテ事務ヲ商議ス各局長總務局長ハ主任ノ事務ニ就キ審議ヲ要スヘキモノアルトキハ此會議ニ提出スヘシ
- 第十項 右會議畢レハ騎兵砲兵工兵局長ハ各課長會計醫務局長ハ次長及ヒ課長ヲ會シ文書ヲ分テ主任ニ付シ總務局長各課長ハ各其課員ニ令シ其區處スヘキ主旨ヲ陳說シ若クハ調査スヘキ事件ヲ指定シ施行ノ順序ヲ立テ又ハ審案書ヲ具シ總務局長ヘ呈スヘシ
- 第十一項 敷局連帶ノ事件其完結取廻ハ主務局總務局長ハ主務課ノ責任タルヲ以テ延滞スルコトナク緩急ニ應ジ速ニ結了ニ至ラシムヘシ
- 第十二項 總務局第一課受付掛ヲシテ専ラ文書ノ出入ヲ司ラシメ總テ本省ヘ到來シタル文書ノ親展書ヲ除クノ外ハ開封シテ之ヲ次長ニ呈スヘシ次長ハ査閱ノ上事ノ定例ニ係リ或ハ小事件ニシテ大臣ノ處決ヲ要セス總務局長ノ委任ニ屬スルモノハ本紙欄外ニ(局長)ノ印ヲ押シ尙本局長ヨリ次長ニ委任ノモノハ(次長)ノ印ヲ押シ又關係ノ局ヲ指示スヘキ者ハ其局名ノ印ヲ押シ若シ敷局ニ連帶スル者ハ更ニ(非)ノ字ノ一印ヲ加ヘ以テ常例ニ非サルヲ示シ悉ク之ヲ第一課長ニ付スヘシ

- 局ニ連帶スル者ハ事項ノ最モ主務タル局ヲ指示スル爲メ共主務ノ局名ハ白字ノ印ヲ押シ大臣ノ處決ヲ要スル者ハ更ニ(非)ノ字ノ一印ヲ加ヘ以テ常例ニ非サルヲ示シ悉ク之ヲ第一課長ニ付スヘシ
- 第十三項 第一課長ハ一々之ヲ査閱シ本局内其課ニ關係ノ件ハ其課名ノ小印ヲ押シ若シ敷課ト連帶スルモノハ事項ノ最モ主務タル課ヲ指示スル爲メ共主務ノ課名ハ白字ノ小印ヲ押シテ受付掛ニ付スヘシ
- 第十四項 受付掛ニ於テハ文書ノ順序ヲ逐ヒ受領日記ニ其事件ノ大要ヲ錄シ一貫セル番號ヲ記シ又文書ニハ到來ノ日附ト受領日記ノ番號トヲ記シ各其指示スル押印ニ照シ直ニ其局(課)ニ送附スヘシ連帶ノ事務但文書ノ正副二通アル者ハ其正書ニ同シク局名印ヲ寫シ經メテ共結了ニ至ルマテ收藏シ置クヘシ
- 第十五項 凡ソ人事ニ係ル事項即チ準士官以上任免補職轉職免職留任等ノ稟申照會及ヒ諸候補名簿按名簿並右ニ係ル照會ハ人事課ノ主務タルヲ以テ其受付送達及ヒ陸軍省日記進退ノ部ハ木課ニ於テ管掌スヘシ
- 第十六項 凡ソ到來ノ文書ニ就キ通常ノ事柄ハ總務局次長其緩急ヲ量リ左ノ三種ニ分テ區處スヘシ
  - 其一 總務局長ヘ委任ノ者
  - 其二 定例ニ係ル者
  - 其三 至急ヲ要スル者
- 第十七項 共ニ文書ハ前日共局ニ送付セシ後受領シタル者ヲ當朝送付シ共ニ文書ハ受領スル毎ニ直ニ區處ス

第十八項 各局及總務局諸課ニ於テ文書ヲ受領スレハ日録ニ其全文又ハ要領ヲ事ノ輕重ニ從ヒ取捨シテ簡短ニ記注シ日録ノ番號ヲ木書ノ受領番號ノ下ニ記注シタル上意見アル者ハ審案書ヲ付シテ進呈スヘシ其意見ナキ者ハ必シモ日録ニ記注ヲ要セシ其閱覽ヲ證スル爲メ木書ニ局印ヲ押シテ總務局第一課へ返付スヘシ

但總務局各課ニ在テハ課印ヲ押シテ返付スルモノトス

第十九項 各局及ヒ總務局内敷課連帶ノ書類ハ主務ノ局(課)ニ於テ意見書ヲ作り他ノ局(課)へハ其主務ノ課長若クハ課員ノ内躬カラ意見書ヲ將テ面議スルカ又ハ會議ヲ開ク等時々ノ便宜ニ從ヒ速ニ施行ニ至ル様注意スヘシ

第二十項 各局及ヒ總務局各課連帶書類ノ滯留スルト否トハ特ニ其主務局(課)ノ責任タレハ主務局(課)ニ在テハ每週二回(水曜日未濟ノ書類ヲ取調其餘議ヲ要スル日時ヲ經過セシモ未ダ連帶ノ局(課)ヨリ報告ナキ時ハ其局(課)ニ就テ理由ヲ問ヒ速ヒ方ヲ促スヘシ

第二十一項 各局及ヒ總務局各課ニ於テ下問ノ文書ニ意見審案ヲ具シ進呈スルトキハ其政局敷課ニ連帶スルト否トニ拘ハラズ成ル可ク速カナルヲ要ス若シ事柄ノ難易輕重ニ從ヒ幾日ヲ經過セザレハ整頓シ難キモノト雖トモ概ネ左ノ期限内ニハ必ス完結スヘシ

至急文書 三日内(即決ヲ要スルモノ)  
至急ニ非ラサル文書 七日内(ハ此限ニアラス)

但此日期ハ總務局受領ノ日附ヨリ其局意見書進呈ノ日迄ヲ算ス

第二十二項 總務局第一課長ハ各局及ヒ本局各課ニ配分シタル文書ノ日限ヲ計算シ前項限内ニ完結セザルモノアルトキハ稽檢目錄ヲ發ス各局(課)ニ於テハ其延滞スル理由ヲ右目錄書ニ附録シテ返付シ總務局第一課長ハ次長ヲ經テ局長ニ呈シ檢印ヲ受クルモノトス

第二十三項 各局長ヨリ大臣ニ進呈スル文書(手ツカラ呈スヘキハ送達簿ニ記シテ進呈スルモノ)ハ總務局第一課受付掛ニ廻付シ同掛ヨリ次長ニ呈ス次長査閱ノ上局長ニ呈シ大臣及ヒ次官決裁濟ハ總務局第一課長ニ付ス同課長ハ照檢ノ上紙端ニ(関)ノ字ノ印ヲ押シタル上施行セシム

第二十四項 準士官以上ノ進退ニ係ル文書ニシテ直ニ大臣ニ呈スルモノヲ除ク外ハ各局長若クハ次長課長ヨリ總務局人事課長ヘ手ツカラ之ヲ授付スヘシ各局及ヒ總務局各課ニ於テ意見商議等ノ爲メ彼此受授ノ際モ又課長課員ニ於テ取扱フヘシ

第二十五項 大臣ノ決裁ヲ請フヘキ件ニシテ其局ノ起草ニ係ルモノハ決議用紙ニ認メ毎朝ノ會議ニ局長(總務局)之ヲ提出シテ總務局長ニ呈ス他ニ連帶スルモノハ豫メ協同ノ上進印スヘシ右決議濟施行ノ上ハ總務局第一課ニ於テ其本書欄外ニ(決行濟)ノ印及ヒ關係局(課)ノ小印ヲ押シテ主任局(課)及ヒ關係局(課)へ廻送スヘシ其局(課)ニ於テハ了知ヲ證スル爲メニ右小印ノ下へ局(課)印ヲ押シテ速ニ總務局第一課へ返送スヘシ

第二十六項 陸軍省ノ日記ハ總務局第一課人事ニ係ルニ之ヲ管シ一切ノ公文書ニ就キ其後來ノ考據引證トナルヘキ要件ヲ成ル可ク簡短ニ記注シ之ニ屬スル審案書モ共ニ綴リ置ク者トス其他ノ各局ニハ日記ノ簿冊ヲ備フルヲ許サズ簡略ナル日録又ハ摘要等適宜ニ便法ヲ設ケ極メテ記注ノ煩冗ヲ省クヘシ若シ既往ノ證蹟ヲ要スル時ハ總務局第一課若クハ人事課ニ就テ陸軍省日記ヲ覽ルヘシ

第二十七項 條例規則等ニ付事務取扱上疑義質問ニ係ル輕易ノ件ハ總務局各主任ノ課長ヨリ直ニ應答説明ヲナスヘシ

第二十八項 凡ソ公文ノ原書及ヒ審案書ニ大臣若クハ次官ノ檢印未濟ナル者ハ特命アルモノ、外ハ淨書送達スヘカラス

第二十九項 右ニ就キ總務局第一課長ハ其責ニ任シ檢印濟タルヤ否ヲ綿密ニ照檢シ紙端ニ(関)ノ

字ノ印ヲ押シタル上淨寫セシムヘシ

第三十項 總テ送達スヘキ文書ハ總務局第一課ニ於テ淨書記注ノ上傍屬二人之ヲ校合シ差謬ナキ證トシテ共ニ紙端ニ小印ヲ押シ課長ノ檢印ヲ受ケテ後送達日記ニ事件ノ大要ヲ録シ一貫ノ番號ヲ記注シ尙ホ本書ニ送達日記ノ番號ヲ付シテ送達スヘシ人事ニ係ル事件人事課ニ於テ取扱フモ亦同シ

第三十一項 總テ決裁濟達若クハ通牒等ニ添フヘキ書類表面圖面等ハ其發送ニ要スヘキ數ヲ其本局主務課ニ於テ調製スヘシ尤印刷ニ付スヘキモノハ此限リニ非ス

第三十二項 諸官人ハ定時限アリト雖トモ特ニ授リタル事件アルカ若クハ當日ノ事務結了ニ至ラサル内ハ夜間迄モ服務シテ整頓ニ至ラシムヘシ之カ爲メ連帶スル諸官人モ亦同シ

第三十三項 大臣及ヒ總務局長參省ノ時ハ官房傳令使ヨリ號牌ヲ配リテ各局ヘ報シ其退省ノ時ハ號牌ヲ除キ以テ其參缺ヲ瞭知セシム

第三十四項 記室ハ分テ新舊二庫トス其新庫ニハ十年以内ノ書類ヲ藏シ年々十一年目ニ當ル書笈ハ總務局第一課長檢檢ノ上舊庫ニ移スヘシ

第三十五項 記室ニ藏メタル書類中參照ノ爲メ必用ナル時ハ總務局第一課記室主管ノ傍屬ニ就テ帳簿ニ其借用書目期限及月日官姓名ヲ記注押印ノ上受領スヘシ

第三十六項 新舊庫書類參照ニ便スル爲メ別ニ其事項ノ概目ヲ類集シ索引ノ冊子ヲ備ヘ置クヘシ

第三十七項 各局課員以下二人ツハ順番ニ宿直スルヲ例トス若シ便宜ニ因リ之ヲ改ムル時ハ別段總務局長ヨリ達スヘシ

○陸軍第七十三號

陸軍武官差遣巡回及出張命令ノ順序左ノ通心得ヘシ

明治二十年六月十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

一 將官並相當官ノ差遣巡回ハ内閣ヨリ各官廳ノ長官タル上長官ノ差遣巡回ハ陸軍省ヨリ之ヲ命ス

一 上長官以下ノ差遣巡回ハ所管長官旅團又ハ營所附下士以下ニ在テハ旅團長營所司令官及其軍管内ト雖モ職務外ニ係ルトキハ陸軍大臣ノ許可ヲ得テ命スルモノトス

一 省内各局出仕ノ准士官以上ノ差遣巡回ハ凡テ陸軍省ヨリ之ヲ命シ下士以下ハ其局長ヨリ陸軍大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ命ス

一 近衛都督鎮臺司令官代理者モ及各官廳長官タル上長官以上ニ在テ職務上出張巡回等ヲ要スルコトアルトキハ其事由ヲ具申シ陸軍大臣ノ許可ヲ受クヘシ但近衛都督鎮臺司令官及旅團長其部下野外演習行軍演習並射的演習等實祝ノ爲メ往復共日數七日以内ノ地ニ在テハ經伺ニ及ハス出張スルコトヲ得

一 旅團長部下ノ演習ニ關シ出張巡回ヲ要スル節ハ近衛ニ在テハ都督鎮臺ニ在テハ司令官之ヲ命シ若クハ許可スヘシ但鎮臺旅團長部下巡視及ヒ出張ヲ要スル節モ又同シ

一 營所司令官管内出張巡回又ハ出張ヲ要スル節ハ鎮臺司令官之ヲ命シ若クハ許可スヘシ

○陸軍第七十四號

勅令第二十二號ヲ以テ陸軍將校馬具制改正相成候處右ハ漸ヲ以テ改正可致儀ト心得ヘシ

明治二十年六月十三日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第七十五號

明治十九年十月省令乙第四百四十四號ノ但書ヲ削除シ及陸軍服裝規則中別紙ノ通り追加改正削除ス

明治二十年六月十三日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別紙)

一第十七條末文又以下二十五字ヲ削除ス

一第二十六條中「短靴ヲ穿ツルハ必ス」ヲ「短靴ハ必ス之ヲ袴下ニ穿テ」ニ改ム

一第二十七條中ハ左ノ通追加ス

此服裝ニ在テ乘馬スルルハ其馬具ハ左ニ列記スルモノヲ裝具ス(第六圖)

一頭絡撥備物及馬皮共

一轡銜撥備物及馬皮共

一副銜

一韁

一副韁

一鞍

一鍔韁

一鞍褥

一鞍囊

一鞍囊外覆

一腹帶

一朝鞅

一第三十條中ハ左ノ通追加ス

此服裝ニ在テ乘馬スルルハ其馬具ハ左ニ列記スルモノヲ裝具ス(第七圖)但將官ハ旅囊ヲ裝セシ

一頭絡撥備物及馬皮共

一野鞅

一轡銜共

一副銜

一韁

一副韁

一鞍鞍尾ヲ付ス

一鍔韁

一鞍褥

一鞍囊

一鞍囊外覆

一腹帶

一朝鞅

一第三十四條中ハ左ノ通追加ス

此服裝ニ在テ乘馬スルルハ其馬具ハ左ニ列記スルモノヲ裝具ス

一頭絡撥備物及馬皮共

一轡銜共

一副銜

一韁

一副韁

一鞍

一鍔韁

一鞍褥

一 腹帶

一 鞍鞅

一 第三十六條中へ左ノ道追加ス

此服裝ニ在テ乘馬スルハ其馬具ハ左ニ列記スルモノヲ裝具ス但鞍鞅ハ各自ノ便宜ニ依リ普通

ノ鞍下ノミヲ用ユルコトヲ得

一 頭絡豫備用及

一 轡豫備用及

一 副銜

一 韁

一 副韁

一 鞍

一 鞍鞅

一 腹帶

一 第三十九條中へ左ノ一項ヲ追加ス

此服裝ニ在テ乘馬スルハ馬具ノ裝具ハ通常禮裝ニ同シ

一 第四十三條末文「佩用スル」ヲ「シ」ニ改メ其下ニ「又徒卒刀ヲ佩用スル者ニシテ外套ヲ着シ背囊

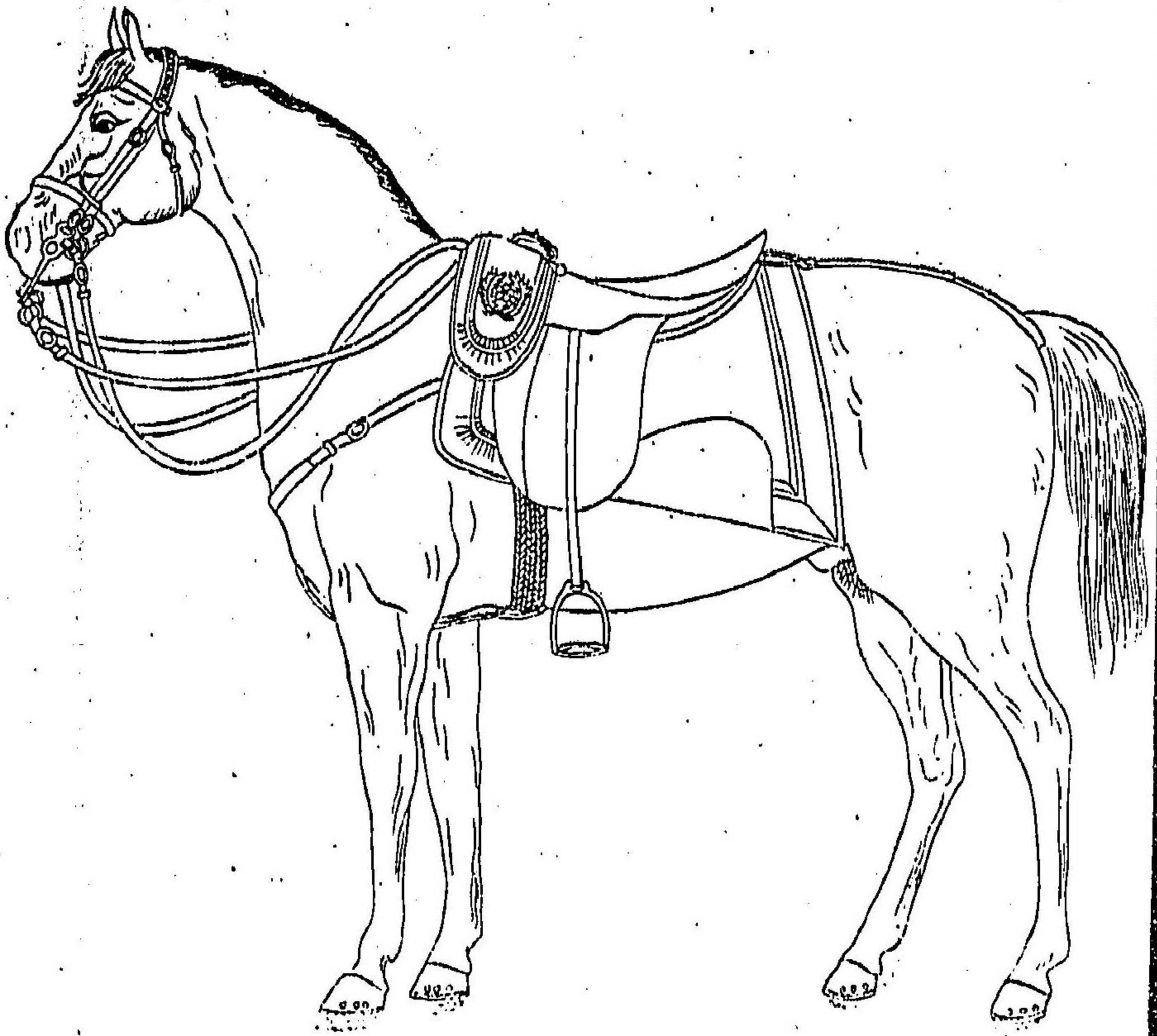
ヲ負フ場合ニ在テハ之ヲ外套ノ上ニ佩用スル」三十九字ヲ加フ

一 第四十九條第三項中「鐵兵ハ其工具ヲ步兵」後「携帶器具」ヲ「携帶」ハ其携帶器具ニ改ム

一 第五十二條中第五項「第四項」ニ改メ「適用セス」ノ下ニ「但脚絆ハ之ヲ袴下ニ着スル等適宜ニ之

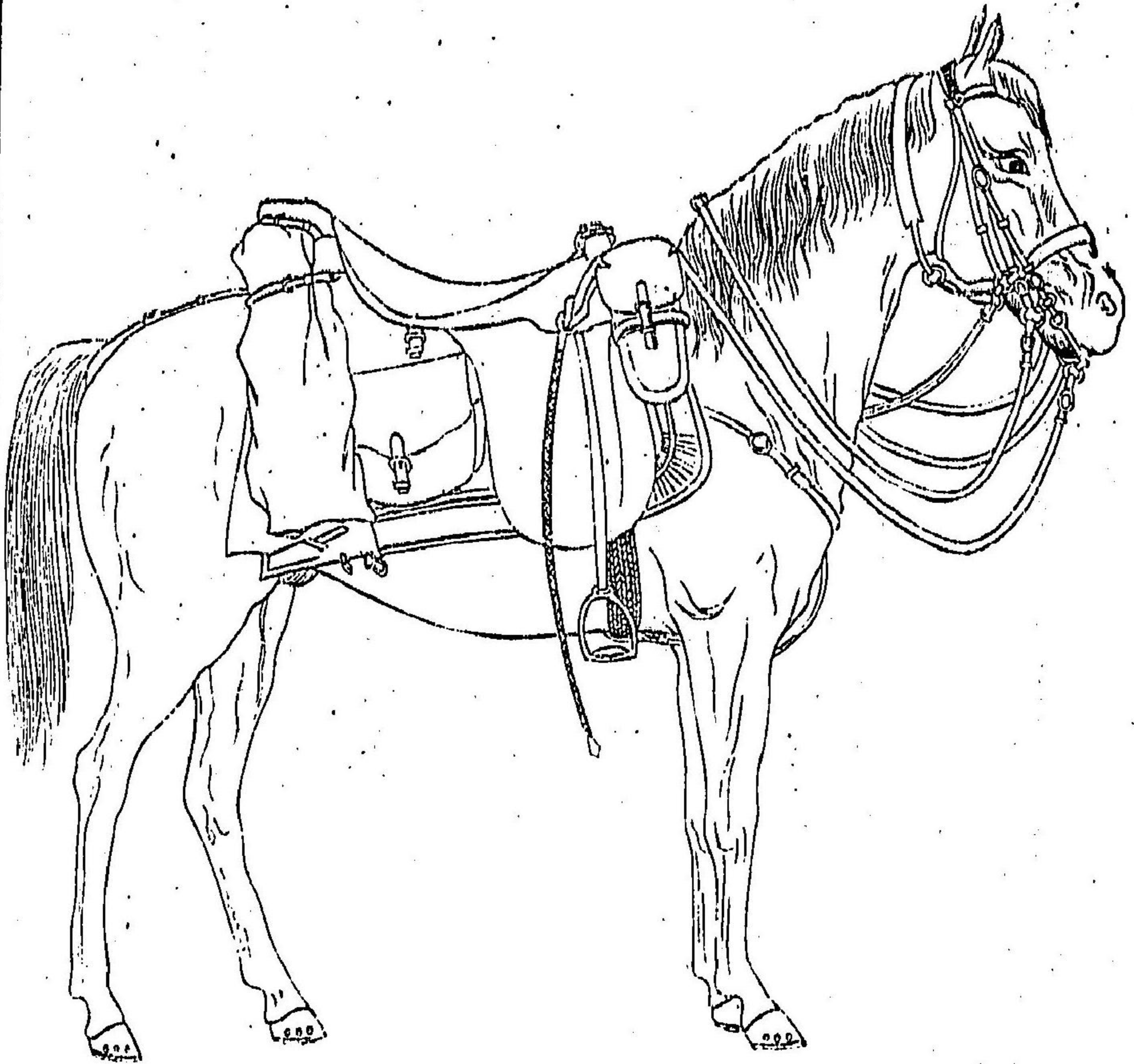
ヲ取捨スル」ヲ得「二十五字ヲ加へ末文」等以下十三字ヲ「モ妨ケナシ」ニ改ム

第 六 圖





第七圖



陸軍大臣伯爵大山巖

陸軍大臣伯爵大山巖

○陸軍第七十六號  
射擊教範別冊ノ通定メラル (別冊略ス)

明治二十年六月十七日  
○陸軍第七十七號

陸軍給與概則第十一章中左ノ通改正追加ス

明治二十年六月十七日  
第十一條ヲ左ノ如ク改ム

現職ヲ離レタル者事務引繼殘務取調ノ爲メ又ハ後備軍輜員將並ニ廢官免官ノ者公務ニ依リ旅行セシムルトキハ本官或ハ前官相當ノ並旅費ヲ支給ス

第十四條ヲ左ノ如ク改ム

將校現職ヲ離レ某地滞在ヲ命セラル者並ニ將校非職退職罷役トナリ歸郷ノ者ハ本官ノ並旅費ヲ支給ス

第十五條中旅費ノ上ニ並ノ一字ヲ加フ

第十六條ヲ左ノ如ク改ム

下士現役滿期及ヒ年齡滿限並ニ公傷ニ依リ免官歸郷スル者ハ本官或ハ前官相當ノ並旅費ヲ支給ス

第二十一條及ヒ第二十四條第二項中輜員ノ下ニ下「下」ノ二字ヲ割註ニ加フ

第二十七條ノ次ヘ左ノ二條ヲ追加シ從前ノ第二十八條ヲ第三十條トシ以下順次繰下フ

第二十八條 士官下士學術ノ檢査ヲ受クル爲メ出張セシムル者ハ左ノ旅費ヲ支給ス

第一項 府縣駐在官出張及ヒ臨時外ニ等ニ在リテハ手當トシテ一日十里前金五拾錢滞在日當金

明治二十年六月 陸軍第七十六號 陸軍第七十七號

三拾五錢ヲ給ス但十里以上端里敷及ヒ近方ハ第十九條第二項第三項ニ據ルモノトス  
第二項 府縣郡區駐在下士（駐在所外ニ）及ヒ軍吏部下士補充上等兵等ニ在リテハ第二十一條ニ據リ支給ス

第二十九條 軍人軍屬刑事ニ關シ職務上ニ係ル事件證明ノ爲メ法衙ノ呼出ヲ受クル者ハ左ノ旅費ヲ支給ス  
第一項 准士官以上ニ在リテハ旅費ヲ給ス但營外居住下士以下並ニ軍屬ニ在リテモ亦之ニ準

第二項 在營下士以下ニ在リテハ第二十一條ニ據リ支給ス  
並旅費表備考下副官ノ上ニ委任試補ハ士官ニ「フ」八字ヲ加フ

陸軍給與概則第十一章附錄ハ左ノ一項ヲ加フ  
旅中病氣等ノ爲メ御用濟自己ノ情願ニ依リ入病院或ハ滞在ノ者ニ在テハ日當ヲ支給セサルモノトス

○陸軍第七十八號  
今般射擊教範定メラレ候付テハ射的教程第一版射的演習定期村田銃取扱法及明治十五年五月達乙第三十五號標的尺度方同十七年四月送乙第千四百七十六號射的掛士官試發用彈藥ニ關スル達ハ自今廢止ス

明治二十年六月十七日 陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第七十九號  
客年三月達第七號陸軍給與概則第一表ノ乙表中左ノ通改正加除ス

明治二十年六月二十日 陸軍大臣伯爵大山 巖

一 大佐ノ區畫中「課員」ノ二字ヲ削ル  
一中佐ノ區畫中「次長」ヲ局長ニ改メ「課員」ノ二字ヲ削ル  
一 大尉ノ區畫中「課員」ノ上位ニ「課長」ノ二字ヲ置ク

○宮内省達第三號  
自今有位者（職族ヲ）改姓名貫屬替又ハ死去セントキハ其願屆ヲ取扱メル郡區長ヨリ直ニ當省華族局へ通牒セシムヘシ

明治二十年六月二十一日 宮内大臣伯爵伊藤博文

○陸軍第八十號  
陸軍給與概則第五章第四十二條ヨリ第四十四條ニ至ル三條左ノ通改正ス

明治二十年六月二十二日 陸軍大臣伯爵大山 巖

第四十二條 下士以下罪ヲ犯シ未決護送ノ者若クハ重輕罪トシテ審判ニ着手シ無罪免訴ニ歸シ若クハ刑期滿限ニ至リ歸隊歸屬セシムル者時服ヲ所持セサル時ハ監獄署又ハ憲兵隊ニ於テ第二種帽小倉衣袴（夏季ハ無帽）襪袴袴下靴雨着合羽ヲ貸與スヘシ

第四十三條 共貸與品ハ監獄署及憲兵隊ヨリ原證書ヲ送付スルニ依リ歸隊ノ者ハ本隊ヨリ被服積金ノ内ヲ以其全價ヲ償還シ歸屬ノ者ハ被服費相當科目ヨリ之ヲ償還スヘシ因テ監獄署憲兵隊ニ於テハ該金員ヲ以テ順次新品ヲ調製シ置クヘシ

第四十四條 滿刑歸郷ノ者及ヒ懲罰ニ止リ檢察官ヨリ直ニ歸隊歸屬セシムル者ニハ其被服ヲ貸與スルコトナシ

○陸軍第八十一號  
陸軍給與概則第二章第十五條左ノ通改正ス

明治二十年六月 達 宮内省第三號 陸軍省陸軍第八十號 陸軍第八十一號

北海道廳 府縣

一一一

但本年六月一日ヨリ施行スヘシ

明治二十年六月二十三日

陸軍大臣伯爵大山 巖

武官ヨリ文官ニ轉スル者ハ大藏省令高等官及判任官俸給支給細則ニ據ルヘシ

○陸軍第八十二號

大小架橋總列ニ要スル橋樑材料架橋器具員數並ニ配賦法別冊ノ通り定ム (別冊略ス)

明治二十年六月二十四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第八十三號

軍馬育成所條例別紙ノ通定ム

但第二條中二三育成所ハ追テ定ム

明治二十年六月二十五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別紙)

軍馬育成所條例

第一條 軍馬育成所ハ陸軍省騎兵局長ノ管理ニ屬シ軍馬購買委員等ヨリ馬匹ヲ領收シ之ヲ養育成長セシムル所トス

第二條 軍馬育成所ハ左ノ四ヶ所ニ置ク

一 三本木軍馬育成所 青森縣上北郡三本木村

二

三 福元軍馬育成所 鹿兒島縣嶺山郡福元村

第三條 軍馬育成所ニ繋畜養成スヘキ馬匹ハ專ラ乘馬種馬ノ二種ニシテ其年齡ハ大概一歳ヨリ五

歳迄ノモノトス而シテ五歳乃至六歳ニ至レハ之ヲ諸隊若クハ官廐ニ供給ス

但育成所備附ノ馬匹ハ此限ニ非ス

第四條 駄馬ハ養成ヲ要セサルヲ以テ一時之ヲ繋畜シテ諸隊若クハ官廐ニ供給スルヲ例トス

但時宜ニ依リ軍馬購買委員等ヨリ直ニ諸隊若クハ官廐ニ交付スルコトアルヘシ

第五條 軍馬育成所ニ於テ馬匹ヲ養成スルハ左ノ諸項ニ依ル

第一幼駒ハ成ルヘク放牧若クハ民間預ケ法ヲ以テ飼養シ費用ヲ節減スヘキ事

第二幼駒ヨシテ惡癖ヲ生セシメヌ温和柔順ニ養成スヘキ事

第三幼駒ハ水勒ヲ裝シ漸ク誘導ニ馴レシムヘキ事

第四幼駒稍壯年ニ達スレハ鞍ヲ置キ水勒ヲ裝シ之ヲ人體ノ負載ニ馴レシムヘキ事

第六條 軍馬育成所長ハ騎兵大尉ノ内一人ヲ以テ之ニ補シ騎兵局長ノ管理ニ屬シ所中一切ノ事務ヲ整理シ幼駒及新馬ヲ軍用ニ適スル様養成ヲ爲シ所附諸官ヲ統轄シ其勤惰能否ヲ監視ス而シテ其管掌ノ事務ニ就テハ騎兵局長ニ對シ擔保ノ責ニ任ス

第七條 左ニ掲ル事項ハ所長直ニ執行スルコトヲ得而シテ其時々騎兵局長ニ報告スヘシ

一 幼駒若クハ新馬ヲ厩舎ニ繋畜スル時ト雖トモ馬匹發育ノ景狀ニ應シテ定期ノ飼料内ニ於テ適宜ニ之ヲ減少スル事

一 惡癖若クハ疾病等ニテ軍用ニ適セサル馬匹ハ直ニ賣却スル事

但シ疾病ハ獸醫官ノ診斷ニ依ルモノトス

一 備丁ノ免命及日給支給額ハ其年度ニ於テ定ムル所ノ人員並ニ豫算金額ニ照シ便宜處分スル事

一 馬匹受領ノ爲メ若クハ畜養馬匹ヲ他ヘ輸送ノ爲メ派出員ヲ要スル節ハ軍馬授受手續ニ示ス

調馬卒ニ準シ備丁ヲ使用スル事

第八條 軍馬育成所ニ騎兵少尉一人ヲ置キ所長ノ職務ヲ補佐シ所中一般ノ事務ヲ擔當セシメ騎兵曹長同一二等軍曹ヲ置キ上官ノ指揮ヲ受ケ馬匹ノ保育養成及馬籍ノ事ニ從ヒ兼テ所中ノ庶務ヲ分掌セシム

第九條 軍馬育成所ニ陸軍二三等軍吏ノ内一人ヲ置キ之ニ軍吏部下士ヲ附シ所中計算出納ノ事務ヲ掌ラシム

第十條 軍馬育成所ニ陸軍二三等獸醫ノ内一人ヲ置キ馬匹ノ衛生治療去勢術等ニ關スル事件ヲ扱ハシム

第十一條 軍馬育成所ニ蹄鐵工ヲ置キ馬匹ノ裝蹄剔毛ハ勿論兼テ獸醫官ノ指揮ヲ受ケ馬匹治療ノ助手メラシメ又備丁ヲ置キ馬匹ノ保育搔櫛及器械馬具ノ淨磨其他ノ諸役ニ服セシム

軍馬育成所定員表

|      |     |    |    |      |      |     |     |   |
|------|-----|----|----|------|------|-----|-----|---|
| 大 尉  | 中尉  | 少尉 | 曹長 | 一等軍曹 | 二等軍曹 | 職 工 | 備 丁 | 計 |
| 一    | 一   | 一  | 一  | 一    | 一    | 一   | 一   | 一 |
| 計    | 計   | 計  | 計  | 計    | 計    | 計   | 計   | 計 |
| 一    | 一   | 一  | 一  | 一    | 一    | 一   | 一   | 一 |
| 陸軍書記 | 蹄鐵工 | 二  | 三  | 十    | 四    | 十一  |     |   |

備 考  
 一 所長ヲ除ク外ハ文官若クハ備員ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ持  
 二 本表ノ人員ハ最上級ヲ示スモノナルカ故ニ時宜ニ依リ必スシモ定員ヲ充タヌヲ要セス  
 三 備丁ハ所在地方ノモノヲ指シ又

○陸軍第八十四號

軍馬購買委員規則別紙ノ通定 (別紙ハ訓令第九號ニ同シ)

明治二十年六月二十五日

陸軍大臣伯耆大山 巖

○陸軍第八十五號

調馬主管以下定員表中備考第二項ヲ左ノ通改定ス

明治二十年六月二十五日

陸軍大臣伯耆大山 巖

一本表定員ノ内一二等軍曹一名及一二等調馬卒六名ハ當分ノヲ置カス

本月十一日ヨリ來ル九月十日マテ諸官員暑中休暇ヲ賜フ但明治七年七月第十四號達ノ通心得ヘシ  
休暇中内閣ニ於テハ要急事務ノ外ハ取扱ハサルヘシ  
明治二十年七月二日  
内閣總理大臣伯爵伊藤博文

各官 處

○陸達第八十六號  
本月十一日ヨリ九月十日迄諸官員暑中休暇ヲ賜リ候旨内閣ヨリ達相成候條陸軍部内諸官員休暇賜  
リ方ノ儀ハ去ル八月六月布第百七十六號達ノ通り心得ヘシ  
明治二十年七月四日  
陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸達第八十七號  
本月十一日ヨリ九月十日迄午前八時出頭午十二時退出ト定ム  
但軍隊勤務及役夫ヲ使用スル係官員等ハ此限ニ非ス  
明治二十年七月四日  
陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸達第八十八號  
工兵大隊演習用及師團野戰用火藥火具定額種類區分及取扱概則別冊ノ通改定ス (別冊略ス)  
但去十八年二月送乙第五一五號工兵一中隊一箇年間演習用及常備用火藥火具定額表ハ廢止ス  
明治二十年七月八日  
陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸達第八十九號  
工兵中隊工兵器具列器具ヲ自今工兵中隊職器械具ト改稱ス  
明治二十年七月八日  
陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第九十號

明治十九年三月省令乙第十號工兵方面條例中左ノ追加除改正ス

明治二十年七月十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

第一條中「鐵兵」ノ三字ヲ削リ「材料」ノ下ニ「及ヒ步兵工具」ノ六字ヲ加フ

第十條第一行中「鐵」ノ字ヲ削リ「材料」ノ下ニ「及ヒ步兵工具」ノ六字ヲ加フ

第十八條ヲ左ノ通改ム

曹長一名ハ工具係ニ屬シ専ラ電信器具材料ノ取扱ニ任シ其他ノ下士ハ文書ノ淨書及ヒ日記記注

往復等ノ事ヲ分掌ス

第二十五條中若クハ副提理「六字ヲ削ル

定員表中第一方面第二方面共「監護八」ノ上ニ「曹長一」ヲ加フ

○陸軍第九十一號

今般陸軍第九十號ヲ以テ工兵方面定員表中曹長一人増加ノ處右ハ當分ノ内陸軍接手ヲ以テ之ニ換

フルコトヲ得ヘシ

明治二十年七月十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第九十二號

轉地療養及ヒ温泉入浴或ハ免官免役歸郷等ノ節歩行シ難キ患者ニ看護卒等乘車ニテ附添ヲ要スル

トキニ限り自今其患者附添人共總テ一里金七錢ヲ自途トシテ實費車馬賃ヲ支給スヘシ

明治二十年七月十四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第九十三號

去ル十一年連乙第九十八號ヲ以テ各所管ニ於テ服用新毛巾及火鋸運搬用軍馬毛伏用等古毛巾共會

計局並ニ各領臺在庫品ノ内相當代價ヲ以テ讓受ケ需用可致旨相違位候處自今其賜ニ於テ購求支辨ス

ヘシ

明治二十年七月十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第九十四號

工兵中隊職器具表及ヒ同各隊馬配賦表別冊ノ通定ム (別冊略ス)

但去ル十八年連乙第三十二號達工兵一中隊隊馬負擔器具表ハ廢止ス

明治二十年七月十八日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第九十五號

工兵中隊職器具表馬負擔式及納置法別冊ノ通定ム (別冊略ス)

明治二十年七月十八日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第九十六號

給與概則第十一章第二十八條第一項手當金ノ義ハ三里以上六里未満ノ地へ出張セシムル者若シ一

泊セシムルトキハ半額支給ノ外別ニ金貳拾五錢ヲ給スヘシ

明治二十年七月十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

陸軍第九十七號

陸軍士官學校定員表別表ノ通改正ス

明治二十年八月一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別表)

| 陸軍士官學校定員表 |     |     |     |      |     |     |     |     |     |     |
|-----------|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 部         | 總計  |     | 大佐  |      | 中佐  |     | 少佐  |     | 尉   |     |
|           | 生徒  | 隊   | 部   | 部    | 部   | 部   | 部   | 部   | 部   | 部   |
| 部         | 生徒  | 隊   | 部   | 外國語學 | 地理學 | 地形學 | 築城學 | 兵器學 | 軍制學 | 戰術學 |
|           |     |     |     | 部    | 部   | 部   | 部   | 部   | 部   | 部   |
| 中隊長       | 中隊附 | 中隊附 | 中隊附 | 中隊附  | 中隊附 | 中隊附 | 中隊附 | 中隊附 | 中隊附 | 中隊附 |
| 八三        | 百兩  | 百兩  | 百兩  | 百兩   | 百兩  | 百兩  | 百兩  | 百兩  | 百兩  | 百兩  |
| 百七十       | 百七十 | 百七十 | 百七十 | 百七十  | 百七十 | 百七十 | 百七十 | 百七十 | 百七十 | 百七十 |

明治二十年八月 陸軍省陸軍第九十七號

111

表 員

カラス  
 (一) 中隊附士官ハ一中隊ニ八名宛トシ内ニ三名ハ騎兵科一名ハ砲兵科五名ハ歩兵科トス  
 (二) 本部附大尉及ヒ同曹長軍曹ノ内三名ハ騎兵科一名ハ火工長(下長)トス  
 (三) 副官及ヒ本部附騎兵科大尉、生徒隊中隊附士官ノ内騎兵科、砲兵科ノ士官ハ乘馬本分トス  
 (四) 本表定員ノ外翻譯、通譯及ヒ圖畫ノ事ヲ擔任セシムル爲メ文官若クハ雇員六名ヲ置ク  
 (五) 中隊附士官校内居住ヲ實施セサル間ハ中隊附曹長ヲ置カス各中隊ニ下副官各一名ヲ置キ通譯士官ニ屬シ生徒監視ノ事ニ任セシメ兼テ中隊附曹長ノ職務ヲ擔任セシム

○陸軍第九十八號

陸軍幼年學校定員表別表ノ通定ム

明治二十年八月一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別表)

年 幼 軍 陸

|            |     |          |                            |                  |   |       |     |
|------------|-----|----------|----------------------------|------------------|---|-------|-----|
| 校 長<br>中少佐 | 副 長 | 部 官<br>等 | 大尉並中尉並少尉並曹長並一等軍曹並二等軍曹並相當官生 | 徒                | 卒 | 馬     | 四   |
|            |     |          | 相當官                        |                  |   |       |     |
| 教 官        | 校 官 | 本 部      | 副官 一 副官 二                  | 下副官 一            | 六 |       |     |
|            |     |          | 三等軍曹 二<br>二等軍曹 二<br>三等曹長 一 | 二等曹長 二<br>三等曹長 一 | 三 | 省陸卒 二 |     |
| 教 官        |     | 博物學      | 教 官                        |                  |   |       | 二十三 |

表 員 定 校 學

|     |     |        |  |     |
|-----|-----|--------|--|-----|
| 備 考 | 部   | 外國語學   | 中隊長 三 中隊附 十三 中隊附 二 中隊附 四 二百二十五 喇叭卒 四 四 | 十   |
|     |     | 漢 學    |  |     |
| 備 考 | 總 計 | 二百九十一名 |  | 四十四 |

(一) 中隊附士官ハ其兵科ノ限ラズ一中隊ニ六名宛トシ又校長ノ職務ヲ任スル中隊附騎兵科士官ハ便宜兩中隊ノ内(附屬)セシム  
 (二) 副官及ヒ校長ノ職務ヲ任スル中隊附騎兵科士官ハ乘馬本分トス  
 (三) 本部附曹長軍曹ノ内三名ハ騎兵科トシ校長職務ノ中隊附士官ニ附屬セシム  
 (四) 本表定員ノ外翻譯通譯及ヒ圖畫ノ事ヲ擔任セシムル爲メ文官若クハ雇員五名ヲ置ク  
 (五) 中隊附士官校内居住ヲ實施セサル間ハ中隊附曹長ヲ置カス各中隊ニ下副官各一名ヲ置キ生徒監視ノ事ニ任セシメ兼テ中隊附曹長ノ職務ヲ擔任セシム

○宮内省遵第四號

防海費賦納願本年九月三十日限り差止候條管内へ諭達致ヘシ

明治二十年八月三日

宮内大臣伯爵伊藤博文

府 縣 沖繩縣 府 薩 摩 縣

○陸軍第九十九號

陸軍給與概則第二章第五十九條及第四章第一條中左ノ通改正増補ス

但本年八月一日ヨリ施行スヘシ

明治二十年八月四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

第二章



第五十九條 大學校教授助教士官學校長次長教官及同校隊附將校下士戸山學校長次長教官助教砲兵射的學校長幼年學校長教導團教官及隊附將校下士ニハ第二表ノ金額ヲ給ス(但書如故)

第四章

第一條中傳令士官ノ上ニ士官學校戸山學校砲兵射的學校幼年學校副官ノ二十字ヲ加フ

○陸達第百號

橋船材料並架橋器具圖彙及圖解別冊ノ通定 (別冊略ス)

明治二十年八月十日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸達第百一號

來九月十一日ヨリ午前九時出頭午後三時退出ト定ム

明治二十年八月三十日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸達第百二號 (八月分)

工兵操典第二版ノ部卷六、七別冊ノ通定 (別冊略ス)

明治二十年八月三十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸達第百三號

下士以下背離別紙圖面ノ通改正ス (別紙略ス)

明治二十年九月七日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸達第百四號

自今工兵大隊ニ材料主管大尉一名ヲ置ク

明治二十年九月八日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸達第百五號

現役滿期ノ兵卒ニシテ再服役志願ノ者ハ是迄差許來候處自今下士ノ任ニ堪ニハキ才能アル上等兵ニシテ再服役志願ノ者ノ外ハ之ヲ許サス

明治二十年九月八日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸達第百六號

本年陸達第十七號達步兵土工及破壊工具表備考第二項ノ末ヘ(但楕圓摺桿及繩共屬ス)ノ十字ヲ加フ

明治二十年九月十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸達第百七號

陸海軍喇叭譜並同目次一般隊號ノ部及ヒ同所用區分表へ別紙ノ通追加ス

明治二十年九月二十四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍部百八號

昨十九年達乙第六號ヲ以テ砲兵各中隊第二小隊ノ幹部中下士ハ二等軍曹ヲ以テ漸次附屬爲致候旨  
相達置候處自今下士ハ編制表ノ通り附屬セシム

明治二十年九月二十四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍部百九號

陸軍給與概則第四章第八條左ノ通り改正ス

明治二十年九月三十日

陸軍大臣伯爵大山 巖

第八條 其飼料ハ現馬數ニ應シ第十表ノ定額ヲ支給シ而シテ其定量ヨリ生スル殘餘ノ代金ハ馬糞  
積金トナシ隊中ニ積置後次該費ノ不足ヲ補填シ又該隊豫備馬一切ノ費用ニ充ツルヲ得

○陸軍部百十號

陸軍省職官定員表備考中第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

明治二十年十月四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

一 工兵局ニ在テハ文官屬ニ技手ヲ混用スルコトアルヘシ

○宮内省達第五號

華族一般

自今地方ニ就キ產業ニ從事シ或ハ家計ヲ維持スルノ目的ヲ以テ各府縣並北海道へ移住セントスル  
モノハ其事情ヲ具シ賞賜願出ヘシ其目的至當ト認ムルモノハ聞届クヘシ

明治二十年十月十五日

宮内大臣子爵土方久元

○陸軍部百十一號

工兵大隊材料主管ノ職務分ノ内左ノ通心得ヘシ

明治二十年十月十五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

一 武器、工具、及彈藥ノ充備整頓ノコトヲ擔任シ其他總テ工兵作業ニ要スル材料及諸物品ノ貯蓄保  
存購求、配與、修理等ノ事ヲ管掌ス

一 前項ニ關スル取扱方ハ内務書改正頒布ニ至ル迄ハ大隊長ノ所定ニ從ヒ總テ之レカ指揮監督ヲ受  
ルモノトス

○陸軍部百十二號

近衛各鎮營備付兵器修理規則並野外兵器修理法七種米砲ノ部別冊ノ通定ム(別冊略ス)

明治二十年十月十八日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍部百十三號

明治二十年十月 達 陸軍省陸軍部百十號 陸軍部百十一號 陸軍部百十二號 陸軍部百十三號 宮内省第五號 一三七

明治二十年十月 陸 陸軍省陸軍部百十四號 陸軍部百十五號

一三八

陸軍給與概則第三章第七條及第八條中四錢貳厘ヲ三錢五厘ト改ム  
第九表中衛兵及行軍夜食料ノ區畫四錢貳厘ヲ三錢五厘ト改ム

明治二十年十月十八日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍部百十四號

近衛職官表備考中左ノ一項刪除セラル

明治二十年十月二十五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

本表定員ノ外 明宮伺候當直士官若干名ヲ置ク

○陸軍部百十五號

各輜重兵大隊中ニ輜重廠ヲ被置編制別表ノ通被定

明治二十年十月二十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別表)

輜重廠編制表

| 階級區分 | 職名 | 員數 | 階級區分 |   |
|------|----|----|------|---|
|      |    |    | 大    | 中 |
| 大尉   | 廠長 | 一  |      |   |
| 中尉   | 監務 | 二  |      |   |
| 少尉   |    |    |      |   |
| 曹長   |    |    |      |   |
| 一等軍曹 | 監副 | 二  |      |   |
| 二等軍曹 | 監副 | 六  |      |   |

| 階級區分   | 職名 | 員數 | 階級區分 |   |
|--------|----|----|------|---|
|        |    |    | 水    | 鐵 |
| 鐵工(下)長 |    | 一  |      |   |
| 水工(下)長 |    | 一  |      |   |
| 鐵工(下)長 |    |    |      | 一 |
| 木工     |    |    |      | 一 |
| 鐵工     |    |    |      | 一 |
| 計      |    |    |      | 三 |

備考 廠工中定員ヲ概ケサルモノハ工事ノ繁閑或ハ其他ノ景況ニ依リ増減アルヲ以テナリ

○陸軍部百十六號

陸軍給與概則第二章第五十九條 戶山學校長次長教官ノ下ニ「教官補」ノ三字ヲ加ヘ「助教」ノ下ニ「及ヒ教導大隊附固定幹部ノ諸官」ノ十四字ヲ加フ

明治二十年十月二十八日

陸軍大臣伯爵大山 巖

明治二十年十月 陸 陸軍省陸軍部百十六號

一三九

○陸達第百十七號 (十月分)

陸軍給與概則第四章中左ノ通り改正ス

但明治十年一月達乙第十一號達ハ廢止ス

明治二十年十月二十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

第四章及第十一表標題中「裝蹄」ノ下ニ「別毛」ノ二字ヲ加フ  
第十條ヲ左ノ如ク改ム

第十條 騎砲及輜重兵隊馬ノ裝蹄ハ毎月四蹄一回ト定メ一頭金四拾七錢ヲ定額トシ別毛ハ冬季一回ト定メ一頭金三拾錢ヲ定額トス而シテ各隊馬數ニ應シ支給スルヲ以テ器械ノ修理費及鐵代消耗品等總テ該定額内ヲ以テ支辨シ其殘餘ハ該隊ニ積置キ器械ノ新調費等ニ充ツルヲ得但各鎮營東京鎮營豫備馬及ヒ諸學校教導團憲兵隊調馬隊軍馬育成所等ノ馬匹裝蹄及ヒ別毛ニ係ル費用ハ實費ヲ以テ支拂フヘシ

○陸達第百十八號

陸軍戶山學校教導大隊下士兵卒ノ被服ニ附着セシムヘキ徽章左圖ノ通り定ム

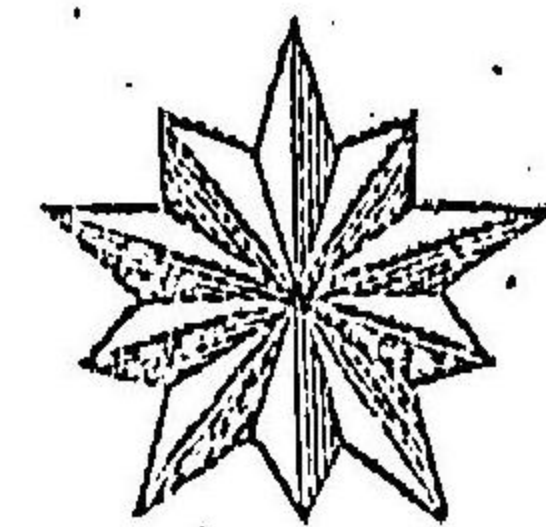
明治二十年十一月二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

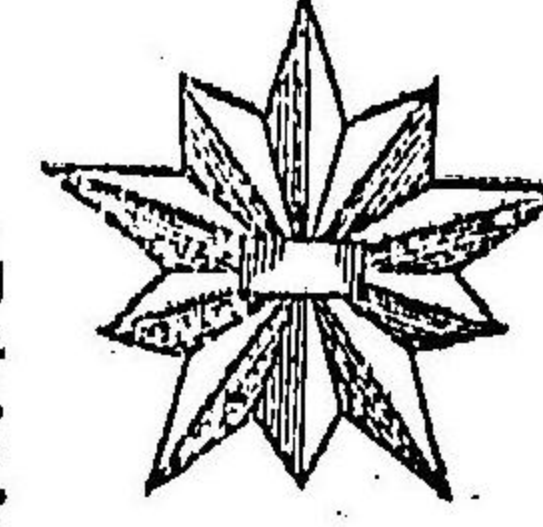
教導大隊下士兵卒徽章

明治二十年十一月 達 陸軍省陸達第百十七號 陸達第百十八號

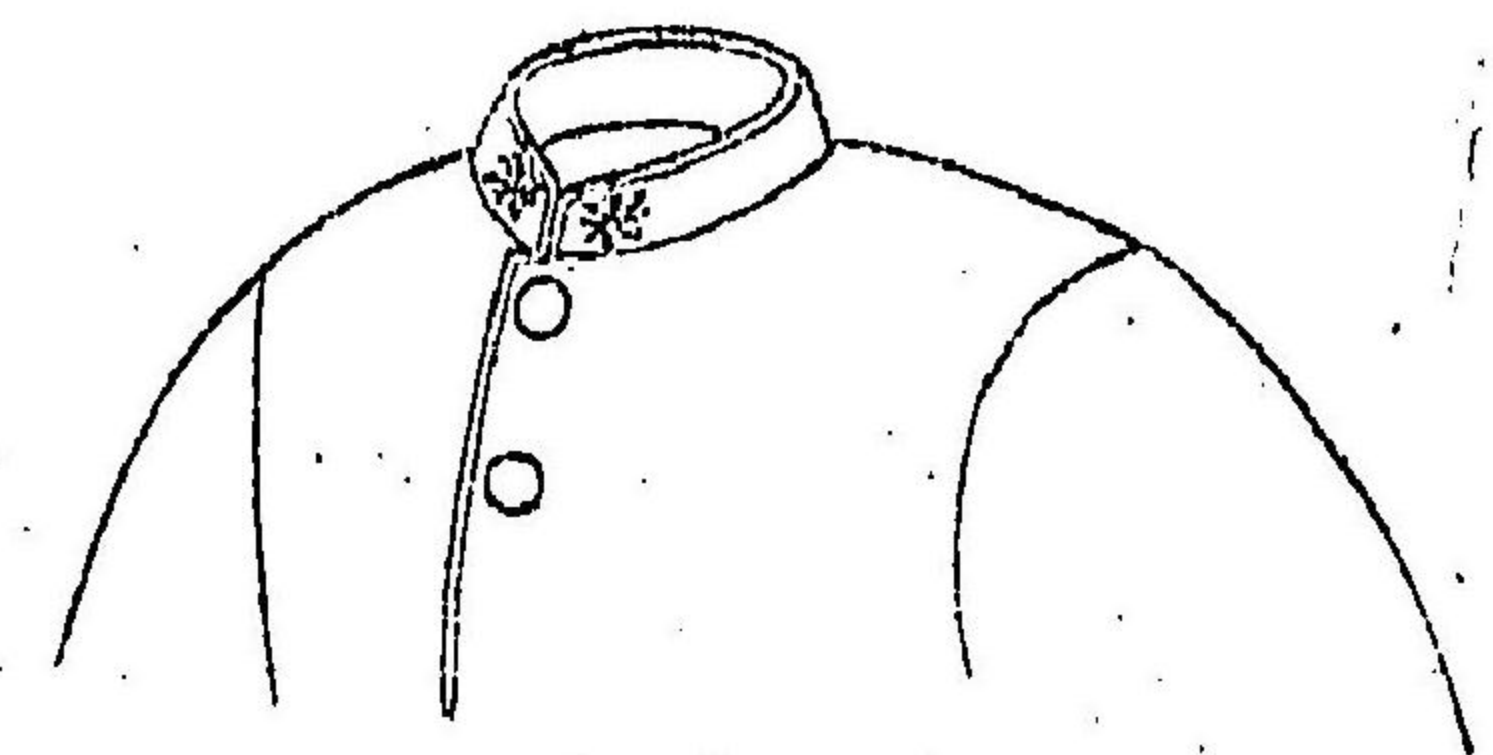
表 面



裏 面



品質真鍮



○陸軍部百十九號  
近衛豫備役兵ヲ鎮邊ニ召集シ復習セシムルトキハ鎮邊ニ於テ鎮邊豫備役兵同様ノ被服ヲ着用セシムル

明治二十年十一月五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍部百二十號

各所管ニ於テ所轄軍人軍馬驛職等ノ節赴任出發期日並病氣其他事故ニ依リ出發延期願出候者取扱方左ノ通心得ヘシ  
但本文ニ係ル從前ノ通達ハ廢止シ十九年達第四號達中ノ末項ヲ刪除ス

明治二十年十一月十日

陸軍大臣伯爵大山 巖

一就職轉職赴任ノ者ハ各自辭令書拜受ノ日ヨリ一週日間ニ出發セシムルヘシ其出張拜命ノ者又同シ  
一事務引繼等ノ爲メ出發延期ヲ要スルトキハ其日數ヲ豫定シ所管長ヨリ新所管長ヘ協議ノ上取計フヘシ

一本人病氣ニ依リ又ハ父母重病看護ノ爲メ出發延期願出候者アルトキハ舊所管長ニ於テ開屆其旨新所管長ヘ通報スルヘシ  
一赴任ノ際ニ於テ父母ノ重病ニ付歸省願出ル者アルトキハ舊所管長ニ於テ開屆其旨新所管長ヘ通報スルヘシ其他事故等ニテ休暇ヲ願フハ任地若シ上休暇規則ニ依リ出願セシムルヘシ

○陸軍部百二十一號

自今砲兵上等監護工兵上等監護二等軍樂長ニシテ一時過員トナリ又ハ疾病ノ爲メ一時職務ニ堪ヘ難キ者アルトキハ非職申付可シ  
但其取扱ハ非職將校規則ニ準メル儀ト心得ヘシ

明治二十年十一月十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍部百二十二號  
自今歩騎砲工輜重及屯田兵ノ上等兵並ニ上等調馬卒樂手補夏衣及外袴ヘ下士同様ノ袖章付着スル

明治二十年十一月十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍部百二十三號

自今軍醫部下士以下出師準備ノ際ニ限り背蓋内ニ三角巾三箇ヲ收容シ且ツ中段ノ上ニ英式副木十本ヲ填充スル

明治二十年十一月十四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍部百二十四號  
生兵概則ヲ廢ス

明治二十年十一月十五日  
○陸軍部百二十五號

陸軍大臣伯爵大山 巖

明治十八年達乙第百三十號陸軍諸兵卒並ニ雜卒諸士進級ノ項目中第二項「等卒」以下三十七字ヲ  
「二等卒」實役一箇年ヲ過キ且技能アノ十六字ニ改ム  
明治二十年十一月十五日

○陸軍部百二十六號

陸軍大臣伯爵大山 巖

新兵入隊定期別冊ノ通り定ム  
明治二十年十一月十五日  
(別冊)

陸軍大臣伯爵大山 巖

新兵入隊定期

第一條 新兵ハ毎年十二月一日入隊スルモノニシテ聯隊長(獨立分屯大隊ニ在テハ)ハ之ヲ後備軍司令官(分屯所在地ニ在テハ)ヨリ受領シ各中隊ニ編入シ然ル後讀法ヲ讀ミ聞カセ誓文牒ニ署名捺印セシム

第二條 聯隊長ハ豫メ後備軍司令官ヨリ現役兵名簿同検査名簿及ヒ籤簿ヲ受領シ新兵入隊ノ當日適宜ノ場所ニ於テ之ヲ入隊セシム

第三條 新兵受領ノ順次ハ籤順ニ其姓名ヲ呼ビ之ヲ並列セシメ各自ノ番號割符ヲ籤簿ニ照シ又其骨相ヲ現役兵検査名簿ニ較照セシメ然ル後聯隊長後備軍司令官ト共ニ之ヲ點檢スルモノトス但當日入隊セサル者ハ其姓名及ヒ事由ヲ略記シテ後備軍司令官ヨリ聯隊長ニ移スヘシ

第四條 聯隊副官(獨立分屯大隊ニ在テハ大隊副官)ハ新兵ヲ各中隊ニ區分シ各中隊長ハ之ヲ各給發班ニ配屬ス

第五條 各中隊ニ於テハ中隊長ノ監視ヲ以テ曹長及ヒ給發班ハ上等兵ヲシテ被服其他所要ノ物品ヲ配與セシメ而シテ各新兵ノ着用シテ來ル所ノ自服ハ本人ノ望ニヨリ一時倉庫ニ預リ置クカ或ハ付添人ニ返附スヘシ

第六條 新兵入隊ノ翌日中隊長ノ面前ニ於テ士官下士列席ノ上讀法ヲ聽聞セシメ及ヒ其心志ノ確實ヲ證スル爲メ誓文牒ニ署名捺印ヲ爲サシム

誓文

今般御讀聞相成候讀法ノ條々堅ク相守リ誓テ違背仕間敷候事

姓名印(花押)(拇印)

明治 年 月 日

陸軍大臣伯爵大山 巖

誓文終レハ各軍曹ノ指揮ニ從テ退散ス

第七條 近衛諸隊及ヒ警備隊ニ在テモ本則ニ準シ新兵ヲ入隊セシムルモノトス

○陸軍部百二十七號

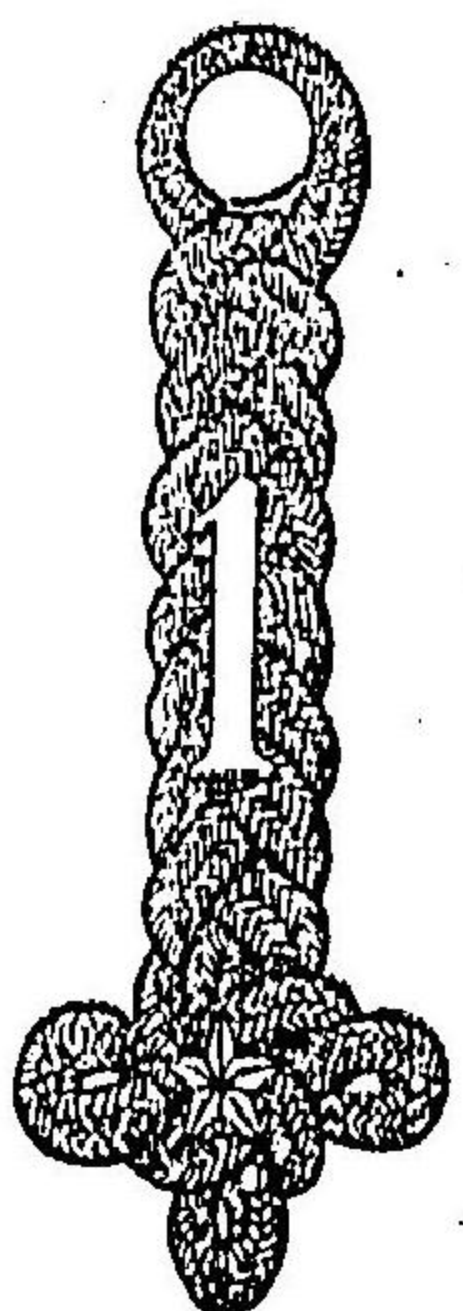
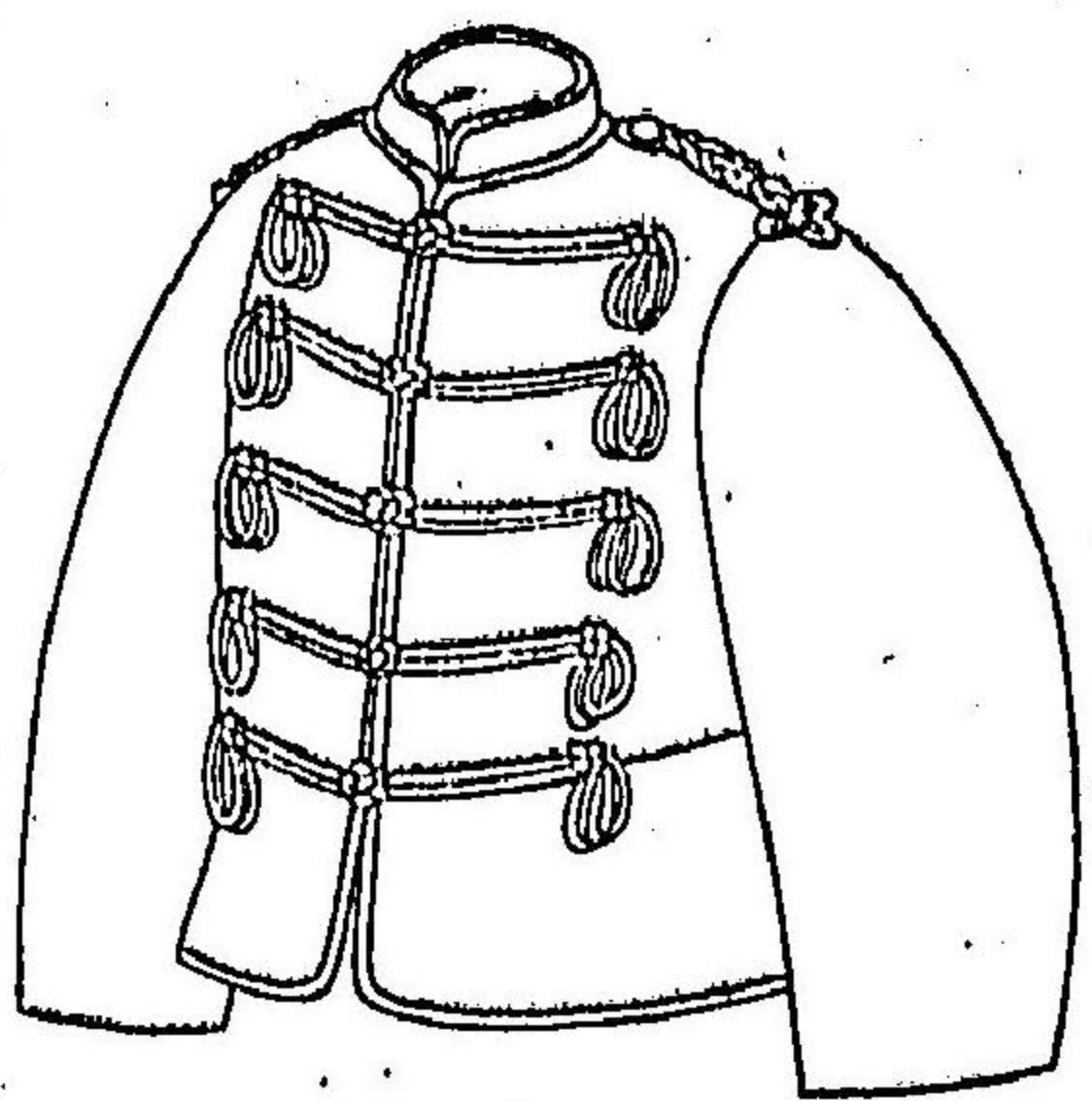
陸軍給與概則第二章第一表及第二表中別紙ノ通り改正シ第一表備考中第二項ヲ「輜重輸卒入營中」日給金三錢三厘ヲ給スニ改メ第二表備考中第二項ヲ刪除ス  
但本年十二月一日ヨリ施行スヘシ

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別紙)

|       |       |     |     |             |   |
|-------|-------|-----|-----|-------------|---|
| 第 一   | 下 士 卒 |     |     |             |   |
| 官 職 名 | 等 級   | 日 額 | 額   | 均 平 月 額     | 額 |
| 表 二   | 等 砲 卒 | 四 錢 | 八 厘 | 一 圓 四 十 六 錢 |   |





○陸軍部百三十號

士官候補生手當金左表ノ通定

明治二十年十一月十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

| 士官候補生 | 名       | 階級    | 一週日手當金    |       | 一箇年手當金    |  |
|-------|---------|-------|-----------|-------|-----------|--|
|       |         |       | 見習士官      | 金九拾三錢 | 金四拾八圓三拾六錢 |  |
| 士官候補生 | 二等軍曹勤務中 | 金六拾壹錢 | 金三拾壹圓七拾貳錢 |       |           |  |
| 士官候補生 | 二等軍曹勤務中 | 金六拾壹錢 | 金三拾壹圓七拾貳錢 |       |           |  |
| 士官候補生 | 兵卒勤務中   | 金三拾五錢 | 金拾八圓貳拾錢   |       |           |  |

○陸軍部百三十一號  
下士以下麻脚絆給與法左ノ通改正ス

但本年十一月ヨリ施行スヘシ

明治二十年十一月十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

麻脚絆給與表

| 名    | 階級    | 期       | 麻脚絆給與數 |    |    |    |    |    |    | 事 | 山 |   |   |
|------|-------|---------|--------|----|----|----|----|----|----|---|---|---|---|
|      |       |         | 初年     | 二年 | 三年 | 四年 | 五年 | 六年 | 七年 |   |   |   |   |
| 步兵   | 下士    | 五年      | 十      | 〇  | 〇  | 〇  | 〇  | 〇  | 〇  | 〇 | 〇 | 〇 |   |
| 步兵   | 兵卒    | 三年      | 六      | 〇  | 〇  | 〇  | 〇  | 〇  | 〇  | 〇 | 〇 | 〇 |   |
| 校團步兵 | 兵卒    | 七年      | 十四     | 〇  | 〇  | 〇  | 〇  | 〇  | 〇  | 〇 | 〇 | 〇 |   |
| 軍樂部  | 下士    | 三年      | 六      | 〇  | 〇  | 〇  | 〇  | 〇  | 〇  | 〇 | 〇 | 〇 |   |
| 教導   | 步兵科生徒 | 十六月     | 三      | 〇  | 〇  | 〇  | 〇  | 〇  | 〇  | 〇 | 〇 | 〇 |   |
| 團    | 工兵科生徒 | 三十月     | 四      | 〇  | 〇  | 〇  | 〇  | 〇  | 〇  | 〇 | 〇 | 〇 |   |
| 銚銃木銃 | 工     | 三年      | 三      | 〇  | 〇  | 〇  | 〇  | 〇  | 〇  | 〇 | 〇 | 〇 |   |
| 備考   | 表     | 中初年二年三年 | 下      | 初  | 年  | 下  | 初  | 年  | 下  | 初 | 年 | 下 | 初 |

○陸軍部百三十二號

明治十九年達第六號達日本郵船會社所有船乘組手續第四條但書中渡航ノ上ニ(乗船ノ證券ハ一名一葉宛ヲ交付シ又)ノ十六字ヲ挿入シ同手續證券離形中(或ハ以下幾人)ノ六字ヲ刪除ス

但明治二十一年一月一日ヨリ施行スヘシ

陸軍大臣伯爵大山 巖

明治二十年十一月 陸軍省陸軍部百三十二號



○陸軍部第三十三號

下士以下軍隊手帳及控共左ノ通改正ス

明治二十年十一月十七日

陸軍大臣伯爵大山 巖

第一種 營内居住下副官下士卒諸生徒諸職工

第二種 營外居住下副官下士卒諸職工

第三種 輜重輸卒

○陸軍部第三十四號

士官候補生被服給與法別表ノ通定ス

明治二十年十一月二十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別表)

士官候補生被服給與表

| 品目    | 名     | 粉 | 修業年限 |   |   | 保 | 存 | 由                   |
|-------|-------|---|------|---|---|---|---|---------------------|
|       |       |   | 期    | 限 | 年 |   |   |                     |
| 第一種帽製 | 士官候補生 | 同 | 三年   | 一 | 〇 | 六 | 年 | 初度一箇ヲ給シ爾後保存期限ニ照シ交換ス |
|       |       |   | 同    | 一 | 〇 |   |   |                     |
| 前立    | 士官候補生 | 同 | 同    | 二 | 〇 | 六 | 年 | 初度一箇ヲ給シ爾後保存期限ニ照シ交換ス |
|       |       |   | 同    | 二 | 〇 |   |   |                     |
| 第二種帽  | 士官候補生 | 同 | 同    | 四 | 〇 | 六 | 年 | 初度二組ヲ給シ爾後保存期限ニ照シ交換ス |
|       |       |   | 同    | 四 | 〇 |   |   |                     |
| 縫衣袴   | 士官候補生 | 同 | 同    | 一 | 〇 | 六 | 年 | 初度ニ於テ給ス             |
|       |       |   | 同    | 一 | 〇 |   |   |                     |
| 肩章    | 士官候補生 | 同 | 同    | 四 | 〇 | 六 | 年 | 初度ニ於テ給ス             |
|       |       |   | 同    | 四 | 〇 |   |   |                     |
| 夏衣袴   | 士官候補生 | 同 | 同    | 三 | 〇 | 六 | 年 | 初度一箇ヲ給シ爾後保存期限ニ照シ交換ス |
|       |       |   | 同    | 三 | 〇 |   |   |                     |

| 品目   | 名     | 粉 | 修業年限 |   |   | 保 | 存 | 由                   |
|------|-------|---|------|---|---|---|---|---------------------|
|      |       |   | 期    | 限 | 年 |   |   |                     |
| 日履   | 士官候補生 | 同 | 二年   | 二 | 〇 | 六 | 年 | 初度一箇ヲ給シ爾後保存期限ニ照シ交換ス |
|      |       |   | 同    | 二 | 〇 |   |   |                     |
| 外袴   | 士官候補生 | 同 | 同    | 一 | 〇 | 六 | 年 | 初度ニ於テ給ス             |
|      |       |   | 同    | 一 | 〇 |   |   |                     |
| 帽入   | 士官候補生 | 同 | 同    | 一 | 〇 | 六 | 年 | 初度一箇ヲ給シ爾後保存期限ニ照シ交換ス |
|      |       |   | 同    | 一 | 〇 |   |   |                     |
| 襪紙   | 士官候補生 | 同 | 同    | 一 | 〇 | 六 | 年 | 初度ニ於テ給ス             |
|      |       |   | 同    | 一 | 〇 |   |   |                     |
| 襪布   | 士官候補生 | 同 | 同    | 三 | 〇 | 六 | 年 | 初度一箇ヲ給シ爾後保存期限ニ照シ交換ス |
|      |       |   | 同    | 三 | 〇 |   |   |                     |
| 冬袴袴下 | 士官候補生 | 同 | 同    | 四 | 〇 | 六 | 年 | 初度一箇ヲ給シ爾後保存期限ニ照シ交換ス |
|      |       |   | 同    | 四 | 〇 |   |   |                     |
| 夏袴袴下 | 士官候補生 | 同 | 同    | 六 | 〇 | 六 | 年 | 初度一箇ヲ給シ爾後保存期限ニ照シ交換ス |
|      |       |   | 同    | 六 | 〇 |   |   |                     |
| 手袋   | 士官候補生 | 同 | 同    | 四 | 〇 | 六 | 年 | 初度一箇ヲ給シ爾後保存期限ニ照シ交換ス |
|      |       |   | 同    | 四 | 〇 |   |   |                     |
| 靴    | 士官候補生 | 同 | 同    | 六 | 〇 | 六 | 年 | 初度一箇ヲ給シ爾後保存期限ニ照シ交換ス |
|      |       |   | 同    | 六 | 〇 |   |   |                     |
| 靴下   | 士官候補生 | 同 | 同    | 四 | 〇 | 六 | 年 | 初度一箇ヲ給シ爾後保存期限ニ照シ交換ス |
|      |       |   | 同    | 四 | 〇 |   |   |                     |
| 短靴   | 士官候補生 | 同 | 同    | 十 | 〇 | 六 | 年 | 初度一箇ヲ給シ爾後保存期限ニ照シ交換ス |
|      |       |   | 同    | 十 | 〇 |   |   |                     |
| 半長靴  | 士官候補生 | 同 | 同    | 三 | 〇 | 六 | 年 | 初度一箇ヲ給シ爾後保存期限ニ照シ交換ス |
|      |       |   | 同    | 三 | 〇 |   |   |                     |
| 長靴   | 士官候補生 | 同 | 同    | 三 | 〇 | 六 | 年 | 初度一箇ヲ給シ爾後保存期限ニ照シ交換ス |
|      |       |   | 同    | 三 | 〇 |   |   |                     |
| 工兵靴  | 士官候補生 | 同 | 同    | 七 | 〇 | 六 | 年 | 初度一箇ヲ給シ爾後保存期限ニ照シ交換ス |
|      |       |   | 同    | 七 | 〇 |   |   |                     |
| 工兵靴  | 士官候補生 | 同 | 同    | 十 | 〇 | 六 | 年 | 初度一箇ヲ給シ爾後保存期限ニ照シ交換ス |
|      |       |   | 同    | 十 | 〇 |   |   |                     |



明治二十年十一月二十四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別冊)

軍隊教育順次教令

第一部 軍隊一般ノ教育

總則

第一條 此教令ハ歩騎砲工輜重兵隊ニ於テ每歲履行スヘキ教育ノ大綱ヲ示スモノトス

但修業兵看護卒及諸職工ノ軍事教育並ニ擔架術修習ノ如キハ別ニ定ムル所ノ規則ニ從フヘ

第二條 教育ハ中隊ヲ以テ單位トシ兵卒ノ年次ニ隨ヒテ之ヲ教育班ニ分ツ

第三條 教育ハ每歲十二月月上旬即チ新兵入營ノ時期ニ始マリ翌年十一月中旬機動演習濟ヲ以テ其

終リヲ告グ之ヲ教育年ト云フ

第四條 教育年ヲ數期ニ分チ諸兵ノ進歩ヲ一致セシム(附表第一ヨリ第六ニ至ル)

第五條 徵兵入營セシヨリ第一期末ノ檢閲終ルマテヲ教育上ニ於テ之ヲ新兵ト稱ス

第六條 初年第一期及ヒ第二期中ハ專ラ教育ヲ主トスルヲ以テ諸勤務ヲ免除ス

但舍内及ヒ食事當番等ハ之ヲ勤メシムルヲ得然レトモ日課ノ演習ニハ必ス出場セシムヘシ

第七條 第一期末新兵ノ檢閲ニ於テ結果不良ノ者ハ第二期ニ移ルト雖トモ別ニ日課ノ時間ヲ增加

シテ第一期ノ科業ヲ復習セシムヘシ

第八條 初年兵ノ内ニ於テ喇叭卒ニ採用スヘキモノハ每中隊ニ所要ノ人員ヲ撰定シ教育時間ノ餘

暇ヲ以テ喇叭演習ヲ爲サシメ第二期ヲ終レハ喇叭專業ニ從事セシム

第九條 教練トハ操典ニ基キ施行スル諸操練ヲ云フ而シテ生地ニ於ケル戰團演習ヲ含フ

第十條 野外勤務トハ野外演習軌典ニ基キ施行スル諸演習ニシテ駐軍行軍ノ勤務ヲ云フ

第十一條 野外演習トハ操典軌典ニ基キ施行スル戰團駐軍行軍ノ諸演習ヲ云フ

第十二條 機動演習トハ諸兵連合ノ枝隊及大部隊ノ演習ヲ云フ

教育上ノ注意

第十三條 徵兵初メテ入營スルトキハ營テ規正ノ體育ヲ受ケタル者ニアラヌ又軍隊ノ動作ニ慣レ

ス自然畏縮倦厭ノ念ヲ生シ易キカ故之ヲ教育スル始メハ寬裕ニシテ漸次正確ニ導カントヲ要

ス

第十四條 各箇教練ハ兵卒ノ姿勢體格ヲ完良ニシテ歩度ヲ調整シ及ヒ技藝ヲ精確ニスルモノニシテ

軍紀ヲ嚴肅ナラシムルノ基礎ナルヲ以テ最モ嚴正確實ニ施行スヘキモノトス

第十五條 體操輕乘及ヒ學科ノ教育ハ其優劣ニ應シ二三級ニ區分スヘシ

第十六條 附表ニ掲グル科目ハ其期內ニ於テ主トシテ施行スル教育ニシテ中隊大隊等ノ教練ハ各

期共時々之ヲ行ヒ就中各箇教練距離測量調馬索作業輕乘及ヒ體操ハ終始復習セシムルヲ緊要

トス

第十七條 行軍中ノ風紀步調裝方及ヒ勞働ニ慣熟セシムル爲メ少クモ毎月二日續ケテ(新兵共)

行軍ヲ行ハシムヘシ其法最初ハ小里程ニシテ漸次之ヲ增加スヘシ

但騎兵ニアリテハ初年兵ハ第一期中行軍ヲ行フコトナシ

第十八條 新兵ニハ第一期及第二期中適宜ノ時間ニ於テ喇叭ノ諸號音ヲ聽習セシメ及ヒ散兵並ニ

野外勤務ニ於ケル所用ノ記號(步兵騎兵)ヲ教授スヘシ

第十九條 新兵ノ教育ヲシテ一齊ナラシムル爲メ毎年十一月月中旬ヨリ同月終リマテ聯(大)隊中新

兵掛教官及ヒ助教ヲ集メテ教習スヘシ之カ爲メ大尉一名ヲシテ此教習ヲ掌ラシメ一名ノ大隊長

之ヲ監視ス

檢閱

- 第二十條 凡テ檢閱ヲ行フ上官ハ其意見ヲ以テ科業ヲ命シ之ヲ檢閱スルモノトス
- 第二十一條 歩兵各期檢閱ノ細目左ノ如シ
  - 一 第一期聯隊長行フ所ノ新兵ノ檢閱ハ術科ハ各箇教練、學科ハ諸勤務ニ關スル事款ヲ查閱スヘキモノトス
  - 二 第二期聯隊長行フ所ノ中隊ノ檢閱ハ術科ハ步兵操典第三編第一章、學科ハ、內務及衛兵勤務ニシテ各中隊ノ教育確實齊一ナルヤ否ヲ查閱スヘキモノトス
  - 三 第三期旅團長行フ所ノ大隊ノ教練檢閱ハ步兵操典第四編第一部トス
  - 四 第五期ノ始メニ於テ大隊長ハ各中隊ノ體操並ニ野外勤務ノ學科第二第三年兵ニアリテハ射擊ノ學科ヲモ查閱スヘキモノトス
- 第二十二條 騎兵各期檢閱ノ細目左ノ如シ
  - 一 第一期聯隊長行フ所ノ新兵ノ檢閱ハ術科ハ各箇教練、學科ハ諸勤務ニ關スル事款ヲ查閱スヘキモノトス
  - 二 第二期聯隊長行フ所ノ中隊ノ檢閱ハ術科ハ中隊教練及馬術、學科ハ衛兵勤務ニシテ第二第三年兵ニアリテハ馬學ヲ加ヘ各中隊ノ教育確實齊一ナルヤ否ヲ查閱スヘキモノトス
  - 三 第三期ノ終リニ於テ聯隊長ハ各中隊ノ體操並ニ野外勤務ノ學科ヲ查閱スヘキモノトス
- 第二十三條 砲兵各期檢閱ノ細目左ノ如シ
  - 一 第一期聯隊長行フ所ノ新兵ノ檢閱ハ術科ハ各箇教練、學科ハ諸勤務ニ關スル事款ヲ查閱スヘキモノトス

- 二 第二期聯隊長行フ所ノ中隊ノ檢閱ハ術科ハ擊濶中隊教練乘馬步兵教練擊濶取法擊濶小隊教練、學科ハ器具名稱、裝法、手入法、火砲彈藥火具ノ種類並ニ其効力、衛兵勤務ニシテ各中隊ノ教育確實齊一ナルヤ否ヲ查閱スヘキモノトス
- 三 第三期ノ終ニ於テ大隊長ハ各中隊ノ體操並ニ堡壘ノ構造法其名稱、射擊、野外勤務ノ學科第二第三年兵ニアリテハ馬學ヲモ查閱スヘキモノトス
- 第二十四條 工兵各期檢閱ノ細目左ノ如シ
  - 一 第一期大隊長行フ所ノ新兵ノ檢閱ハ術科ハ各箇教練、學科ハ諸勤務ニ關スル事款ヲ查閱スヘキモノトス
  - 二 第二期大隊長行フ所ノ中隊ノ檢閱ハ術科ハ步兵操典第三編第二章、學科ハ衛兵勤務、野堡學ニシテ第二第三年兵ニアリテハ對壕學ヲ加ヘ各中隊ノ教育確實齊一ナルヤ否ヲ查閱スヘキモノトス
  - 三 第四期ノ終ニ於テ大隊長ノ檢閱スル學科ハ架橋學、軍路學ニシテ第二第三年兵ニアリテハ坑道學、電信學ヲモ查閱スヘキモノトス
- 第二十五條 輜重兵各期檢閱ノ細目左ノ如シ
  - 一 第一期大隊長行フ所ノ新兵ノ檢閱ハ術科ハ各箇教練、學科ハ諸勤務ニ關スル事款ヲ查閱スヘキモノトス
  - 二 第二期大隊長行フ所ノ中隊ノ檢閱ハ術科ハ駄馬小隊、乘馬小隊、捆包作業、學科ハ衛兵勤務ニシテ第二第三年兵ニアリテハ野外勤務ノ學科ヲモ查閱スヘキモノトス
  - 三 第三期ノ終ニ於テ大隊長ハ中隊ノ體操並ニ野外勤務ノ學科及馬學ヲ查閱スヘキモノトス
  - 四 第三期司令官行フ所ノ教練檢閱ハ駄馬小隊トス



| 期二第                    | 期三第                    | 期四第                    | 期五第                    | 期六第                    |
|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| 造旬中月                   | 造旬下月五                  | 造旬下月八                  | 造旬下月九                  | 造旬下月十                  |
| 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 |
| 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 |
| 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 |
| 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 |

期七第  
初旬中月  
續々大々野作業

期一第  
中隊與第一第二三章以上ノ演習ニ在テハ新兵兵相合シテ行フモノトス  
第六期聯隊教練ノ五日間ハ其演習地ニ往復スル行軍日ヲ除ク  
表中第二期小隊及半隊教練第三期中隊教練第四期大隊教練ハ主トシテ操典第二部第三段トス  
歩兵第五聯隊及第十六聯隊ニテハ第一期及第二期ヲ合シテ教育シ第二期ノ終ニ於テ檢閲ヲ行フ

騎兵一箇年間教育順次概表

| 期一第                    | 期二第                    | 期三第                    | 期四第                    | 期五第                    | 期六第                    | 期七第                    |
|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| 造旬下月三                  | 造旬下月四                  | 造旬下月五                  | 造旬下月六                  | 造旬下月七                  | 造旬下月八                  | 造旬下月九                  |
| 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 |
| 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 |
| 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 |
| 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 | 射野<br>第一期ノ復習<br>第一期ノ復習 |



| 學 術           |  | 科  |  | 學  |   |
|---------------|--|--|--|--|---|
| 十             | 九  | 八  | 七  | 六  | 五   |
| 期 五 第         | 期 四 第  | 期 三 第  | 期 二 第  | 期 一 第  | 考 備   |
| 迄旬中月一十        | 迄旬下月十  | 迄旬下月八  | 迄旬下月六  | 迄旬下月三  | 一 二年及三年兵ノ復習ハ馬匹及器械ノ都合ヲ計リ可成初度ノ授業ヲ妨ケサル様注意シ專ラ必要ノ件ヲ預習スヘシ<br>二 騎馬小隊中隊及聯隊教練ハ初年兵ニ在テハ砲手ノ科業ノミヲ授ケ二年兵ニ在テハ取寄ノ科業ヲ授ケルモノトス<br>三 射撃ハ八月ニ於テモ行フコトヲ得 |
| 機 動 演 習       | 射 野 野 野 野 野 野<br>土 外 外 外 外 外<br>工 作 作 作 作 作<br>業 業 業 業 業 | 射 野 野 野 野 野 野<br>土 外 外 外 外 外<br>工 作 作 作 作 作<br>業 業 業 業 業 | 射 野 野 野 野 野 野<br>土 外 外 外 外 外<br>工 作 作 作 作 作<br>業 業 業 業 業 | 射 野 野 野 野 野 野<br>土 外 外 外 外 外<br>工 作 作 作 作 作<br>業 業 業 業 業 | 機 動 演 習   |
| 山砲兵一箇年間教育順次概表 |  |  |  |  |   |

| 學 術  |  | 科  |  | 學  |   |
|--|--|--|--|--|---|
| 十  | 九  | 八  | 七  | 六  | 五   |
| 期 四 第  | 期 三 第  | 期 二 第  | 期 一 第  | 期 一 第  | 考 備   |
| 迄旬下月十  | 迄旬下月八  | 迄旬下月六  | 迄旬下月三  | 迄旬上月二  | 一 二年及三年兵ノ復習ハ馬匹及器械ノ都合ヲ計リ可成初度ノ授業ヲ妨ケサル様注意シ專ラ必要ノ件ヲ預習スヘシ<br>二 騎馬小隊中隊及聯隊教練ハ初年兵ニ在テハ砲手ノ科業ノミヲ授ケ二年兵ニ在テハ取寄ノ科業ヲ授ケルモノトス<br>三 射撃ハ八月ニ於テモ行フコトヲ得 |
| 射 野 野 野 野 野 野<br>土 外 外 外 外 外<br>工 作 作 作 作 作<br>業 業 業 業 業 | 射 野 野 野 野 野 野<br>土 外 外 外 外 外<br>工 作 作 作 作 作<br>業 業 業 業 業 | 射 野 野 野 野 野 野<br>土 外 外 外 外 外<br>工 作 作 作 作 作<br>業 業 業 業 業 | 射 野 野 野 野 野 野<br>土 外 外 外 外 外<br>工 作 作 作 作 作<br>業 業 業 業 業 | 射 野 野 野 野 野 野<br>土 外 外 外 外 外<br>工 作 作 作 作 作<br>業 業 業 業 業 | 機 動 演 習   |
| 山砲兵一箇年間教育順次概表  |  |  |  |  |   |



| 期五第 | 機 助 演 習  |
|-----|--|
| 考 備 | 一 二年及三年兵ノ復習ハ島西及濠洲ノ都合ヲ計リ可成初度ノ授業ヲ妨ケサル様注意シ事ヲ必要ノ件ヲ演習スヘシ<br>二 射撃ハ八月ニ於テモ行フコトヲ得 |

第五表

工兵一箇年間教育順次概表

| 第 六      | 期 一 第    | 學 術             |                 | 期 二 第           | 期 三 第           | 期 四 第           | 期 五 第           |
|----------|----------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
|          |          | 初 年             | 二 年             |                 |                 |                 |                 |
| 大隊長新兵ノ檢閱 | 除土及積土    | 射 擊 初 歩         | 小 隊 及 半 隊 教 練   | 生 兵 教 練         | 柔 軟 體 操         | 大隊長中隊ノ教練及學科ノ檢閱  | 機 助 演 習         |
|          |          |                 |                 |                 |                 |                 |                 |
| 第一期ノ復習   | 對 壕 術    | 對 壕 術           | 同 上             | 同 上             | 同 上             | 同 上             | 同 上             |
| 第一期ノ復習   | 大隊長新兵ノ檢閱 | 射 擊 及 積 土 之 檢 閱 | 射 擊 及 積 土 之 檢 閱 | 射 擊 及 積 土 之 檢 閱 | 射 擊 及 積 土 之 檢 閱 | 射 擊 及 積 土 之 檢 閱 | 射 擊 及 積 土 之 檢 閱 |
| 第一期ノ復習   | 大隊長新兵ノ檢閱 | 射 擊 及 積 土 之 檢 閱 | 射 擊 及 積 土 之 檢 閱 | 射 擊 及 積 土 之 檢 閱 | 射 擊 及 積 土 之 檢 閱 | 射 擊 及 積 土 之 檢 閱 | 射 擊 及 積 土 之 檢 閱 |

| 第 六      | 期 一 第    | 學 術             |                 | 期 二 第           | 期 三 第           | 期 四 第           | 期 五 第           |
|----------|----------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
|          |          | 初 年             | 二 年             |                 |                 |                 |                 |
| 大隊長新兵ノ檢閱 | 除土及積土    | 射 擊 初 歩         | 小 隊 及 半 隊 教 練   | 生 兵 教 練         | 柔 軟 體 操         | 大隊長中隊ノ教練及學科ノ檢閱  | 機 助 演 習         |
|          |          |                 |                 |                 |                 |                 |                 |
| 第一期ノ復習   | 對 壕 術    | 對 壕 術           | 同 上             | 同 上             | 同 上             | 同 上             | 同 上             |
| 第一期ノ復習   | 大隊長新兵ノ檢閱 | 射 擊 及 積 土 之 檢 閱 | 射 擊 及 積 土 之 檢 閱 | 射 擊 及 積 土 之 檢 閱 | 射 擊 及 積 土 之 檢 閱 | 射 擊 及 積 土 之 檢 閱 | 射 擊 及 積 土 之 檢 閱 |
| 第一期ノ復習   | 大隊長新兵ノ檢閱 | 射 擊 及 積 土 之 檢 閱 | 射 擊 及 積 土 之 檢 閱 | 射 擊 及 積 土 之 檢 閱 | 射 擊 及 積 土 之 檢 閱 | 射 擊 及 積 土 之 檢 閱 | 射 擊 及 積 土 之 檢 閱 |

輜重兵一箇年教育順次概表

| 期     | 第 一 期   |             | 第 二 期       |         |
|-------|---------|-------------|-------------|---------|
|       | 逕旬上月二十  | 逕旬下月三       | 逕旬中月六       | 逕旬下月ハ   |
| 第 一 年 | 射 擊 初 步 | 騎 馬 生 兵 教 練 | 騎 馬 生 兵 教 練 | 射 擊 初 步 |
| 第 二 年 | 射 擊 初 步 | 騎 馬 生 兵 教 練 | 騎 馬 生 兵 教 練 | 射 擊 初 步 |
| 第 三 年 | 射 擊 初 步 | 騎 馬 生 兵 教 練 | 騎 馬 生 兵 教 練 | 射 擊 初 步 |
| 第 一 年 | 射 擊 初 步 | 騎 馬 生 兵 教 練 | 騎 馬 生 兵 教 練 | 射 擊 初 步 |
| 第 二 年 | 射 擊 初 步 | 騎 馬 生 兵 教 練 | 騎 馬 生 兵 教 練 | 射 擊 初 步 |
| 第 三 年 | 射 擊 初 步 | 騎 馬 生 兵 教 練 | 騎 馬 生 兵 教 練 | 射 擊 初 步 |

| 期     | 第 一 期   |             | 第 二 期       |         |
|-------|---------|-------------|-------------|---------|
|       | 逕旬上月二十  | 逕旬下月三       | 逕旬中月六       | 逕旬下月ハ   |
| 第 一 年 | 射 擊 初 步 | 騎 馬 生 兵 教 練 | 騎 馬 生 兵 教 練 | 射 擊 初 步 |
| 第 二 年 | 射 擊 初 步 | 騎 馬 生 兵 教 練 | 騎 馬 生 兵 教 練 | 射 擊 初 步 |
| 第 三 年 | 射 擊 初 步 | 騎 馬 生 兵 教 練 | 騎 馬 生 兵 教 練 | 射 擊 初 步 |
| 第 一 年 | 射 擊 初 步 | 騎 馬 生 兵 教 練 | 騎 馬 生 兵 教 練 | 射 擊 初 步 |
| 第 二 年 | 射 擊 初 步 | 騎 馬 生 兵 教 練 | 騎 馬 生 兵 教 練 | 射 擊 初 步 |
| 第 三 年 | 射 擊 初 步 | 騎 馬 生 兵 教 練 | 騎 馬 生 兵 教 練 | 射 擊 初 步 |

|    |                       |    |             |             |
|----|-----------------------|----|-------------|-------------|
| 期  | 一                     | 若月 | 秋馬生兵教練      | 武官ノ階級及制服    |
|    | 二                     | ハ  | 徒歩小隊教練      | 陸軍禮式        |
| 期  | 三                     | ニ  | 秋馬小隊教練      | 陸軍禮式        |
|    | 四                     | ハ  | 棚包作業        | 陸軍刑法及懲罰令ノ摘要 |
| 期  | 五                     | ニ  | 大隊長教練及檢閱ノ檢閱 | 馬具及裝束ノ摘要    |
|    | 六                     | ハ  | 各種物品ノ檢閱     | 馬具ノ名稱手入及制管法 |
| 期  | 七                     | ニ  | 野外演習        | 大隊長ノ檢閱      |
|    | 八                     | ハ  | 各種物品ノ檢閱     | 各種物品及裝束法ノ摘要 |
| 期  | 九                     | ニ  | 野外演習        | 衛兵ノ勤務ノ摘要    |
|    | 十                     | ハ  | 野外演習        | 野外勤務ノ摘要     |
| 備考 | 第一期末大隊長教練ノ檢閱ハ秋馬小隊教練トス |    |             |             |

○陸軍部百三十九號

陸軍報告例別冊ノ通改正係條來明治二十一年一月一日ヨリ施行致ス可シ (別冊略ス)  
但當省事務都合有之ニ付年報ニ限リ當二十年分(會計年度ニ據リ調査スルモノハ昨十九年度分)  
ヨリ取調差出ス可シ

明治二十年十一月二十五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍部百四十號

自今輜重兵操法ノ義徒歩ハ歩兵操典ニ乘馬ハ騎兵操典ニ準據施行スヘシ

明治二十年十二月二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍部百四十一號

陸軍給與概則第七章第八條中但以下左ノ通改正ス

明治二十年十二月七日

陸軍大臣伯爵大山 巖

但下士官職ヲ失フ者ハ卒ノ額ヲ給スヘシ

○陸軍部百四十二號

教導團要塞砲兵生徒被服給與法別表ノ通定ス

明治二十年十二月九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別表)

教導團要塞砲兵生徒被服給與表

| 品名    | 期限 | 修業 |    | 期限 | 事項                  |
|-------|----|----|----|----|---------------------|
|       |    | 給與 | 檢數 |    |                     |
| 第一種 帽 | 製  | 一  | 〇  | 九年 | 初度一箇ヲ給シ爾後保存期限ニ照シ交換ス |
| 前     | 立  | 一  | 〇  | 九年 |                     |
| 第二種 帽 | 同  | 二  | 〇  |    |                     |
| 被衣    | 同  | 一  | 〇  |    | 初度ニ於テ給ス             |
| 小倉衣   | 同  | 二  | 〇  |    |                     |

明治二十年十二月 陸軍省陸軍部百四十號 陸軍部百四十一號 陸軍部百四十二號



○陸軍部第四十五號

教導團輜重兵科生徒被服ノ義ハ砲兵科同様ニシテ其徽章ハ該兵科ノ定色ヲ以テ付着スヘシ  
但本年十二月入團生徒ヨリ着用セシム

明治二十年十二月十四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍部第四十六號

戰時衛生材料具製式並内容品區分表別冊ノ通定ム (別冊略ス)

明治二十年十二月十五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍部第四十七號

歩兵聯隊附大尉へ自今官馬ヲ支給ス

明治二十年十二月十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍部第四十八號

陸軍幼年學校生徒舎長ノ被服ニ付着セシムヘキ徽章左圖ノ通定ム

明治二十年十二月十九日

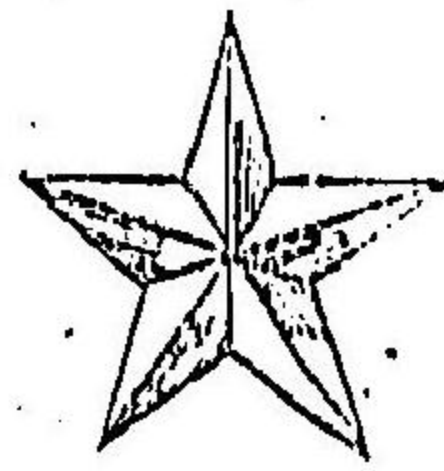
陸軍大臣伯爵大山 巖

幼年學校生徒舎長徽章ノ圖

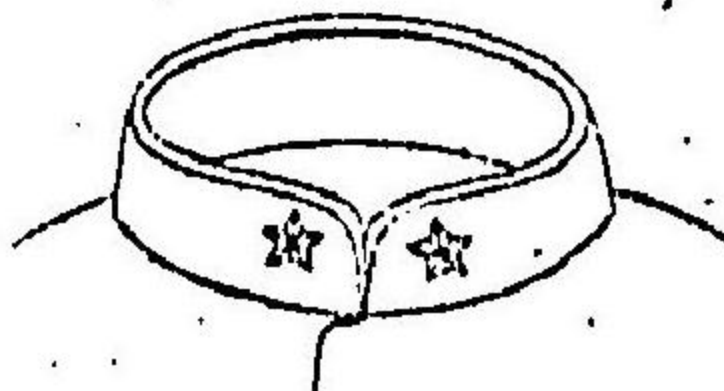
同附著ノ圖

品質 眞鍮鍍金 中心ヨリ尖取ニ  
至ル三分五厘

表面



裏面



○陸軍部第四十九號

各軍管里程表中新發田ヨリ東京等へノ里程別紙ノ通改正ス (別紙略ス)

但明治二十一年一月一日ヨリ施行スヘシ

明治二十年十二月二十二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍部第五十號

工兵隊電信術教育假手續別冊ノ通定ム

明治二十年十二月二十二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別冊)

工兵隊電信術教育假手續

總則

第一條 電信術ノ教育ヲ分テ二トス

其一 通信手教育

其二 建築手教育

第二條 電信術ヲ教授スルニハ逐次先學者ノ中該術ニ長スル者ヲ撰ビ士官ヲ教官ニ下士ヲ助教ニ充ツヘキモノトス但現今之ニ充ツヘキ者ナキヲ以テ陸軍技手ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 通信術若シハ建築術修業ヲ命スルニハ士官ニ在テハ大隊長自カラ之ヲ撰ビ曹長以下ニ在テハ中隊長之ヲ撰ビ其人各ヲ大隊長ニ進達スヘキモノトス但曹長以下ハ一年以上隊務ニ服セシ者ニ限ル

其一 通信手ノ教育

第四條 通信手ノ教育ハ通信術ニ係ル學科及ヒ術科ヲ教ユルモノニシテ其人員ハ各工兵大隊ニ於

テ野戰電信一隊ニ要スル技手ノ員數ヲ目的トス乃チ概テ左ノ如シ

- 一 中少尉 二名
- 二 曹長 一二等軍曹 第一第二年 四名
- 三 上等兵 第一第二年 三名
- 第三年以後 四名
- 第三年以後 二名

第五條 修業期限ハ士官ニ在テハ之ヲ定メス故ニ熟練ノ後ハ更ニ他ノ士官ト交換スヘシ又曹長以下ニ在テハ六箇月トシ毎年七月上旬ニ始メ十二月下旬ニ終ルモノニシテ期滿ツレハ試験ヲ行ヒ及第スル者ニ電信通信術卒業證書ヲ下附スヘシ又及第セサル者ハ更ニ二箇月以内ノ猶豫ヲ與ヘ再試験ヲ行フヘシ

第六條 下士上等兵修業中ハ週番勤務並ニ野外演習ノ外ハ諸勤務ヲ免除スルコトヲ得ヘシ又卒業ノ際優等ノ者若干名ヲシテ教官及ヒ助教ヲシムルトキモ之ニ準ス

第七條 教場ハ之ヲ二箇ニ分ツ共一士官教場其二下士上等兵教場

第八條 士官教場ニハ假器械二箇通信器二箇並ニ之ニ屬スル電池其外諸器械ヲ備フ

第九條 下士上等兵教場ニハ假器械八箇通信器四箇並ニ之ニ屬スル電池其外諸器械ヲ備フ

第十條 教場ハ修業ヲ命セラレタル士官ノ内上級故參ノ者一名ヲシテ一般ノ取締ヲ爲サシムヘシ又下士ノ内二名ヲシテ諸物品ノ出納保存其他消耗品授受ノ雜務ニ當ラシム

第十一條 教場備附ノ物品ハ教官及ヒ助教ノ許可ヲ得テ之ニ觸ルハ得ズ

第十二條 教場備附ノ物品ハ場外ニ出スヲ得ズ然レトモ假器械ハ自習ノ爲メ教官ノ許可ヲ得ル内便宜ノ室ニ於テ用ユルヲ得ヘシ

第十三條 授業時間ハ大隊長適宜ニ之ヲ定ムヘシト雖トモ定例休日ノ外學術進歩ノ景況並ニ隊中他勤務ノ繁閑ニ因リ概テ二時乃至四時トシ其他ハ自修時トス

第十四條 建築手ノ教育  
共ニ 建築手ノ教育

於テ野戰電信一隊ニ要スル建築手ノ員數ヲ目的トス乃チ概テ左ノ如シ

- 一 曹長 一二等軍曹 二名
- 二 上等兵 二名
- 三 一二等卒 十六名

第十五條 修業期限ハ四箇月トシ毎年五月上旬ニ始メ八月下旬ニ終ル而シテ期滿ツレハ野外演習ヲ行ヒ然ル後電信建築術卒業證書ヲ下附スヘシ

第十六條 授業時間ハ大隊長適宜ニ之ヲ定ムヘシト雖トモ定例休日ノ外學術進歩ノ景況並ニ隊中勤務及ヒ演習ノ繁閑ニ因リ概テ一時乃至三時トス

○陸軍第五十一號  
軍用電信通信術假教則別冊ノ通定ム  
明治二十年十二月二十二日  
陸軍大臣伯爵大山 巖

(別冊)  
軍用電信通信術假教則  
第一條 此假教則ハ軍用電信即チ野戰及ヒ兵站電信隊ノ通信手ヲ養成スル爲メ其技術ヲ教授スル方法ヲ示スモノナリ

第二條 軍用電信ニ於テハ歐文ノ送受ヲ爲サス然レトモ記號若クハ暗號ノ爲メ羅馬字號ヲ學ハシム

明治三十年十二月 陸軍省陸軍第五十一號

第三條 技術科目左ノ如シ

第一教 電信符號暗記

第一 片假名字號

第二 羅馬字號

第三 數字號

第四 記號

第五 略記號

第六 時辰號

第二教 假器械ニ就キ修技法

第三教 木機械ニ就キ符號送受法

第四教 送信及ヒ受信法

第一 送信順序

第二 受信順序

第三 音信送受速度

第四 音信送受實施

第四條 前條ノ科目ハ凡ソ六箇月間ニ卒業スル如ク教授スヘシ

第五條 第三條ノ科目ハ始メヨリ順序ヲ正シテ教ユルニアラス故ニ授業ノ際此科目中ニ就キ適宜

取捨シテ授クヘシ例ヘハ第一教ノ第一即チ片假名字號ヲ暗記スレハ同教第二ニ移ルコトナク直

ニ第二教即チ假器械ニ就キ其字號現出ノ方法ヲ教ユルカ如シ

第六條 假器械ニ就キ修業スルニ際シ教官ハ一回若クハ二回木機械ヲ裝置シ其字號ヲ現出シ修業

者ニ示スニ假器械ニ就キ技術ヲ修ムルノ目的ハ茲ニアル所以ヲ以テスヘシ

第七條 第三條ニ掲グル技術ノ細目ハ別冊ニ示ス (別冊略ス)

○宮内省達第七號

皇居御造營事務局ヲ廢ス

右相違ス

明治二十年十二月二十四日

宮内大臣子爵土方久元

陸軍砲兵射的學校定員表別紙ノ通定

明治二十年十二月二十五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(△)共

| 部  | 官  | 部   |   | 木   |   | 教   |   | 考   |
|----|----|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
|    |    | 大   | 中 | 部   | 部 | 導   | 備 |     |
| 大  | 中  | 大   | 中 | 部   | 部 | 導   | 備 | (一) |
| 少  | 少  | 大   | 中 | 部   | 部 | 導   | 備 | (二) |
| 尉  | 尉  | 大   | 中 | 部   | 部 | 導   | 備 | (三) |
| 中尉 | 中尉 | 大   | 中 | 部   | 部 | 導   | 備 |     |
| 少尉 | 少尉 | 大   | 中 | 部   | 部 | 導   | 備 |     |
| 准尉 | 准尉 | 大   | 中 | 部   | 部 | 導   | 備 |     |
| 士官 | 士官 | 大   | 中 | 部   | 部 | 導   | 備 |     |
| 長  | 長  | 大   | 中 | 部   | 部 | 導   | 備 |     |
| 並  | 並  | 大   | 中 | 部   | 部 | 導   | 備 |     |
| 一  | 一  | 大   | 中 | 部   | 部 | 導   | 備 |     |
| 二  | 二  | 大   | 中 | 部   | 部 | 導   | 備 |     |
| 三  | 三  | 大   | 中 | 部   | 部 | 導   | 備 |     |
| 四  | 四  | 大   | 中 | 部   | 部 | 導   | 備 |     |
| 卒  | 卒  | 大   | 中 | 部   | 部 | 導   | 備 |     |
| 職  | 職  | 大   | 中 | 部   | 部 | 導   | 備 |     |
| 工  | 工  | 大   | 中 | 部   | 部 | 導   | 備 |     |
| 馬  | 馬  | 大   | 中 | 部   | 部 | 導   | 備 |     |
| 四  | 四  | 大   | 中 | 部   | 部 | 導   | 備 |     |
| 總計 |    | 百十三 |   | 五十八 |   | 五十八 |   |     |

明治二十一年士官下士學術檢査規格別冊ノ通定

明治二十年十二月二十八日

陸軍大臣伯爵大山 巖





|             |        |       |                  |   |       |
|-------------|--------|-------|------------------|---|-------|
| 騎兵          | 騎兵服衛   | 實地對策  | 騎兵操典(馬學(馬學約衛生ノ部) | 應 | 開立ニ至ル |
| 馬學(馬學約)     | 應      | 開     | 野外演習軌典(騎兵)       | 應 | 開     |
| 砲兵          | 砲兵服衛   | 實地對策  | 砲兵操典             | 應 | 開立ニ至ル |
| 砲兵學         | 應      | 開     | 砲兵射擊教範           | 應 | 開     |
| 工兵          | 臨時築城   | 實地對策  | 步兵操典             | 應 | 開     |
| 工兵學(永久築城教範) | 應      | 開     | 工兵操典(橋船ノ部)       | 應 | 開     |
| 輜重          | 輜重輸送勤務 | 圖上對策  | 輜重兵操典            | 應 | 開     |
| 馬學(馬學約)     | 應      | 開     | 馬學(馬學約衛生ノ部)      | 應 | 開     |
| 監督補         | 監督補    | 應     | 馬學(馬學約)          | 應 | 開立ニ至ル |
| 臨時給養法       | 臨時給養法  | 圖上對策  | 應                | 開 | 路上演習  |
| 陸軍編制學       | 陸軍編制學  | 應     | 應                | 開 | 應     |
| 算學          | 算學     | 幾何ニ至ル | 算學               | 應 | 開立ニ至ル |
| 二三等軍吏       | 二三等軍吏  | 應     | 應                | 開 | 應     |
| 陸軍經理學       | 陸軍經理學  | 應     | 給與規則             | 應 | 開     |

|       |            |        |
|-------|------------|--------|
| 部     | 部          | 部      |
| 簿記學   | 二三等軍醫及ニ補劑官 | 二三等看護長 |
| 算學    | 幾何ニ至ル      | 算學     |
| 官省簿記  | 簿記學        | 各隊簿記   |
| 開立ニ至ル | 開立ニ至ル      | 開立ニ至ル  |
| 外科    | 外科         | 外科     |
| 內外科   | 內外科        | 內外科    |
| 衛生學   | 衛生學        | 衛生學    |
| 對策    | 對策         | 對策     |
| 傳染病學  | 傳染病學       | 傳染病學   |
| 化育學   | 化育學        | 化育學    |
| 應     | 應          | 應      |
| 試     | 試          | 試      |
| 術     | 術          | 術      |
| 外科術   | 外科術        | 外科術    |
| 衛生學   | 衛生學        | 衛生學    |
| 對策    | 對策         | 對策     |
| 傳染病學  | 傳染病學       | 傳染病學   |
| 化育學   | 化育學        | 化育學    |
| 應     | 應          | 應      |
| 試     | 試          | 試      |
| 術     | 術          | 術      |

陸軍省令第五十四號

監督部軍醫部上長官士官ニシテ大學校教官ニ補職スル者俸給ノ儀ハ監督ニアリテハ陸軍給與概則第二表ノ騎兵科ニ軍醫ニアリテハ砲兵科ニ準シ支給スヘシ

但明治二十年十月ヨリ施行ノ儀ト心得ヘシ

陸軍大臣伯爵大山 熾

陸軍省令第五十五號

陸軍看護卒教育規則別冊ノ通り定ム

但明治十九年省令乙第四十一號ヲ廢止ス

陸軍大臣伯爵大山 熾

別冊

陸軍看護卒教育規則

- 一 陸軍看護卒ノ教育ハ此規則ニ據ル共入隊ノ手續ハ新兵入隊定則ニ異ルコトナレ
  - 二 陸軍看護卒ハ近衛鎮臺ノ歩兵聯隊ニ編入シ第三項ノ教科卒業ノ後テ各部隊ニ配當スルモノトス
  - 三 陸軍看護卒ニハ左ノ教科ヲ教授シ六箇月間ニ卒業セシム
    - 第一教科 歩兵教育順次概表初年兵第一期 衛科
    - 第二教科 人部構造ノ概略 醫學及看護學ノ概略 衛生學ノ概略 消毒法 止血法 傷者ノ搬送法 救急法
    - 第三教科 三ノ編用法 看護用具及看護用具ノ使用 看護術 看護部用法 罰則法 救急法
  - 四 第一教科ハ歩兵隊第二第三教科ハ病院ハ重病室ニ在テニ於テ之ヲ教授ス
  - 五 第二第三教科ニ在テハ醫官看護長之ヲ教授ス而シテ病院長分務ニ在テハ高ハ共教育上ヲ監視スルモノトス
  - 六 第一教科ノ授業卒レハ聯隊長ハ之ヲ病院長ニ引渡スヘシ
  - 七 第二第三教科ノ講習ヲ卒レハ病院長其習熟ヲ檢閲シ本人手帖卒業列ニ看護學卒業ノコトヲ記入シ後テ所屬ノ部隊ニ近衛所屬ノ人員ニ引渡スヘシ而シテ卒業名簿並ニ配附表ヲ調製シ之ヲ所屬ノ軍醫部ニ報告スヘシ
  - 八 但近衛軍醫長ハ本項ニ據リ卒業者ヲ受取ルトキハ直ニ衛下各隊ニ引渡スヘシ
- 病院 重病室ニ在テハ第二教科授業ノ初メニ於テ修業者ニ左ノ品目ヲ官給ス而シテ此品目ハ現役滿期ノ時ト雖トモ各自ニ携帶セシムルニ及ハス
- 一 看護卒教科書 一册

九 對馬警備隊看護卒モ亦此規則ニ準據シ教科ハ共要領ヲ教授シ四箇月ヲ以テ卒業セシム

(參照)明治十九年陸軍省令乙第四十二號

陸軍省令採取手續規則ノ總定(別冊略ス)

○陸軍省令第五十六號

各軍管里程表中對馬國嚴原ニ至ルノ經路左ノ通改正ス

明治二十一年一月一日ヨリ施行スヘシ

明治二十二年十二月二十八日

陸軍大臣伯爵大山 巖

一 甲線路ハ從前肥前國長崎ヨリ對馬國嚴原ニ直航セシ處改メテ同所ヨリ福江ヲ經テ渡航スヘキヲ定路トス因テ從前ノ海里ニ四十五海里ヲ增加ス

一 乙線路ハ從前肥前國唐津及ヒ呼子ヲ經テ對馬國嚴原ニ至リシヲ改メテ長崎及福江ヲ經テ定路トス因テ各箇所ヨリ長崎砲臺ニ至ル里程ニ增加スルコト七十里九町十六間三尺ナリ

○陸軍省令第五十七號

現役將校下士中毎年五月一日ヨリ翌年四月三十日迄ニ準備役並ニ後備軍編員ニ轉役相替者ノ官職姓名及轉役ノ月日等各所管ニ於テ豫メ取調來二十一年ヨリ毎年一月一日迄ニ本人原籍地方領事ノ通報スヘシ



○陸軍第六十三號

騎兵一大隊平時編制表別表ノ通被定

明治二十年十二月三十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

| 官 階         | 大 隊 本 部 |         | 中 隊   |         | 大 隊 三 中 隊 附 |         |
|-------------|---------|---------|-------|---------|-------------|---------|
|             | 大 隊 長   | 副 大 隊 長 | 中 隊 長 | 副 中 隊 長 | 大 隊 長       | 副 大 隊 長 |
| 大 尉         | 一       | 二       | 二     | 一       | 一           | 一       |
| 中 尉         | 一       | 二       | 二     | 二       | 一           | 一       |
| 少 尉         | 一       | 二       | 二     | 二       | 一           | 一       |
| 曹 長         | 一       | 二       | 二     | 二       | 一           | 一       |
| 一 等 軍 曹     | 一       | 二       | 二     | 二       | 一           | 一       |
| 二 等 軍 曹     | 一       | 二       | 二     | 二       | 一           | 一       |
| 上 等 兵       | 一       | 二       | 二     | 二       | 一           | 一       |
| 一 二 等 卒     | 一       | 二       | 二     | 二       | 一           | 一       |
| 計           | 九       | 二二      | 一五六   | 一四一     | 一四九         | 四七七     |
| 三 三 等 軍 吏   | 一       | 一       | 一     | 一       | 一           | 一       |
| 一 二 三 等 軍 部 | 一       | 一       | 一     | 一       | 一           | 一       |

平 時 編 制 表

| 考 備               | 合 計 |   | 一 等 軍 曹 |       | 二 等 軍 曹 |         | 三 等 軍 曹 |       | 一 等 兵   |       | 二 等 兵 |       | 三 等 兵 |       |
|-------------------|-----|---|---------|-------|---------|---------|---------|-------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|
|                   | 計   | 員 | 曹 長     | 副 曹 長 | 一 等 軍 曹 | 二 等 軍 曹 | 三 等 軍 曹 | 上 等 兵 | 一 二 等 卒 | 一 等 兵 | 二 等 兵 | 三 等 兵 | 一 等 兵 | 二 等 兵 |
| 一 (ノ) 騎 兵 二 名     | 二   | 二 | 一       | 一     | 一       | 一       | 一       | 一     | 一       | 一     | 一     | 一     | 一     | 一     |
| 二 大 隊 中 尉 一 名     | 一   | 一 | 一       | 一     | 一       | 一       | 一       | 一     | 一       | 一     | 一     | 一     | 一     | 一     |
| 三 大 隊 中 尉 一 名     | 一   | 一 | 一       | 一     | 一       | 一       | 一       | 一     | 一       | 一     | 一     | 一     | 一     | 一     |
| 四 騎 兵 及 同 下 兵 一 名 | 一   | 一 | 一       | 一     | 一       | 一       | 一       | 一     | 一       | 一     | 一     | 一     | 一     | 一     |
| 計                 | 二   | 二 | 一       | 一     | 一       | 一       | 一       | 一     | 一       | 一     | 一     | 一     | 一     | 一     |
| 合 計               | 二   | 二 | 一       | 一     | 一       | 一       | 一       | 一     | 一       | 一     | 一     | 一     | 一     | 一     |
| 一 等 軍 曹           | 一   | 一 | 一       | 一     | 一       | 一       | 一       | 一     | 一       | 一     | 一     | 一     | 一     | 一     |
| 二 等 軍 曹           | 一   | 一 | 一       | 一     | 一       | 一       | 一       | 一     | 一       | 一     | 一     | 一     | 一     | 一     |
| 三 等 軍 曹           | 一   | 一 | 一       | 一     | 一       | 一       | 一       | 一     | 一       | 一     | 一     | 一     | 一     | 一     |
| 一 等 兵             | 一   | 一 | 一       | 一     | 一       | 一       | 一       | 一     | 一       | 一     | 一     | 一     | 一     | 一     |
| 二 等 兵             | 一   | 一 | 一       | 一     | 一       | 一       | 一       | 一     | 一       | 一     | 一     | 一     | 一     | 一     |
| 三 等 兵             | 一   | 一 | 一       | 一     | 一       | 一       | 一       | 一     | 一       | 一     | 一     | 一     | 一     | 一     |
| 計                 | 二   | 二 | 一       | 一     | 一       | 一       | 一       | 一     | 一       | 一     | 一     | 一     | 一     | 一     |
| 合 計               | 二   | 二 | 一       | 一     | 一       | 一       | 一       | 一     | 一       | 一     | 一     | 一     | 一     | 一     |

陸軍第六十四號

戰時騎兵一大隊編制表別表ノ通被定

明治二十年十二月三十一日

(別表)

陸軍大臣伯爵大山 熾

| 階級      | 大 隊 |       | 中 隊 |       | 大 隊(中隊計) |       |
|---------|-----|-------|-----|-------|----------|-------|
|         | 職員  | 馬卒人員計 | 職員  | 馬卒人員計 | 職員       | 馬卒人員計 |
| 大 尉     | 1   | 1     | 1   | 1     | 1        | 1     |
| 中 尉     | 1   | 1     | 1   | 1     | 1        | 1     |
| 少 尉     | 1   | 1     | 1   | 1     | 1        | 1     |
| 曹 長     | 1   | 1     | 1   | 1     | 1        | 1     |
| 一 等 軍 曹 | 1   | 1     | 1   | 1     | 1        | 1     |
| 二 等 軍 曹 | 1   | 1     | 1   | 1     | 1        | 1     |
| 上 等 兵   | 1   | 1     | 1   | 1     | 1        | 1     |
| 一 等 卒   | 1   | 1     | 1   | 1     | 1        | 1     |
| 二 等 卒   | 1   | 1     | 1   | 1     | 1        | 1     |
| 三 等 卒   | 1   | 1     | 1   | 1     | 1        | 1     |
| 計       | 5   | 9     | 1   | 1     | 1        | 1     |

| 考 備                           | 大 隊 |       | 中 隊 |       | 大 隊(中隊計) |       |
|-------------------------------|-----|-------|-----|-------|----------|-------|
|                               | 職員  | 馬卒人員計 | 職員  | 馬卒人員計 | 職員       | 馬卒人員計 |
| 一 中隊騎兵中少ヲシテ備工率純工率各二名ヲ含有ス      | 1   | 1     | 1   | 1     | 1        | 1     |
| 二 北隊員ハ各中隊ノ行李内ニ收ム              | 1   | 1     | 1   | 1     | 1        | 1     |
| 三 (イ)ハ上等兵炊事掛トス                | 1   | 1     | 1   | 1     | 1        | 1     |
| 四 (ロ)ハ大隊本部公用荷物及將校荷物ニ充ツ        | 1   | 1     | 1   | 1     | 1        | 1     |
| 五 (ハ)衛生材料馬ニシテ中隊中ノ騎兵率ニシテ之ヲ率カシム | 1   | 1     | 1   | 1     | 1        | 1     |
| 六 中隊大行李隊馬ノ配置下表ノ如シ             | 1   | 1     | 1   | 1     | 1        | 1     |
| 計                             | 17  | 26    | 1   | 1     | 1        | 1     |

| 大 隊       | 中 隊 | 大 隊(中隊計) |
|-----------|-----|----------|
| 騎 兵       | 1   | 1        |
| 野 戰 工 務 物 | 1   | 1        |
| 炊 事 具     | 1   | 1        |
| 馬 卒       | 1   | 1        |
| 計         | 17  | 26       |



法令全書

告示

○遞信省告示第一號

周防國玖珂郡室木郵便局ヲ室木村新港郵便局ト改稱ス

明治二十年一月四日

遞信大臣榎本武揚

○宮内省告示第一號

皇太后宮京都へ 行啓ノ節御發興日限及御道筋ハ左ノ通り

明治二十年一月六日

宮内大臣伯爵伊藤博文

一月十三日東京御發橫濱ヨリ海路神戸ヲ經テ京都へ御着  
還御ノ節ハ伊勢路ヲ經テ志州鳥羽港ヨリ海路還御

○大藏省告示第一號

金祿公債證書 五百圓 丙ノ號 七九壹七番 壹枚

右ハ岡山縣士族黒崎安太郎所有ノ分盜難ノ旨届出ニ付明治十九年五大藏省告示第四拾七號ヲ以テ  
其取引ヲ停止シタル内今般發見ノ旨届出ニ付自今右停止ヲ解ク

起業公債證書無記名 百圓 第壹號 券式四番 貳枚

右ハ東京府下寄留愛知縣士族前島富太郎所有ノ分所在不明ノ旨届出ニ付明治十六年六大藏省告  
示第五十四號ヲ以テ其取引ヲ停止シタル處今般發見ニ付自今右停止ヲ解ク

明治二十年一月十日

大藏大臣伯爵松方正義

○大藏省告示第二號

明治二十年一月 告示 遞信省第一號 宮内省第一號 大藏省第一號 第二號



中山道鐵道公債證書 千圓 拾號 八〇番 壹〇九番 壹〇九四番 五枚

右ハ鹿兒島縣士族緒方壯吉所有ノ分明治十九年十月三十日鹿兒島郵便局書留郵便ヲ以テ大阪府寄留同縣士族田尻逆ハ遞送ノ處到達不致所在不明

前書ノ通届出候條以後右證書一切取引ヲ爲ス可ラヌ且其所在見聞ノ者ハ速ニ所在地方廳ニ訴出該廳ヨリハ即當省へ届出ヘシ

明治二十年一月十日

大藏大臣伯爵松方正義

○大藏省告示第三號

起業公債證書無記名 百圓 第五號 三三六五番 壹枚

右ハ島根縣下山雲國能義郡東井里村戸長於テ管理ノ處十九年九月二十四日井里村洪水ノ節流失前書ノ通届出候條以後右證書一切取引ヲ爲ス可ラヌ且其所在見聞ノ者ハ速ニ所在地方廳ニ訴出該廳ヨリハ即當省へ届出ヘシ

明治二十年一月十一日

大藏大臣伯爵松方正義

○大藏省告示第四號

金祿公債證書 百圓 丙字號 壹八壹九番 壹枚

但明治十九年十一月當錄

右ハ東京府下寄留高知縣士族島弘毅所有ノ處東京府士族橋詰敏ハ預ケ置昨十九年一月以降十二月二十三日迄ノ間ニ於テ紛失

前書ノ通届出候條以後右證書一切取引ヲ爲ス可ラヌ且其所在見聞ノ者ハ速ニ所在地方廳ニ訴出該廳ヨリハ即當省へ届出ヘシ

明治二十年一月十二日

大藏大臣伯爵松方正義

○大藏省告示第五號

金祿公債證書拾圓 丙字號 六五四番 貳枚

右ハ山口縣士族前田忠吉所有ノ分同縣下阿武郡地福下村平民有井傳吉ハ預ケ中昨明治十九年十二月四日夜盜難

|           |     |      |       |    |     |     |       |    |
|-----------|-----|------|-------|----|-----|-----|-------|----|
| 金祿公債證書五百圓 | 丙字號 | 貳參壹番 | 壹枚    | 同  | 三百圓 | 丙字號 | 貳貳八番  | 壹枚 |
| 同         | 百圓  | 丙字號  | 壹〇五〇番 | 壹枚 | 同   | 丙字號 | 七〇六〇番 | 壹枚 |
| 同         | 同   | 丙字號  | 貳九參四番 | 壹枚 | 同   | 丙字號 | 貳七六八番 | 貳枚 |
| 同         | 同   | 丙字號  | 壹四參番  | 壹枚 | 同   | 丙字號 | 貳九五〇番 | 貳枚 |
| 同         | 五拾圓 | 丙字號  | 壹四參番  | 壹枚 | 同   | 丙字號 | 七六六八番 | 壹枚 |
| 同         | 貳拾圓 | 丙字號  | 貳六五九番 | 壹枚 | 同   | 丙字號 | 貳九七七番 | 貳枚 |
| 同         | 同   | 丙字號  | 六六九番  | 壹枚 | 同   | 丙字號 | 貳九八番  | 貳枚 |
| 同         | 同   | 丙字號  | 八七番   | 壹枚 | 同   | 丙字號 | 八〇八九番 | 貳枚 |
| 同         | 同   | 丙字號  | 壹七〇〇番 | 壹枚 | 同   | 丙字號 | 八〇九〇番 | 貳枚 |
| 同         | 同   | 丙字號  | 八〇四〇番 | 壹枚 | 同   | 丙字號 | 貳五七九番 | 壹枚 |

但十九年十二月當錄

右ハ鹿兒島縣下ニ於テ大坂府下黒川元吉買受同人記名鹿兒島縣廳檢印濟明治十九年十月三十日郵便書留鹿兒島郵便局ヲ經テ大坂府下へ遞送途中紛失

起業公債證書無記名五拾圓 第參號 參壹四九番 壹枚

右ハ山口縣下大島郡東安下庄村平民青木東輔所有ノ處明治十九年九月二十八日同縣下吉敷郡山口町ヨリ自宅ニ至ル途中紛失

前書ノ通届出候條以後右證書一切取引ヲ爲ス可ラヌ且其所在見聞ノ者ハ速ニ所在地方廳ニ訴出該廳ヨリハ即當省へ届出ヘシ



十六年發行金札引換公債當籤證書記番號

百圓と號  
 自八五〇番 至八六〇番  
 自八六〇番 至八七〇番  
 自八七〇番 至八八〇番  
 自八八〇番 至八九〇番  
 自八九〇番 至九〇〇番  
 自九〇〇番 至九一〇番  
 自九一〇番 至九二〇番  
 自九二〇番 至九三〇番  
 自九三〇番 至九四〇番  
 自九四〇番 至九五〇番  
 自九五〇番 至九六〇番  
 自九六〇番 至九七〇番  
 自九七〇番 至九八〇番  
 自九八〇番 至九九〇番  
 自九九〇番 至一〇〇〇番

○司法省告示第一號

代官出願人試驗ノ儀ハ自今出願ノ都度之ヲ爲サメ毎年四月ヲ以テ執行ス

明治二十年一月十四日

司法大臣伯爵山田顯義

○遞信省告示第二號

本年二月一日ヨリ攝津國川邊郡木間生郵便局ヲ同郡木津村ニ移シ木津郵便局ト改稱ス

明治二十年一月十八日

遞信大臣榎本武揚

○遞信省告示第三號

明治十九年第五百十五號告示水液脂肪類見木ヲ交換シ得ル國名中バルガリアヲ追加ス

明治二十年一月十八日

遞信大臣榎本武揚

○遞信省告示第四號

客年十二月中西洋形船へ左ノ通信號符字ヲ贈附ス

明治二十年一月十八日

遞信大臣榎本武揚

| 信號符字 | 免狀番號    | 船名                   | 種類 | 埠頭     | 船主氏名  |
|------|---------|----------------------|----|--------|-------|
| HGDW | 九八三     | 第一號 No. 1, Juko Maru | 帆  | 土佐國高松村 | 池川力太郎 |
| HGFB | 九八四     | 周南丸                  | 汽  | 周防國床波  | 加藤精一  |
| HGYO | 九八五 985 | 豐國丸 Toyokuni Maru    | 汽  | 東      | 京高瀬忠昭 |

○陸軍省告示第一號

本年徵兵適齡者ニシテ他ノ府縣ニ寄留スル者其地ニ於テ徵集ニ應セント欲スルトキハ其地ニ居住スル者ヲ以テ證人ト爲シ來ル三月十五日迄ニ戶主ヨリ其旨ヲ本管廳ニ願出可シ但徵兵令第三十五條ノ屆書ハ寄留地ノ戶長ニ差出ス可シ

明治二十年一月十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○遞信省告示第五號

本月三十一日限り土佐國土佐郡戸中郵便局ヲ廢止ス

明治二十年一月十九日

遞信大臣榎本武揚

○大藏省告示第七號

起業公債證書無記名 五拾圓 第壹號 壹九九六番 壹枚  
右ハ福井縣越前國坂井郡坂井淡下真砂町平民廣瀨直太郎所有ノ處昨明治十九年六月以降自宅ニ於テ紛失

金祿公債證書百圓 丙五號 四〇〇番 貳枚 同五拾圓 丙五號 貳〇四番 壹枚

同 拾圓 丙七號 自五九九番 三枚

右ハ愛媛縣饒岐國香川郡南龜井町瀬川政次郎所有ノ處同郡天神前植松正造保管中昨明治十九年五月ヨリ同年十一月迄ノ間ニ於テ紛失

前書ノ通届出候條以後右證書一切取引ヲ爲ス可ラス且其所在見聞ノ者ハ速ニ所在地方廳ニ訴出該廳ヨリハ即當省へ届出ヘシ

明治二十年一月二十日

大藏大臣伯爵松方正義

○大藏省告示第八號

群馬縣下前橋第三十九國立銀行備明治二十年一月二十日ヲ以テ東京府下日本橋區小網町貳丁目三番地ニ支店ヲ設置ス

明治二十年一月二十日

大藏大臣 伯耆松方正義

○遞信省告示第六號

豐前國下毛郡上植野郵便局ヲ植野郵便局ト改稱ス

明治二十年一月二十四日

遞信大臣 榎本武揚

○宮内省告示第三號

今二十四日 御發給 御延引 仰出サル

明治二十年一月二十四日

宮内大臣 伯耆伊藤博文

○宮内省告示第四號

京都 行幸ニ付 御發給ハ明二十五日午前七時ト 仰出サル

明治二十年一月二十四日

宮内大臣 伯耆伊藤博文

○遞信省告示第七號

今般愛知縣尾張國知多灣口御崎ト日間賀島トノ間ナル航路ノ東方ニ方ル角石礁上ニ立標一基ヲ建設ス

一 該立標ハ三幹柱鐵架製ニシテ其頂圓板ヲ鐵キ全部白色其礎ヨリ高サ二丈五尺ナリ

二 角石礁ハ大潮時ニ於テハ水面ヨリ低キヲ凡四尺大低潮時ニ於テハ露出スルヲ凡二尺五寸ナリ

一角石礁ヨリ真方位南十八度三十分東ニ方リ其距離凡三鏈ノ處ニ下瀬ト稱スル暗礁アリ

明治二十年一月二十六日

遞信大臣 榎本武揚

○大藏省告示第九號

起業公債證書無記名 五拾圓 第參號 參壹四九番 壹枚

右ハ山口縣下大島郡東安下庄村平民青木東輔所有ノ分紛失ノ旨届出ニ付本月大藏省告示第五號ヲ以テ其取引ヲ停止シタル内今般般自宅ニ於テ發見ノ旨届出ニ付自今右停止ヲ解除ス

明治二十年一月二十七日

大藏大臣 伯耆松方正義

○遞信省告示第八號

明治十九年當省令第十三號ニ掲グル信號器中號角ハ其長一尺三寸以上其徑三寸以上又號鐘ハ其徑六寸六分以上ノモノトス

明治二十年一月二十七日

遞信大臣 榎本武揚

○司法省告示第二號

明治十九年用ニ司法省令甲第五號中第二號書式ニ(印鑑何國何郡何町何番地何基トアルハ印鑑用紙ノ書式ヲ示シタルモノニシテ其用紙ハ括弧内ニ記セルカ如ク堅五寸横一寸ノ厚紙ヲ用ヒ其上端ヲ印鑑證明願書用紙ニ貼付スルモノトス又(印鑑トアル上ニ記載セシ區役所又ハ局長役場ノ印トアル印形ハ印鑑用紙ヲ貼付シタル合目ニ捺捺スヘキ其役所役場ノ印ヲ示シタルモノナリ

明治二十年一月二十八日

司法大臣 伯耆山田顯義

○大藏省告示第十號

津和野第五十三國立銀行ノ備明治二十年二月一日ヲ以テ山口縣下周防國三田尻福聚町五百三十五